2018年度 法政大学
ボランティアセンター活動報告書

HOSEI University
Volunteer Center
10th

法政大学ボランティアセンター

2018 年度 法政大学ボランティアセンター 活動報告書　目次

2018 年度ボランティアセンター活動報告

巻頭言（伊藤マモル　全学ボランティアセンター長）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
10 周年によせて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
ボランティアセンター10年の歩み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
ボランティアセンターについて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
2018 年度来室者集計　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

市ケ谷ボランティアセンター活動について

2018 年度　市ケ谷ボランティアセンター運営委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・11
2018 年度　市ケ谷ボランティアセンター活動の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・12
2018 年度　市ケ谷ボランティアセンターイベントカレンダー　・・・・・・・・・・・・14
2018 年度　活動の報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

多摩ボランティアセンター活動について

多摩ボランティアセンターの活動の概要（橋本　到　　多摩ボランティアセンター長）・・・99
イベントカレンダー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・102
2018 年度　活動の報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・104

小金井ボランティアセンター活動について

小金井ボランティアセンター活動の概要、活動総括（田村　信幸　小金井ボランティアセンター長）・・139
2018 年度小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度　・・・・・・・・・・・・・141

2018 年度 法政大学ボランティアセンター活動報告・巻頭言

法政大学ボランティアセンター長　伊藤マモル

実践知を育むボランティア

はじめに

法政大学ボランティアセンターの 2018 年度報告書をお届けします。この報告書から表題の含意をお汲み取りいただき、教育や研究に通ずる多くのヒントや新たなボランティア活動のアイディアが得られれば幸いです。

2018 年度は東京オリンピック開催が迫る中でボランティアに対する注目度がアップしました。法政大学では、2009 年に 3 キャンパス（市ケ谷・多摩・小金井）同時にボランティアセンターが設立され、熱い志をもった学生の様々な活動の積み重ねによってボランティアセンターは大きく成長してきたと思います。その活発な活動の様子は TV や新聞などのマスコミにも注目されるようになりました。まさにボランティアセンターは法政大学を代表する顔の一つになったと言えるのかもしれません。

この 10 年の道のりを学生たちとともに歩み、活動の種を蒔き花を咲かせてこられたのは、学生たちの活動を理解し受け入れて下さった地域・NPO・企業・行政に関わる多くの皆様からの多大なご支援ご指導があったからこそです。まずは心より感謝を申し上げます。また、学生たちがボランティア活動を成功させるために思い迷いながら実行に移すまでの過程で、自らの限界を知り、そしてそれを乗り越えていく姿を近くで見守り、時にはその背中を押して下さった歴代の職員や教員の皆様のご尽力にも改めて御礼申し上げます。

活動の概要

2018 年度の活動は各キャンパスの地域性に合わせて行なわれました。学生たちの活動は例年にも増して多岐にわたり、キャンセル待ちが出るほどの人気企画もありました。活動の主たるものとして、「地域」、「児童福祉」、「震災復興」、「環境保護」が挙げられます。これらの中には 3 キャンパスに跨る活動もあれば、各キャンパス独自の活動もあり、地域に密着し定着した活動は、地元の当たり前の風景になっており、法政大学の存在感を高めている感があります。

例えば、被災した地域の支援においては、市ヶ谷キャンパスのボランティア団体が岩手県の海岸線の南北に点在する釜石市、大船渡市、陸前高田市、気仙沼市から内陸にちょうど扇子のように位置する遠野市をベースに活動を行っています。東日本大震災から 8 年が経ち、この地域を訪れるボランティア団体の数が大幅に減少した中で、「今年もオレンジ色のビブスを着た学生が来ている」「法政大学さんが来るのが楽しみだ」と言われるまでになっています。多摩キャンパスのボランティア団体も昨年を上回る活動を行いました。特筆すべきは、熊本地震（平成 28 年）によって被災した地域の避難所や仮設住宅での活動が挙げられます。また、東北の気仙沼市では市民の皆様から熱望され、学生たちが自己資金で足を運び熱心な活動を継続しています。こうした彼らの姿はある時期の風物詩のように地域に溶け込んでいるのです。

学びの場：教学との連携

ボランティアセンターに携わる以前の私はボランティアにはまったくの門外漢で、ボランティア活動は知識・経験・労力を提供するものだという認識を持っていました。しかしながら、学生たちの活動を見守る中で、実は学生たちが活動から受ける恩恵の方が圧倒的に大きく、ボランティア活動は多種多様な問題を解決するためのアクティブ・ラーニングに他ならないことに気づかされました。

近年、ボランティア活動の支援や「サービス・ラーニング」と呼ばれるボランティア教育に力を入れる高等教育機関が増加している背景には、地域貢献の活動へ参加することが学生にとって大学での学びへの関心と理解を高めるとともに人間的・社会的な成長に寄与するという期待があります（桜井政成：2007 年，立命館高等教育研究，No. 7，21-40）。

ボランティアの現場では多種多様な人々との出会いがあり、他人と接し理解する過程は自分を問い直すことにもつながります。また、日常とは異なる環境に踏み込めば、そこに適応して活動することが必然であることを受け止めなければなりません。多様性であるがゆえに非効率な多くの問題が次々に見つかり、それを共有し発信する過程で適切なコミュニケーション能力が醸成されます。ここに Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）を通じた活動経験が育まれていきます。

このような学びを教室で具現化する是非はともかく、教学の立場からボランティアを良い意味で利用する価値は高いと考えています。一見、教学とは無関係に思われますが、専門的・科学的な知見をフィールドワークとして落とし込むことは有益な教育手段でもあります。ボランティアセンターの展望を開くためにも教育とボランティア活動の融合は将来的には不可欠であると思われ、このことにご賛同ご協力いただける教員との連携を前向きに進めることもボランティアセンターの使命だと思います。

大学と共有すべき課題

ボランティアを通じて知り合った多くの学生たちの成長を目のあたりにして、卒業後のキャリア形成にボランティアがどのような影響を及ぼしたのかを検証したいという衝動に駆られます。そう思わせる変容がほとんどの学生に見られることを実感しているわけですが、そのようなボランティア活動の効果を知らない学生が大勢を占めているのも事実です。また、直接現地を訪れなくても参加できる活動（ボランティア対象に関する知識を深める、情報の共有や発信、物産展に携わる、観光で訪れるなど）が無限にあることを発信していくこともボランティアセンターが取り組むべき今後の課題です。

活動の概要の例示からも明らかなように、学外から高い評価を得ているボランティア活動は体育会やサークルなどの課外活動とは一線を引くものと言え、大学のブランディングに直結しているとの見方もできます。このことが間接的に将来的な大学価値をいかに高めるかは図り知れません。

しかし、この活動を支えているのは学生の自発的な自己資金による参加に頼っているのが実情です。ボランティアセンター公認団体の学生たちが奮闘し、様々な協力者を求め、民間団体からの助成金や公的機関からの補助金などに果敢に挑戦して実績を積んできていますがそこには限界があります。大学における財政的な状況が厳しい中、今後の活動の大きな障壁となる学内予算の獲得はボランティアセンターにとって近々の大きな課題であることをより多くの教職員の皆様にご理解いただき、何らかの形でご協力を賜りたいと願う次第です。

今後の展望

今回の報告書は学生への支援効果や学生が赴いた活動の現場への影響を検証するまでには踏み込んでいませんが、今後の支援の在り方を検討するための基礎的資料となり、学生とともにボランティアセンターが存在する意義や次の 10 年で目指す姿をどう描くのか、そのための適切な学生との関係性を構築する上ではたいへん重要な資料になると思います。

グローバル化が叫ばれ外向き志向に走る我が国ですが、日本の基盤が揺らげば外向きのエネルギーを持続的に発揮することはできなくなります。法政大学として重要なことは、未来の日本を支えるために身近な地域との連携を深めるだけでなく、少子高齢化で衰退する可能性が高い地方を支えるためにボランティア活動の軸足を置くことではないでしょうか。すなわち、法政大学が掲げる「自由と実践知」を具現化する一つの場を学生や教職員に提供することがボランティアセンターに求められる使命であり、ボランティアセンターが法政大学の基軸組織として見直されることになろうと思います。

ボランティアセンター10周年によせて

ボランティアセンターは 2007 年秋に文部科学省学生支援 GP「『学生の力』を活かした学生支援体制の構築」の採択、「ボランティア支援プロジェクト」の発足を受けて、2009 年 4 月に３キャンパスに開設されました。ボランティアセンター開設当時は年間約４０のプログラムを学生と共に実施しておりましたが、10 周年を迎える今年はボランティアセンタースタッフとして定期的に活動している学生も３キャンパス合計で 70 名を超え、プログラム数も 150 を超えるほど大きく成長しました。

ここまでボランティアセンターが成長することができたのはボランティアセンターに所属する学生スタッフの活躍はもちろんのこと、ボランティアセンターの活動にご理解・ご協力いただいている、企業・地域の皆様、運営に携わってきた教職員の皆様のおかげと考えています。御礼申し上げます。

2020 年には東京 2020 オリンピック・パラリンピックもあり、ボランティアへの気運は益々高まっていて学生スタッフ、ボランティアセンターの役割も益々大きなものになっていくと考えられます。ボランティアセンターは学生スタッフと共に多くのプログラムを提供することを通じて、地域・社会貢献、学生の成長の一助になるようにこれからも益々努力していきたいと考えておりますので皆様の変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

ボランティアセンター１０年の歩み ①　～ボランティアを振り返って今思うこと～

労働でもなく仕事でもなく、活動がしたい。そんな思いのなか関わった法政大学ボランティアセンター。
そして今、私は演劇人である。活動拠点は、富山県南砺市利賀村。500 人弱しか居住者のいない山村。そこで今夏、芸術の祭典、第９回シアター・オリンピックスが日本・ロシアで共同開催される。「人間とは何か、我々はこれからどんな未来に向かって生き、何が必要とされるのか」。ボランティア精神は今でも続いている。

2009 年度ＶＳＰ代表
飯塚　佑樹

当時を振り返ると、具体的な活動内容が決まっていない中で、自分たちに何ができるのかを考え話し合いながら、手探りで様々な活動を行いました。成功も失敗もいい思い出です。
昨夏には当時のメンバーで東北旅行に行き、遠野ビールと海鮮料理を楽しんできました。卒業後もこうした形で東北と関われているのは非常に嬉しい事です。一生懸命取り組んだ経験は今後の人生に役立つと思いますので、学生の皆さんも全力で頑張ってください。

2011 年度チーム・オレンジ代表
髙坂　宣雄

この度はボランティアセンター10 周年、おめでとうございます！
諸活動に積極的に取り組まれている姿は、今でも VSP のツイッターで時々拝見しています。
私が作ったツイッターアカウントを今も使っていただき嬉しく思います。私はここで活動した思い出や意欲が現在の社会人生活に活かされていると感じています。皆様も時間に余裕を持てる今だからこそできることを、なんでも思い切りやって、思い切り学んで、思い切り学生生活を楽しんでください！

2015 年度ＶＳＰ副代表
鈴木　唯

ボランティアセンター開設 10 周年、誠におめでとうございます。
卒業した今でも、私にとってボランティアセンターは大学で一番好きな場所と言っても過言ではありません。
私は VSP で約２年間活動しましたが、様々なジャンルのボランティアに取り組んだり、代表として組織運営に携わったりと、非常に刺激的で充実した時間を過ごすことができました。このような経験ができたのも、ボランティアセンターが学生に開かれた場所であり、いつも温かく見守って下さる職員さんや優しい仲間がいてくれたからだと考えています。今年度も変わらず誰かの役に立ちたいと考える学生が集い、和気藹々と且つ活発な議論が行われる場である事を願います。

2017 年度ＶＳＰ代表
植原　里佳

このたびは、市ヶ谷ボランティアセンター10 周年おめでとうございます。
ボランティアセンター学生スタッフでの活動はとても有意義な時間でした。学生スタッフとして、学内はもちろん、他大学の学生や地域の方々などとも、ボランティアセンターの方々の援助をいただきながら様々な活動ができました。
お世話になりました。
今後も、ボランティアセンターの益々の発展をお祈りしています

2015 年度ＶＳＰ代表
池上　太陽

10 周年おめでとうございます。私はチーム・オレンジのメンバーとして４年間活動しました。東北の復興支援を通して普通の大学生活ではできないような貴重な体験をたくさんさせていただきました。これからの長い人生においてもこの経験は一生忘れないでしょう。先輩から後輩へ受け継がれる法政大学のボランティアの歴史に関われたこと、大変光栄に思います。これからも次世代の皆さんのご活躍を期待しています。

2018 年度チーム・オレンジ代表
小堺　淳平

10 周年、おめでとうございます。
私は、2015 年度からチーム・オレンジに所属し、東日本大震災の復興支援活動に取り組みました。
それを通して多くの出会いがあり、計画性やコミュニケーション能力を伸ばすことができました。
後輩の皆さんが活動を通して成長すること、多くの出会いに恵まれること、そして、それをボランティアセンターの職員さんが引き続きサポートして下さることを願っています。

2017 年度チーム・オレンジ副代表
國分　晶彦

この度は 10 周年誠におめでとうございます。いつも温かく迎えてくださる職員の皆様や仲間達のおかげで、特別な用事もないのについ顔を出してしまう、そんな場所でした。また、自団体だけでなく、VSP という切磋琢磨できる仲間の活動にいつも刺激を受けていました。
10 周年という節目を迎えられたボラセンが、またこれからも 10 年、20 年と学生達に学びの場を提供してくださることを切に願っております。

2017 年度チーム・オレンジ副代表
清水　円

2009 年度

2009 年度

※掲載順はランダムになっています。ご了承ください。

ボランティアセンター１０年の歩み ②　～ボランティアを振り返って今思うこと～

東日本大震災。当時の私にとってはテレビの中のニュースに過ぎませんでした。
大学生となり興味本位で被災地へ訪問しました。東京に戻った私は防災啓発活動に力を入れていました。現地には私を突き動かした「なにか」がありました。
みんなには新時代を生きる多くの人に「なにか」を伝える活動を継続して欲しいです。
震災の教訓は平成に置き去りにしてはいけません。

2017 年度チーム・オレンジ副代表
新堀　剛

東日本大震災から８年が経ち、現地でのボランティアや東京での活動に変化が求められているのは確かです。
その今年度の私の目標は主に２つです。ひとつは、今後のチーム・オレンジのために、できるだけ多くの資料を残すこと。もうひとつは、これまでの活動を踏まえて、参加者に最高のボランティア活動を提供することです。３年間の総まとめとして、悔いのないよう全力で精進して参りたいと思います。

2019 年度チーム・オレンジ副代表
白川　直樹

チーム・オレンジに所属し、私は様々な活動をしてきました。東日本大震災によって被害を受けた地に赴き、被災された方のお話を聴く。そしてそこで学んだ事を伝えていく。とても貴重な経験です。震災から時が経過していきますが、私は現地に訪れて学び、それを伝承していく事は継続していくべきだと思います。
10 周年となったボランティアセンターでの活動がさらに活発となるよう、伝統を守りつつ時代の流れに対応して日々を過ごしていきます。

2019 年度チーム・オレンジ代表
鬼頭　雅也

何となく新しいことに挑戦したい、そんな思いでボランティア活動を始めました。それでも、ここで私は被災地の現実を知り、多くの人と出会い、仲間との協力し、自分の信念を持てました。動機は立派じゃなくていいんです。偽善と言われても気にしないでください。行動できたことが素晴らしくて、更に何か感じそれを伝えようとしたならば、そんな自分を誇らしく思ってください。
これからの活動に期待を込めて。

2018 年度チーム・オレンジ副代表
胡　祉怡

東北支援を継続的に活動していく中、現地の被災された方々のお話を聞き、防災、減災の重要性を痛感しました。
チーム・オレンジには法政大学、千代田区や首都圏地域に防災の知識を広めていく使命もあると考え、防災啓発活動を新たに始めました。
「遊びながら、防災学習」をテーマに「防災クイズカルタ」というゲームを作りました。カルタは、毎日新聞に取り上げていただいたり、NPO や区のイベントでの実演の機会をいただきました。
ボランティア活動を通じ、一般的な大学生活では味わえなかったであろう様々な経験を積ませていただきました。

2018 年度チーム・オレンジ代表
大竹　富弥彦

私は 10 年間のボランティアセンターの歴史の中で見ると、少しの期間しか活動することができていませんが、その時間は私にとって特別なものです。
いつも温かく見守ってくださるボランティアセンターの職員方と共に、これからも精一杯歩んで参りたいと思います。

2019 年度チーム・オレンジ副代表
木全　俊介

2015 年度

2018 年度

１０周年おめでとうございます！
私は、ベイラー大学とバイタル・プロジェクトさんをつなげる役割を担う活動をし、多くの感謝をいただき、嬉しい気持ちになりました。ボラセンでの出会いや活動は楽しく、自分の将来への糧になるものばかりです！！
これからも継続した活動をし、いろんな方にボランティアに興味を持っていただけるよう、広めていきたいと思っています。

現ＶＳＰスタッフ
佐久間 喜望

ボランティアセンター10 周年おめでとうございます。私自身、VSP の活動を通して、大きく、成長することができました。
私が在籍した VSP は大きく成長し、進化していきましたが、次の 10 年間でも、VSP をはじめとした、ボラセンの団体が大きく飛躍していくと確信しています。在校生の皆さんはボラセンをより盛り上げていけるように頑張ってください！それが、充実した大学生活に繋がるはずです！

2018 年度卒業ＶＳＰスタッフ
阿由葉史弥

2013 年度

ボランティアセンター１０年の歩み ③　～ボランティアを振り返って今思うこと～

私は現在ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)として活動しています。
この１年間様々な企画に携わらせていただき、今まで知らなかったことを知ったり、普段簡単にはできないような体験をさせていただいたりしました。今後は学生の皆さんに「この企画に参加して良かった」と思っていただけるような企画を考え実行していきたいです。

2019 年度ＶＳＰ副代表
齋藤　真悠

高齢者施設での行事の手伝いで、普段施設に若者が少ない為、「大学生が来てお話をする」というだけで喜んでくださったことが印象的でした。また、利用者の方と関わる中で、私自身高齢者支援について学ぶきっかけとなりました。
この活動を通じて、ボランティアは支援を受ける側のためだけではなく、支援する側にも学びや発見があることが分かりました。
所属している間大変お世話になり、ありがとうございました。

2014～2015 年度
多摩ボランティアセンター
学生スタッフ代表　中根　千秋

10 年前の先輩達、職員さんへ
みなさんのお陰でこの度ボラセンは10 年目を迎えます。
最近はボランティアに関わる学生が増え、これまで以上の盛り上がりを見せています。来年には東京オリンピック・パラリンピックが行われ、更なる進化を求められています。
10年目にいる私達は何ができるのか。
次の 10 年に繋がりますように。
ボランティアセンター10 周年おめでとうございます。

2019 年度ＶＳＰ代表
藤山　雄多

私は先日（2019 年2月 23,24 日）開催された 55・58 フェアウェル Days において VSP の 55・58 年館で行われた過去企画の紹介という形で資料を作成し、それと共に過去 10 年分の活動報告書を読む機会がありました。この 10 年間の活動の中には手話講座など現在も続く講座や企画が多くあり、また過去の企画には自分の発想には無い、刺激を受けるような企画も多数ありました。今まで先輩方によって繋がれてきた伝統を引き継ぐと共に、これからも多くの学生にとって参加してみたいと思ってもらえるような魅力的で画期的な企画を作っていきたいと思います。

2019 年度ＶＳＰ副代表
河野　慎平

私がボランティアセンターの活動を通して感じた事は、「ボランティアはボランティアではない」という事です。
世間一般では、まだボランティア活動という言葉から「無料の奉仕」を連想する人が多いと思います。かつての私もそうでした。
ですが、ボランティアセンターの活動は奉仕という言葉では内包できない、たくさんの体験をしました。まだ１年間ではありますが、その沢山の体験から得たものは大きいです。
これからもその奉仕だけではない、ボランティア活動を通して沢山の経験を獲得していきたいです。

現 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ 海老沢　真由

私が活動しているチーム相原では竹カフェというイベントを行っています。地域の方と楽しくお話をしながら交流を深められるのでやりがいがあります。昨年はカフェ椿や相原駅での竹あかりというイベントに参加させて頂き、地域の方と関わる機会がたくさんありました。こうした活動を重ねてイベントに誘って頂いたり、コラボレーション企画をさせて頂いたりするので地域に貢献できているという実感ややりがいがあります。

現 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ 吉井 妙英

私がボランティアセンターの学生スタッフになり１年が経ちましたが、そのおかげで忙しくも充実した学校生活を送ることができました。地域交流会の企画チームの一員として活動したり、司会や学生代表の挨拶を任せて頂いたりと、今まで経験したことないような貴重な機会に恵まれました。他の学生スタッフの仲間や職員の方、そして地域の方々が私たちの活動に賛同し、協力してくださるからだと日々実感しています。今後も沢山の方と繋がりを深めながらボランティアセンターを盛り上げていければと思います。

現 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ 宮下　なつ

2011 年度

2011 年度

※掲載順はランダムになっています。ご了承ください。

ボランティアセンター１０年の歩み ④　～ボランティアを振り返って今思うこと～

私は大学に入ってからこれまで相原地区や町田市を中心とした地域の活動や熊本県益城町を中心とした被災地の活動に力を入れてきましたが、地域では「あの先輩は今どうしてる？」「私もボラセンの OB なんだよ。」「以前出てたイベントにまた出てきてよ。」などと声を掛けていただくことが多くあり、多摩ボランティアセンターと地域との歴史ある絆を感じることができました。また被災地では「今年も来てくれてありがとう。」「いつも来てくれる法政さんだよね。」と多摩ボランティアセンターの学生スタッフが築き上げてきたものがたくさん見えました。これからも地域やボランティア先である被災地、施設、イベントでお会いした皆さまに愛され続ける多摩ボランテアセンターでありたいです。

2019 年度 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ代表 橋本　空

私は主に、子どもイベントの企画をする「たまぴよ」での活動を中心に行ってきました。1 つのイベントを企画するためには、活動先の方と密に連絡を取り合ったり、当日の材料を用意したり、ターゲットに合わせた企画内容を考えたりと、準備の大変さを実感しました。毎回、多くの子どもたちや親御さんが参加してくださり、一緒に楽しむ中で、とてもやりがいを感じています。これからも、ボランティアセンターの活動に尽力していきたいです。

現 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ　古沢　公実

10 周年おめでとうございます。
僕はこのボラセンからさまざまなボランティアに関わらせて頂き、日々の座学と同じような価値のあるものを学ばせてもらっています。特に気仙沼被災地支援は僕の中では、ボランティアの意義を見出だすことができ、大きな存在になっています。10 周年に向け、その意義を大切にしこれからも活動に励んでいきたいと思います。

現 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ　坂本真悟

「ボランティア」という言葉が日本で広がったのは、阪神・淡路大震災が起きた頃でした。私自身も 2011 年に起きた東日本大震災を経て、ボランティア活動に興味を持ちました。今日では「ボランティア」には多様な姿が見て取れます。しかし、被災地支援でも、地域ボランティアでも、子どもボランティアでも、私たちがそれを続ける理由の根底にあるものは、「そこでの人々の繋がりが、美しいもの、尊いものであると感じるから」です。「ボランティア」は慈善活動という意味を持つだけでなく、一つの新しいコミュニケーションスタイルでもあると私は考えています。

現 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ　児玉　務

ボランティアセンターの活動を通して、「ボランティアの必要性」を強く感じました。ボランティアを行うと、そこにはいつも、「ありがとう」という言葉が飛び交い、人と人が繋がっていきます。その光景はとても慈愛に満ちており、人の温かさを感じる節でもあります。こういった光景は、個人主義が浸透している現代に、ヒトとしての在り方や人情の豊かさを再発見させる好機のように思えます。今を生きる私たちにとってボランティアは、非常に必要性が高いものだと私は感じたのです。今後も、人と人の繋がりを噛み締めながらボランティア活動に精進していきたいと思います。

現 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ　小森　滉太

私は、地域でのボランティア活動に取り組みたいと思い、昨年ボランティアセンターに参加しました。
私が参加させていただいた「竹あかりの街 相原」という企画では、地域の方や他大学と協働で竹灯籠の制作を進めました。活動の中では地域の方からアドバイスをいただいたこともあり、より一層頑張ろうと思えました。作業が終わり、実際に駅前に竹灯籠が設置された際は、達成感を感じました。これからも地域と共にボランティア活動に取り組みたいと思います。

現 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ　森　義智

2015 年度

2018 年度

2017 年度

ボランティアセンターでの活動を通して、「人と出会い、繋がる」という体験をしました。ボランティアで知り合った地域の方々は、私の人生で出会うべくして出会ったご縁のある方々だと思っています。入学当初、ボランティアは他者の為や自己満足の為に行う社会活動だと感じていました。ボランティアセンターで体験した地域の人との出会いは、新たなコミュニティを作り、人の輪を広げる力があることを実感しました。今後もボランティアセンターの学生と地域が手を取り合い、沢山の人の輪が広がっていくような取り組みができればと願っています。

現 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ　千田　佳奈

ボランティアセンター１０年の歩み ⑤ ～ボランティアを振り返って今思うこと～

私は昨年９月に気仙沼大谷海岸で行われた花火大会のボランティア活動に参加しました。今までボランティア活動自体ほとんどしてこなかった自分にとって初めてとも言える本格的なボランティア活動でした。最も印象深く感じたことは現地の人々は復興に向けて前を向いているということです。私は今回の活動で気仙沼に行き、まだ完全に復興していない市街地を見ることで少なからず暗い気持ちになりました。震災時気仙沼にいなかった私でさえそう感じたわけですから、震災時その場にいた人たちはもっと辛い想い、暗い気持ちになったに違いないはずです。しかし、私が見た彼らの姿は震災の現実を受け止めながらも復興に向けて歩みを進めている姿でした。その姿を見て私まで勇気をもらうことができました。

この気仙沼でのボランティア活動を通じて、私はボランティア活動に参加することへのやりがい、意義をまたひとつ見出せたような気がしました。

現 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ　太田　知希

私は、高校生の頃から自分でボランティアを企画してみたいという漠然とした思いがあり、ボランティアセンターならそれができるということで学生スタッフになりました。

しかし、実際に企画しようとすると、何から始めれば良いのかさえ分かりませんでした。そんな時、先輩が繋がりのある施設の方を紹介してくださり、それを機に具体的に構想できるようになり、現在の活動につながっています。私がボラセンの学生スタッフになったこと、先輩と知り合ったこと、先輩が施設の方と繋がりを持っていたこと。どれが欠けていても、今の活動は存在していません。

人同士の繋がりがいかに大きな意味を持つのか。この一年で、人生における大きな学びを一つできたと感じています。

現 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ　渡邉　萌香

「自分の興味のあることが分かり、将来やりたいことが見つかった」ボランティアセンターでの活動で私が感じたことを総括するとこれに尽きると思います。

私は入学当初子どもと遊ぶことが苦手だと思っていました。しかし被災地などで子どもたちとかかわるにつれて考え方が変化し、児童福祉に関連する職業に就きたいと思うようになりました。ボランティアを通して、できる限り多くの方と出会い、相手にとっても自分にとっても魅力ある活動を展開していけたらと考えています。

現 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ　富所　美羽

ボランティアセンターの活動をしていく中で、今の自分がやりたいと思える活動を心から楽しくできていることがとても嬉しいです。入学した頃には、３年後の自分がこんなに楽しくボランティアをしているなんて想像もしていませんでした。私の学生生活の中で学生スタッフとして地域の方々、同じ学生スタッフの学生と一緒に活動してこれたことの１つ１つが、本当に大切にしたいものになりました。

現 多摩ボランティアセンター
学生スタッフ　鈴木　琴音

現在、私は大学院へと進み、修士論文制作の過程では、ボランティアセンターでの学びが本当に大切なものだったと再確認しています。

町田市の相原地区地域活性化案（魅力づくりコンテスト）に参加した事は印象的です。私は学生スタッフとして、実際に地域の人と出会った事で得た多くのコト・モノを糧に『地域交流「森カフェ」』という地域と学生が繋がれる交流の場を創生する企画をメンバーと一緒に創り上げました。優秀賞をいただき、翌年、女子美術大学との協働企画『地域交流行事あいはら“ワクワク”竹学校』へと続いたことの喜びは、今も色褪せない記憶となっています。

活動をとおして地域や協働した他大学方々から得た学びや経験は、今の自分、今後の自分の人生の大きな財産です。

本当にみなさんありがとうございました。

2015～2018 年度
多摩ボランティアセンター学生スタッフ
現大学院人間社会研究科 清水　信夫

2015 年度

2016 年度

2014 年度

2016 年度

※掲載順はランダムになっています。ご了承ください。

ボランティアセンターについて

1　活動内容

（1）ボランティアコーディネート（情報収集／情報提供）

大学に数多く寄せられるボランティア情報を審査し、学生が活動するのに適したボランティア情報を厳選して、掲示板／ラック／ファイリング／メーリングリスト等で公開しています。

（2）　ボランティア活動促進

ボランティア講座などを実施しています。学生自ら企画、実践するボランティアプログラムやボランティア講座のサポートも行なっています。

（3）ボランティアサークル活動支援

ボランティアサークルの合同新入生説明会を行っています。また、各ボランティアサークルがイベント等を開催する際は、広報等で積極的に協力します。

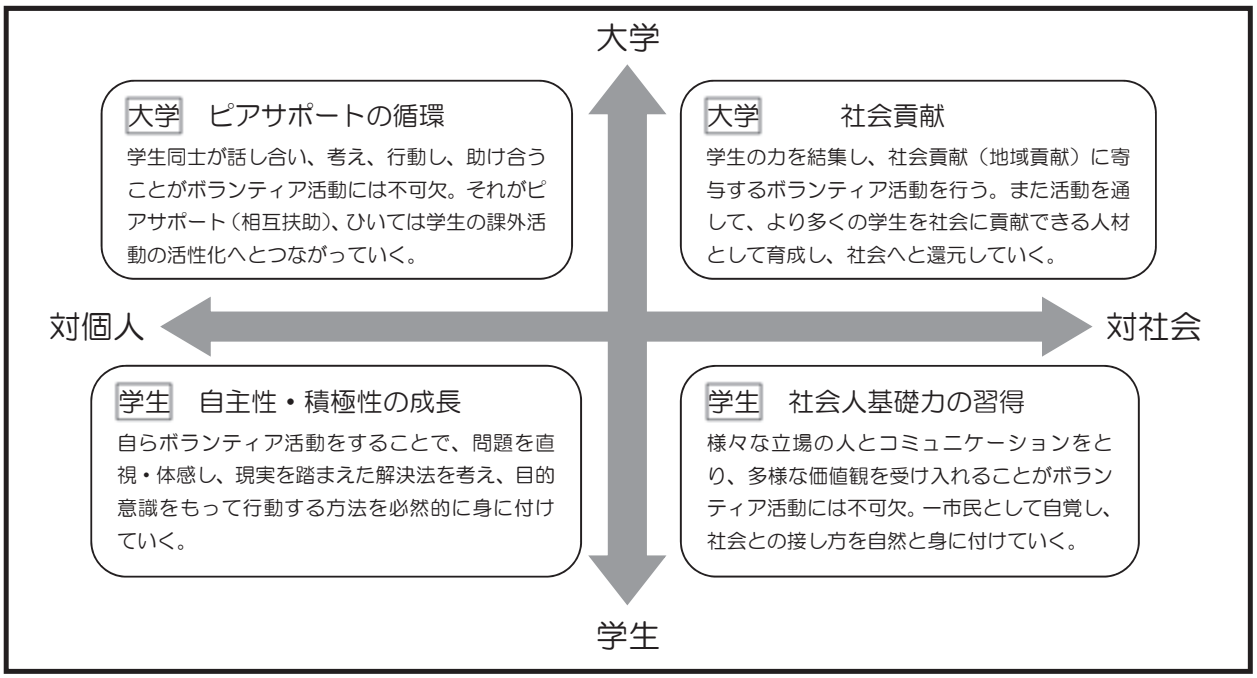
（4）　学内外ネットワークの構築

各キャンパス周辺地域やボランティア活動先の自治体、・教育機関・大学近隣の千代田区などと相互に連携をとり、地域貢献を主とする活動をしています。さらに学生スタッフが中心となり、他大学とも交流をはかっています。

（5）　学生スタッフの募集・育成

ボランティアセンターの運営に積極的に協力していただける学生スタッフを随時募集しています。また学生スタッフ育成のために、ボランティア体験ツアーの企画、一般学生も参加できるボランティア講座のほかスキルアップ講座なども実施しています。

2　ボランティアセンターの役割



3　ボランティアセンター全学運営員会

日程：2019 年 1 月 24 日

議題：各地区からの活動報告及び今後の活動計画、東京 2020 オリンピック・パラリンピックボランティアの情報共有、他

2018 年度　市ケ谷ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数（人）	学生（人）	その他(人)	相談数(件）※	開室日数(日)
4月	546	525	21	147	20
5月	415	397	19	84	21
6月	345	316	21	79	21
7月	310	294	7	47	21
8月	185	168	16	19	18
9月	172	161	12	25	19
１０月	432	405	46	68	23
１１月	312	295	18	46	22
12月	180	164	15	39	17
1月	201	188	13	70	18
2月	80	75	5	28	19
3月	144	124	20	22	20
合計	3,322	3,112	213	674	239

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

2018 年度　多摩ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数（人）	学生（人）	その他(人)	相談数(件）※	開室日数(日)
4月	105	95	10	88	20
5月	51	47	4	47	18
6月	60	42	18	37	21
7月	39	22	17	19	22
8月	10	4	6	2	18
9月	26	22	4	19	19
１０月	54	41	13	39	23
１１月	50	24	8	35	21
12月	30	26	4	24	17
1月	18	15	3	15	17
2月	7	2	5	2	19
3月	11	8	3	1	20
合計	461	348	95	328	235

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

※来室者総数には、学生スタッフの人数は含まれていません。

2018年度　市ケ谷ボランティアセンター運営委員会

回数	日程	議　　題
第1回	4月26日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（春のボランティアウィーク・エコキャップDEキャンパスツアー、フードドライブ、料理de難民を知る、富士山外来種駆除ボランティア、SMBC日興証券コラボ企画、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（防災カルタプロジェクト、防災ゲームDAYへの出店、物産展、検討中の企画）、今後のスケジュール
第2回	5月24日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（富士山外来種駆除ボランティアの実施報告、SMBC日興証券コラボ企画、高円寺こども食堂ボランティア、料理de難民を知る、ボッチャ体験教室@すずらん祭り、謎解き×疑似体験から知る発達障害、会話の見える化アプリ体験、銀座ミツバチボランティア、正面ボッチャ体験教室、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（日本郷土カルタ協会主催「震災・防災と郷土カルタ」点@奥野カルタ展、防災ゲームDAYへの出店、物産展、環境省・楢葉町連携事業～ワカモノと進めるボランティア～実施報告、その他）、ボランティアセンター関連（東北被災地ボランティアツアー日程案、富士見坂庭園に救助犬がやってくる、インクルーシブデザインワークショップ体験会、東京メトロ飯田橋駅ボランティア）、今後のスケジュール
第3回	6月21日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（実施報告　すずらん祭り、料理de難民を知る、SMBC日興証券コラボ企画、高円寺こども食堂、企画中のボランティア進捗状況　会話の見える化アプリ体験、銀座ミツバチボランティア、 その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（日本郷土カルタ協会主催「震災・防災と郷土カルタ」点@奥野カルタ展物産展について、防災ゲームDAYへの出店、物産展、NHKラジオの取材、環境省協力事業、遠野被災地ボランティア事前検討会、その他）、ボランティアセンター関連（東京メトロ飯田橋駅ボランティア実施報告、外国人おもてなし語学ボランティア講座実施報告、グリーンツーリズムによる被災地の地域コミュニティアの形成促進）、今後のスケジュール
第4回	7月26日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（銀座ミツバチボランティア、会話の見える化アプリ体験、富士山トレイル整備ボランティア、SMBC日興証券コラボ企画、ゴールボール体験教室、ベイラー大学打ち合わせ予定、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（避難所体験、防災ゲームDAY、物産展、千代田区みらいの防災リーダー、遠野被災地ボランティア事前検討会、その他）、ボランティアセンター関連（東京2020オリンピック・パラリンピック大会ボランティア説明会）、今後のスケジュール
第5回	9月27日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（子供音楽ボランティア、法政クリーンfes、富士山トレイル整備ボランティア、MIWまつり、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（東北被災地ボランティア、千代田区みらいの防災リーダー講座、法政フェア、まちのわイベント、地域防災について私たちのできることを考える、その他）、ボランティアセンター関連（学生サポートセンター補助金の推薦について、DNP×法政フェンシング応援イラストコンテスト、パラバドミントン世界選手権観戦ツアー、神保町ブックフェスティバル運営ボランティア）、今後のスケジュール
第6回	10月25日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（ユニバーサルシアター、MIWまつり、ある日突然難病になったら、富士山トレイル整備ボランティア、ベイラー大学との合同ボランティアツアー、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（まちのわイベント、地域防災について私たちのできることを考える、法政大学の避難所訓練、代表の交代について、その他）、ボランティアセンター関連（パラバドミントン世界選手権観戦ツアー、DNP×法政　フェンシング応援イラストコンテストニュースリリースについて、パラパワーリフティング世界選手権観戦ツアー)、今後のスケジュール
第7回	11月22日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（富士山トレイル整備ボランティア、犬とのふれあいを通して保護犬の現状を知ろう、ユニバーサルシアター、街の緑を守ろう～都市部における自然保護ボランティア、ベイラー大学との合同ボランティアツアー、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（わんぱくこどもまつり、地域防災について私たちのできることを考える、子供・音楽ボランティア、法政大学の避難所訓練、福島スタディツアー、ファシリテーション講座）ボランティアセンター関連（神保町ブックフェスティバル、DNP×法政フェンシング応援イラストコンテスト、共立女子大ボランティア～イザカエルキャラバン！、外国人おもてなし語学ボランティア講座、ボッチャ東京大会、その他）、今後のスケジュール
第8回	12月20日	ボランティア情報審査、センター運営報告、VSPの進捗・実施報告（キャンパス周辺清掃ボランティア、エコキャップ回収ボランティア、スターバックスコーヒージャパンの取り組みから見るごみ削減　手話狂言鑑賞教室事前研修、手話狂言鑑賞教室、ベイラー大学との合同ボランティアツアーについて、その他）、チーム・オレンジの進捗・実施報告（学食企画、学生ボランティア説明会、福島スタディツアー、ファシリテーション講座、気仙沼児童館ボランティア、岩手・宮城スタディツアー、その他）、ボランティアセンター関連（千代田区内近隣大学の高等教育強化コンソーシアムポスターセッション、犬の譲渡会ボランティア、手話入門講座、共立女子大スポーツフォーラム、九段靖国周辺清掃ボランティア、合同定例会、ボランティア説明会、その他）、今後のスケジュール

【付記】　●運営委員会は市ヶ谷ボランティアセンター内にて開催。

●ボランティア依頼審査は、審査基準（2011年4月作成）に照らし合わせて判断。

2018 年度　市ケ谷ボランティアセンター活動の概要

1．活動目的と活動目標

■活動目的：本学学部生のボランティア活動の促進

■活動目標（2018 年度）：

【市ヶ谷ボランティアセンター】

（1）東京 2020 に関する講座の実施

（2）近隣の施設と連携した新規プログラムの実施

（3）キャンパスボランティアセンターの連携

（4）震災復興支援ボランティアの取り組みの継続

（5）基幹プロジェクトの継続的実施と見直しの実施

（6）学内イベントの継続的実施と見直しの実施

（7）学生スタッフの育成

2．2018 年度活動の特徴

市ケ谷ボランティアセンターでは、前出の「活動目標」を達成するために日々活動を行った。

（1）東京 2020 大会に関する講座の実施

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の要請をうけ、ボランティアセンターでは「ユニバーサルシアター」などの東京２０２０応援プログラムを 33 プログラム実施した。

大会運営ボランティアの募集要項が発表されたことを受け、７月２日に本学に組織委員会の方々を講師としてお招きし、説明会を実施した。募集要項の説明と各ボランティア担当者から具体的にどのようなボランティアをするか説明していただいた。本説明会は遠隔会議システムを用いて 3 キャンパスで実施し合計 388 名の参加者があり、組織委員会と連携しながら、学内の東京 2020 大会の気運の醸成に貢献した。

（2）近隣の施設と連携した新規プログラムの実施

●神田すずらん商店街振興組合が主催する「神田すずらん祭り」にボッチャの体験コーナーとして参加した。
また、すずらん祭りの運営に関してのボランティアも行った。

●12月には千代田区は主催した千代田区内近隣大学の高等教育連携強化コンソーシアムのポスターセッションに参加した。ポスターを２つ準備し発表することで、本学のボランティア活動の周知することができた。

（3）キャンパスボランティアセンターの連携

全学ボランティアセンター運営委員会を 2019 年 1 月に実施し、各キャンパスの活動報告を行い、問題点、課題などを共有した。また他大学と連携として六大学連絡協議会を7月に明治大学で行った。

（4）震災復興支援ボランティアの取り組みの継続

●環境省と楢葉町との連携事業の継続的な実施

「環境省・電通連携事業」として樽葉町で稲刈りを実施した。

●被災地ボランティアツアー、被災地スタディツアーの継続実施

ボランティアセンター学生スタッフが主体となり、福島被災地スタディツアー、岩手・宮城スタディツアー、東北被災地ボランティアツアーを継続的に実施し、一般学生の被災地に対する理解を深めることができた。また本取り組みは電通育英会助成事業として採択され 100 万の助成金をいただいた。

●大学でできる被災地支援の実施

学食（法政大学生活協同組合）とボランティアセンター学生スタッフのコラボ企画として、「お昼ご飯で被災地へ」と銘打ち、東日本大震災の傷跡が依然残っている福島県と北海道胆振東部地震で被災した北海道にちなんだメニューを提供し、被災の風化防止活動を行った。

（5）基幹プロジェクトの継続的実施と見直しの実施

●東京メトロ飯田橋駅ボランティアの実施

2017 年度に引き続き、東京メトロと連携し大学周辺にある飯田橋駅の安全性の向上と「見守る目」の強化のため、本学学生が介助を必要とする駅利用者へのお声かけ、道案内などのボランティアを実施した。ボランティア活動を行うにあたり研修を受け、学生たちの都合のよい時間に各々が飯田橋駅を訪ね、ボランティア活動を実施した。また、毎月一回の定例会、本活動を広報するために 12 月に行われたボランティア報告会への参加を行った。さらに学生主体で参加者にアンケートを実施し、今年度の問題点を確認するとともに、次年度に向けての改善を東京メトロに提案した。３月６日には法政大学で東京メトロの社員を招き活動報告会を行い、東京メトロより感謝状と記念品の授与された。

●富士山清掃ボランティアの見直しの実施

例年、行われていた富士山清掃ボランティアについては今年度はトレイル整備ボランティアに内容を変更し実施した。内容を昨年と変更することで昨年に続き継続して活動する学生に対して新たな学びを提供することができた。

（6）学内イベントの継続的実施と見直しの実施

●企業と連携してイベントを実施

SMBC 日興証券と連携して子供たちにパラスポーツ体験をしてもらうプログラムを実施した。プログラムは SMBC 日興証券に所属しているプロのパラアスリートの方々に協力いただきデモンストレーションを行う、プロ選手に教えてもらいながらパラスポーツを体験するなど、子供たちがパラスポーツを身近に感じてもらえるようなプログラムとして実施することができた。

●多種多様な学生スタッフ企画の実施

学生スタッフの発案により、「都市と地域をつなぐ銀座ミツバチボランティア」「ある日突然難病になったら？」「被災の現場で役立つファシリテーション講座」「スターバックスコーヒージャパン（株）の取り組みから見るごみ削減」等数々の新規のプログラムを実施することができた。

さらに「富士山外来植物駆除ボランティアツアー」「ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング」などの人気企画についても継続して実施することができた。

（7）学生スタッフの育成

●学生スタッフ研修の継続実施

８月及び１２月にピアネット研修会を行い学生スタッフが参加した。

●学生イベントの企画・運営支援

学生スタッフが開催するミーティング（VSP、チーム・オレンジ）に毎週参加し、学生企画の進捗状況を確認し、必要に応じて、企画の促進、アドバイス、相談等を行った。

2018 年度　市ヶ谷ボランティアセンター　イベントカレンダー

実施日	イベント・講座・訪問先	団体名、講師、協力先
4 月 3 日（火）～ 6 日（金）	新歓ビラ回収ボランティア	VSP
4 月 9 日（月）～ 13 日（金）	春のボランティア WEEK	学内 6 ボランティアサークル、（VSP、チームオレンジを含む）
4 月 9 日（月）～ 13 日（金）	食べ物求めています～フードバンク	セカンドハーベスト・ジャパン、VSP
4 月 19 日（木）	エコキャップ DE キャンパスツアー	VSP
4 月 20 日（金）	SMBC 日興証券に所属するパラスリートとの意見交換会	SMBC 日興証券、VSP
4 月 20 日（金）	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
4 月 24 日（火）	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
4 月～ 7 月	えこぴょん×くまもんコラボグッズプロジェクト	HU、VSP
5 月 14 日（月）	エコキャップ回収ボランティア	VSP
5 月 15 日（火）	［東京 2020 応援プログラム］富士見坂庭園に救助犬がやってくる！～ふれあいから学ぶ犬との共生～	災害救助犬ネットワーク　津田光氏、VSP
5 月 18 日（金）	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
5 月 20 日（日）	［東京 2020 応援プログラム］富士山外来植物駆除ボランティアツアー	富士山クラブ、VSP
5 月 23 日（水）	［東京 2020 応援プログラム］インクルーシブデザインワークショップ体験会	インクルーシブデザイン・ソリューションズ
5 月 23 日（水）	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
5 月 26 日（土）	［東京 2020 応援プログラム］第 32 回神田すずらんまつりボランティア	神田すずらん通り商店街振興組合、神田すずらんまつり実行委員会
	［東京 2020 応援プログラム］神田すずらんまつりボッチャ体験教室（ブースポスター）～ボッチャってなに？	神田すずらん通り商店街振興組合、神田すずらんまつり実行委員会、VSP
5 月 29 日（火）	［東京 2020 応援プログラム］保護ねこカフェで学ぶ動物愛護ツアー	ネコリパブリック池袋店
5 月 31 日（木）	［東京 2020 応援プログラム］ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング	日本ブラインドサッカー協会、VSP
6 月 2 日（土）	外国人おもてなし語学ボランティア育成講座①	東京都
6 月 2 日（土）	料理 de 難民を知る～郷土料理が味わえる世界の料理教室～	シャンティ国際ボランティア会、VSP
6 月 9 日（土）、16 日（土）	東京メトロ飯田橋で行う地域サポートボランティア研修会	東京メトロ、日本ケアフィット共育機構
6 月 13 日（水）	グリーンツーリズムによる被災地の地域コミュニティの形成促進	遠野・山・里暮らしネットワーク、チーム・オレンジ
6 月 14 日（木）	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
6 月 15 日（金）	あの子の気持ち―疑似体験を通して発達障害を理解しよう―	ADDS　加藤愛理氏、VSP
6 月 16 日（土）	災害救援ボランティア講座（1 日目）	災害救援ボランティア推進委員会
6 月 16 日（土）	学んで遊ぼう子ども食堂ボランティア	高円寺こども食堂、VSP
6 月 20 日（水）	エコキャップ回収ボランティア	VSP
6 月 20 日（水）	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
6 月 21 日（木）	" 会話の見える化アプリ体験！～音声認識＆多言語翻訳で会話をリアルタイム表示～（UD トーク）	シャムロック・レコード　青木秀仁氏、VSP
6 月 22 日（金）	［東京 2020 応援プログラム］東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会①	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
6 月 23 日（土）	災害救援ボランティア講座（2 日目）	災害救援ボランティア推進委員会
6 月 23 日（土）	東京 2020 学園祭 the2nd	東京 2020 オリパラ組織委員会
6 月 25 日（月）	［東京 2020 応援プログラム］都市と地域とをつなぐ銀座ミツバチボランティア（事前講義）	人間環境学部高田雅之教授、銀座ミツバチプロジェクト、VSP
6 月 26 日（火）・27 日（水）	ボッチャ体験教室（正面前広場）	CSK、VSP
6 月 30 日（土）	災害救援ボランティア講座（3 日目）	災害救援ボランティア推進委員会
7 月 1 日（日）	［東京 2020 応援プログラム］都市と地域とをつなぐ銀座ミツバチボランティア（ファームエイド）	銀座ミツバチプロジェクト、VSP
7 月 1 日（日）	［東京 2020 応援プログラム］避難所体験～東日本大震災から学んだこと	（災害救援ボランティア推進委員会）、チーム・オレンジ
7 月 2 日（月）	東京オリンピック・パラリンピック競技大会ボランティア説明会	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
7 月 4 日（水）	［東京 2020 応援プログラム］［千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム］SMBC 日興証券×法政大学　地域のこどもたちにパラスポーツを知ってもらおう	千代田区ふじみわんぱくひろば、SMBC 日興証券、VSP
7 月 4 日（水）	東北・熊本物産展（プレ販売）	HU、チーム・オレンジ、VSP
7 月 5 日（木）・6 日（金）	東北・熊本物産展	HU、チーム・オレンジ、VSP
7 月 5 日 (木)	見えないけど見えている？ゴールボール体験教室	日本ゴールボール協会、VSP
7 月 7 日（土）	防災ゲーム Day ～そなエリア東京	防災教育普及協会、災害救援ボランティア推進委員会、チーム・オレンジ
7 月 9 日（月）	エコキャップ回収ボランティア	VSP
7 月 10 日（火）	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
7 月 13 日（金）	［東京 2020 応援プログラム］東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会②	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
7 月 20 日（金）	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
8 月 1 日（水）	［千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム］手話でお話ししよう「手話とは？」@ふじみわんぱくひろば（事前説明会）	千代田区ふじみわんぱくひろば、わたがし
8 月 2 日（木）	［千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム］手話でお話ししよう「手話とは？」@ふじみわんぱくひろば	千代田区ふじみわんぱくひろば、わたがし
8 月 2 日（木）、3 日（金）	［東京 2020 応援プログラム］東北被災地支援ボランティアツアー下見	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
8 月 10 日（金）	［東京 2020 応援プログラム］東北被災地支援ボランティアツアー事前説明会	チーム・オレンジ
8 月 20 日（月）～ 8 月 24 日（金）	［東京 2020 応援プログラム］東北被災地支援ボランティアツアー（34、35 次隊）	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
8 月 21 日（火）	［東京 2020 応援プログラム］［千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム］ふじみわんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア事前研修①	VSP
8 月 23 日（木）～ 27 日（月）	［東京 2020 応援プログラム］東北被災地支援ボランティアツアー（36、37 次隊）	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
8 月 24 日（金）	［東京 2020 応援プログラム］［千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム］ふじみわんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア事前研修②	VSP
8 月 27 日（月）	［東京 2021 応援プログラム］［千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム］ふじみわんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア事前研修③	VSP
8 月 28 日（火）	ふじみわんぱくひろば子供・音楽ボランティア	千代田区ふじみわんぱくひろば、VSP
8 月 29 日（水）	集めて、拾って法政クリーン fes	VSP
8 月 30 日（木）	［東京 2020 応援プログラム］東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会③	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
9 月 2 日（日）	［千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム］千代田区みらいの防災リーダー育成講座ボランティア	千代田区 政策経営部 災害対策・危機管理課、チーム・オレンジ
9 月 13 日（木）	東北被災地支援ボランティア報告会	チーム・オレンジ
9 月 17 日（月）	東北熊本物産展@法政フェア	HU、チーム・オレンジ、VSP
9 月 20 日（木）	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
9 月 25 日（火）	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
9 月 28 日（金）	［東京 2020 応援プログラム］東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会④	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ

概　要	学生参加者数	(内) 留学生数
過剰な新歓ビラに関する学生の自主企画（2018 年度約 11,150 枚回収）	―	―
学内ボランティアサークルの新入生勧誘（活動紹介展示＆説明会）	60	0
学生企画で賞味期限内の食品を 22kg 回収、回収業者に持参	―	0
新入生と VSP メンバーでエコキャップを回収しながら、新入生に大学構内案内をする	10	0
7 月の児童館でのプログラムに関しての打ち合わせ（パラアスリートの所属企業）	6	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	7	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	3	0
物産展での販売を基本にしたオリジナルグッズの企画	―	―
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	3	―
災害救助犬について知識を得ながら実際に触れ合うことのできるワークショップも行う	30	3
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	8	0
富士山麓に生息する侵略的外来種（植物）などの駆除作業と、樹海のトレッキング活動	38	0
プロセスの上流から巻き込むデザイン手法 (インクルーシブデザイン）について学ぶ	21	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	雨天中止	
地域貢献ボランティア活動、神田すずらんまつりでの運営ボランティア	15	0
地域貢献ボランティア活動、神田すずらんまつりでパラリンピック正式種目ボッチャについての紹介ボランティア	12	0
保護ネコカフェのボランティア活動について学ぶ	22	0
ブラインドサッカーに関してゲームを通しチームビルディングを学ぶ	15	0
東京 2020 をふまえた外国人おもてなし語学ボランティア基礎講座	59	2
パキスタンの家庭料理「カラヒィ」を作り、難民について理解を深める	12	1
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の事前研修	35	0
グリーンツーリズムを活用した被災地の地域コミュニティづくりについて学ぶ	31	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	7	0
講義や疑似体験から発達障害について学び、自分とは異なる人を理解していく	16	0
3 日間の受講者は上級救命技能認定証、セーフティリーダー認定証が取得可能	23	4
高円寺こども食堂での無料学習塾や、食事の手伝いをする	6	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	5	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	雨天中止	
東京 2020 をふまえ外国人や聴覚障がい者の手助けとなるアプリについて、開発者から直接、開発意図や使い方などを学ぶ	18	1
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	8	0
災害模擬体験と実技、災害時のチームビルディングとリーダーシップについて学ぶ	23	4
大学連携 '18 イベント東京 2020 学園祭 the2nd	4	0
銀座でミツバチを飼育しているミツバチプロジェクト、人間環境学部高田教授からの講義	21	0
東京 2020 気運醸成のため、正式パラスポーツ競技種目ボッチャを学内にアピール	131	0
応急手当（上級救命技能講習）、認定証授与	23	4
銀座ファームエイドでのボランティア活動（設営、物販のお手伝いなど）	14	0
非常食の試食、避難所運営ゲーム、防災クイズ・カルタなどで防災についての知識を身に着ける	33	0
東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の大会ボランティアについての説明会	388	―
ふじみわんぱくひろばで子供たちにパラスポーツを体験してもらうプログラムを実施、プロパラアスリートの調整や競技用車いすの手配なども行う	14	0
学生が選んだ東北の名産品を販売する	10	―
学生が選んだ東北の名産品を販売する	25	―
パラリンピック正式種目ゴールボールを体験する	9	1
防災教育普及協会からの要請で防災イベントで防災カルタを説明する	8	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	7	0
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	6	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	3	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	高温のため中止	
わたがし企画、ふじみわんぱくひろばで子供たちに手話を教えるプログラム事前研修会	31	0
わたがし企画、ふじみわんぱくひろばで子供たちに手話を教えるプログラム	31	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア下見	3	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア事前説明会	29	1
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア	19	1
VSP 企画、ふじみわんぱくひろばで行なうこども向けの音楽ボランティアのための事前研修	5	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア	17	0
VSP 企画、ふじみわんぱくひろばで行なうこども向けの音楽ボランティアのための事前研修	6	0
VSP 企画、ふじみわんぱくひろばで行なうこども向けの音楽ボランティアのための事前研修	23	0
VSP 企画、ふじみわんぱくひろばで行なうこども向けのクイズなどを交えた音楽ボランティア	27	0
VSP 企画、キャンパス周辺清掃とエコキャップ回収、キャンパス案内をまとめたもの、スポ GOMI 形式で行う	12	0
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	8	0
千代田区主催の子供向け防災イベント	4	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア、学生からの報告（隊別）	22	1
被災地支援のために東北の物産を販売	16	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	雨天中止	
VSP の定例活動の 1 つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	雨天中止	
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月 1 回）	8	0

9 月 30 日（日）	［東京 2020 応援プログラム］ヒューリック・ダイハツ JAPAN パラバドミントン国際大会 2018 観戦ツアー	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
10 月 5 日（金）	キャンパス周辺清掃ボランティア	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、VSP
10 月 6 日（土）	千代田区男女共同参画センター第 6 回 MIW 祭り　ボッチャ体験教室	VSP
10 月 6 日（土）	まちのわ防災 Festa（飯田橋グランプルーム）	VSP
10 月 6 日（土）、7 日（日）	～環境省・電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」楢葉町での稲刈り	IVUSA、荒川ゼミ、知能ロボット研究室、チーム・オレンジ
10 月 11 日、18 日、25 日、11 月 8 日、15 日、22 日、29 日、12 月 6 日（木）	手話講座	環境省、電通、楢葉町、チーム・オレンジ
10 月 12 日（金）	エコキャップ回収ボランティア	NHK 手話キャスター中野佐世子氏
10 月 15 日（月）	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
10 月 16 日（火）	［東京 2020 応援プログラム］ユニバーサルシアター～風景を言葉で描く～音声ガイド作成プロセスを学び豊かな表現力を身につけよう！（ 映画入門編）	VSP
10 月 19 日（金）	ある日突然難病になったら？～難病や共生社会への理解を深めよう～	シティ・ライツ、シネマチュプキタバタ、VSP
10 月 19 日（金）	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	希少難病ネットつながる 香取久之氏、病気と生きるプロジェクト 麻田モモカ氏 、VSP
10 月 25 日（木）	［東京 2020 応援プログラム］東京メトロ飯田橋駅ボランティア定例会⑤	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
10 月 25 日（木）	キャンパス周辺清掃ボランティア	東京メトロ、東京メトロ飯田橋駅ボランティアスタッフ
10 月 27 日（土）	富士見わんぱくひろば「わんぱくこどもまつり」	VSP
10 月 27 日（土）、28 日（日）	神保町ブックフェスティバル	千代田区ふじみわんぱくひろば、アカデミー合唱団、パフォーマンスサークルすだま、児童文化研究会
10 月 28 日（日）	［東京 2020 応援プログラム］［千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム］富士山トレイル整備ボランティアツアー	神保町ブックフェスティバル実行委員会、VSP
10 月 29 日（月）	［東京 2020 応援プログラム］［千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム］DNP ×法政フェンシング応援イラストコンテストスキルアップ講座＜第 1 回＞・公開練習・体験会	富士山クラブ、VSP
10 月 30 日（火）	～犬との「触れ合い」を通して保護犬の現状を知ろう～	DNP
11 月 5 日（月）	キャンパス周辺清掃ボランティア	はーと in はーと ZR　池上奈穂氏、VSP
11 月 10 日（土）	地域防災について私たちのできることを考える	VSP
11 月 12 日（月）	エコキャップ回収ボランティア	麹町消防団　遠藤伸也氏、チーム・オレンジ
11 月 13 日（火）	［東京 2020 応援プログラム］ユニバーサルシアター～風景を言葉で描く～音声ガイド作成プロセスを学び豊かな表現力を身につけよう！（映画制作編）	VSP
11 月 15 日（木）	キャンパス周辺清掃ボランティア	シティ・ライツ、シネマチュプキタバタ、VSP
11 月 16 日（木）	［東京 2020 応援プログラム］東京メトロ飯田橋ボランティア　本社訪問	VSP
11 月 16 日（木）	［東京 2020 応援プログラム］［千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム］DNP ×法政フェンシング応援イラストコンテストスキルアップ講座＜第 2 回＞　公開練習・体験会	東京メトロ、東京メトロ飯田橋ボランティアスタッフ
11 月 17 日（土）	ボッチャ東京カップ 2019 予選～大学選手権東日本大会～	DNP
11 月 17 日（土）	街の緑を守ろう！～都市部における自然保護ボランティア～	日本ボッチャ協会
11 月 17 日（土）	外国人おもてなし語学ボランティア育成講座②	有機クラブ　北鬼江いより氏、VSP
11 月 20 日（火）	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	東京都
11 月 20 日（火）	［東京 2020 応援プログラム］［千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム］DNP ×法政車いすフェンシングデモンストレーション	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
11 月 21 日（水）	［千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム］富士見わんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア	DNP
11 月 22 日（木）	教職員に教える地域防災	千代田区ふじみわんぱくひろば、VSP
11 月 26 日（月）～ 30 日（金）	学食企画～お昼ご飯で被災地へ～	庶務課、チーム・オレンジ
12 月 1 日（土）	千代田区内近隣大学の高等教育連携強化コンソーシアム　ポスターセッション	学生生協、チーム・オレンジ
12 月 5 日（水）	キャンパス周辺清掃ボランティア	千代田区（近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム）、VSP
12 月 8 日（土）	学生ボランティア募集説明会（環境省・電通）	VSP
12 月 9 日（日）	［東京 2020 応援プログラム］《電通育英会助成事業》福島被災地スタディツアー	環境省、電通、チーム・オレンジ
12 月 10 日（月）	災害の現場で役立つファシリテーション講座	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
12 月 12 日（水）	エコキャップ回収ボランティア	鈴木まり子氏、チーム・オレンジ
12 月 18 日（火）	スターバックス コーヒー ジャパンの取り組みから見るごみ削減	VSP
12 月 20 日（木）	手話狂言鑑賞教室（事前講座）	スターバックスコーヒージャパン普川玲氏、VSP
12 月 20 日（木）	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	日本ろう者劇団　小泉文子氏、NHK 手話ニュースキャスター　中野佐世子氏、VSP
12 月 22 日（土）	合同定例会（ボランティア活動報告）	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
12 月 22 日（土）	５５・５８年館清掃ボランティア	キャンパス・エコロジー・フォーラム、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、チーム・オレンジ、VSP
1 月 18 日（金）	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
1 月 18 日（金）	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	VSP
1 月 26 日（土）	手話狂言鑑賞教室	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
2 月 5 日（火）	学生ボランティア団体助成事業表彰式	日本ろう者劇団　小泉文子氏、VSP
2 月 20 日（水）	電通育英会助成金面接	学生サポートセンター、チーム・オレンジ
2 月 20 日（水）	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	電通育英会、VSP
2 月 22 日（金）	キャンパス周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合
2 月 22 日（金）	岩手・宮城スタディツアー事前説明会	VSP
2 月 23 日（土）、24 日（日）	フェアウェル Days	チーム・オレンジ
2 月 23 日（土）	わんぱくひろばで行う防災アートフェスタ	55 ／ 58 きおくプロジェクト、VSP、チーム・オレンジ
2 月 23 日（土）、24 日（日）	常葉学園大学（静岡県）図上訓練	千代田区わんぱくひろば、チーム・オレンジ
2 月 27 日（水）	復興支援大学校（立教大）	静岡県ボランティア協会、常葉学園大学、チーム・オレンジ
3 月 1 日（金）～ 4 日（月）	《電通育英会助成事業》岩手・宮城スタディツアー	復興大学、立教大学、チーム・オレンジ
3 月 6 日（水）	東京メトロ飯田橋駅ボランティア報告会	遠野・山・里ネットワーク、チーム・オレンジ
3 月 11 日（月）、12 日（火）	ベイラー大学との合同ボランティアツアー	東京メトロ、日本ケアフィット共育機構、東京メトロ飯田橋ボランティアスタッフ
3 月 11 日（月）	［東京 2020 応援プログラム］［千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム］DNP ×法政イラストコンテスト表彰式	ベイラー大学（テキサス州）、荒川区社会福祉協議会、国際交流課、VSP
3 月 20 日（水）	九段・靖国通り地区清掃ボランティア	DNP
3 月 24 日（日）	防災教育実践交流会（京都周辺の大学）	千代田区環境安全部、九段環境整備協会、九段小学校 PTA、麹町警察署、九段商店街振興組合

127 プログラムに　2,342 名参加（学生のみカウント）

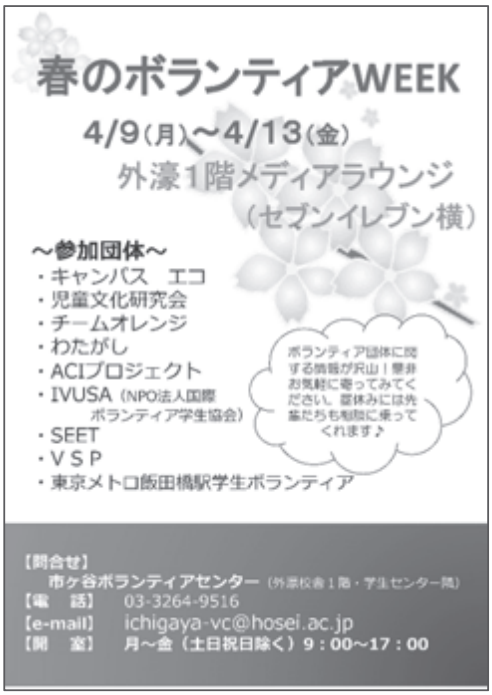
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月１回）	8	0
パラバドミントン国際大会の情報発信や観戦促進の協力要請があり参加	15	0
VSP の定例活動の１つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	16	0
千代田区地域貢献ボランティア　MIW 祭りでのボッチャ体験イベントを行う	6	0
地域貢献ボランティアの１つ、飯田橋グランブルームの防災イベントに参加	47	0
環境省、電通の連携事業の１つ、休耕田を利用した稲刈り	4	0
手話講座入門（手話ゲームブック）	23	1
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	17	1
VSP の定例活動の１つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	13	0
視覚障がい者、聴覚障がい者、車いすの方も映画を楽しめるユニバーサルシアターについて学ぶ	15	3
難病について講義やワークショップを通し学ぶ	18	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	雨天中止	
東京メトロ飯田橋駅でのボランティア活動の定例会（月１回）	4	0
VSP の定例活動の１つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	3	0
千代田区の児童施設でのハロウィンイベントでの受付や演奏、マジックなどのボランティア	38	0
神保町のブックフェスティバルの運営お手伝いボランティア	32	6
富士山麓のトレイル整備ボランティアツアー、富士山麓の環境学習もあり	38	8
パラスポーツの車いすフェンシングの競技の魅力をイラストコンテストにより発信するためのイラストスキルアップ講座、公開練習	20	0
保護犬の保護活動の現状を理解し、触れ合いにより動物保護の意識をもってもらう	46	4
VSP の定例活動の１つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	4	0
消防団への理解と、AED の講習、東日本大震災「無念」の映画上映など	9	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	11	0
視覚障がい者、聴覚障がい者、車いすの方も映画を楽しめるユニバーサルシアターの音声ガイドを作成する	8	0
VSP の定例活動の１つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	6	0
東京メトロ本社に訪問し、メトロ社員から直接お話しをきく	5	0
パラスポーツの車いすフェンシングの競技の魅力をイラストコンテストにより発信するためのイラストスキルアップ講座、公開練習	25	0
パラリンピックスポーツとしての「ボッチャ」を広く誰でも参加できる大会として実施	4	0
VSP 企画、公園での農作業を通し、環境保護について考える	9	0
東京 2020 をふまえた外国人おもてなし語学ボランティア基礎講座	53	3
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	1	0
パラスポーツの車いすフェンシングの競技の魅力をイラストコンテストにより発信するためのデモンストレーション	113	―
VSP 企画、千代田区の児童施設での音楽ボランティア	15	0
チーム・オレンジによる法政大学職員のための防災講座（防災カルタ・避難所運営ゲーム）	14	0
東北・熊本被災地にちなんだメニューを富士見校舎食堂（市ヶ谷）、東館食堂（小金井）、６号館食堂（多摩）の３キャンパスにて提供。2,292 食販売。	12	0
千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム開設記念シンポジウム	6	0
VSP の定例活動の１つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	8	0
環境省と進めるボランティア活動の説明。原子力、福島の新米についての話を聞く	2	0
福島県の被災状況や復興に向けた取り組みを学ぶことが目的。各地の復興の現状を見学できる	42	2
災・減災対策の一環として災害の現場でのファシリテーターの重要性を学ぶ	18	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	6	0
プラスチック廃棄物の削減について、スターバックス・コーヒー・ジャパン㈱より講師を招き、考える	25	0
手話狂言をより深く理解し、鑑賞教室へ臨むための講習会	21	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	3	0
VSP、チームオレンジ、東京メトロ飯田橋駅ボランティア、キャンパス・エコロジー・フォーラム４団体によるボランティア活動の交流会	15	0
55・58 年館の解体前に感謝を込めて清掃をする	7	0
VSP の定例活動の１つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	11	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	4	0
国立能楽堂で春の手話狂言鑑賞教室での鑑賞会	16	0
学生ボランティア団体助成金授与の表彰式に参加	2	0
電通育英会の助成金補助を受けるための面接	1	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	4	0
VSP の定例活動の１つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	7	0
岩手・宮城スタディツアーの事前説明会	13	0
解体される 55・58 年館に感謝の意を込めたボランティア活動の紹介	15	0
児童館に集まる子どもたちへの防災啓発、防災クイズ、災害ロボット操縦体験	9	0
静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練	1	0
被災地支援についての他大学との交流会	2	0
岩手県遠野市、釜石市・宮城県気仙沼でのスタディツアー	31	0
学生企画の東京メトロ飯田橋でのボランティア活動の報告会	17	0
海外交流協定大学ベイラー大学の学生と日本でのボランティアを体験（子ども食堂・おもちゃ図書館）、東京観光、日本食文化体験など	13	0
パラスポーツの車いすフェンシングの競技のイラストコンテスト表彰式	4	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	5	0

1．春のボランティアWEEK

日　時　【展示・冊子配布】2018年４月９日（月）～13日（金）終日

場　所　外濠校舎１階 メディアラウンジ

概　要



ボランティアに興味を持つ学部生に向けて、学内のサークルや、ボラセン所属学生団体を紹介することで、新メンバーを求める各サークル、ボランティアをしてみたい学生双方に対して支援しました。
ボラセンの認知度アップとVSPの新メンバーを獲得することも目的とし、最終的には学内全体のボランティア促進につなげていきます。

例年同様、メディアラウンジでは、展示による活動報告を行うと同時にサークルごとの相談ブースを設置。昼休みを中心に、主に新入生への相談に応える姿が見られました。
学生主体によるＳＮＳでの宣伝や説明会前のビラ配りを行い、イベントの認知度が高まり、また説明会会場を外濠校舎１階メディアラウンジにしたことで集客の効果がありました。
説明会では、各団体の活動や特徴を知ってもらうだけでなく、新入生の相談の対応、学生スタッフ自身も他団体について理解を深めることができました。

今回は、学生が自主的に「フードバンク」について知ってもらおうと春ボラ期間中に、会場内に食品の回収BOXを設置。期限内の食品を回収し、ボランティアの観点から食品ロスについて考え、学内の認知を深めていきました。

学生参加者数　説明会：60名

東京メトロ飯田橋駅ボランティアの説明

VSPブースでの説明

2. 食べ物を求めています～フードバンク

日　時　2018年４月９日（月）～13日（金）終日

場　所　外濠校舎１階 メディアラウンジ

概　要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が、４月９日（月）～13日(金)春のボランティア WEEK 期間中に、特定非営利活動法人セカンドハーベスト・ジャパンの協力のもと、「食べ物求めています～フードバンク」を学内で実施しました。

日本ではまだ安全に食べられるにも関わらず、廃棄される食べ物＝食品ロスが毎年 500～800 万トンにものぼるといわれています。中には開封されずに廃棄された手付かずの食品も含まれています。

その一方で、日本には食事に不自由している人が多くいます。厚生労働省の 2010 年度調査では、日本の相対的貧困率は 16%と戦後最悪となり、国民の６人に１人が貧困線以下の生活を強いられています。食べられることなく棄てられる食品がある一方で、その日の食事に事欠く人がいます。フードバンクはそうした方と食べ物を結び、食の不均衡を解決する一躍となっています。

春のボランティア WEEK 期間中に新入生へのボランティア活動の告知も含め、身近にあるボランティア活動としてフードバンクの食品回収 BOX を設置、回収活動を行いました。５日間の回収結果は複数の種類の食料 22 ㎏となり、学生へのフードバンク、食品ロスへの意識づけの一助となりました。

フードバンク食品回収 BOX

フードバンクへの呼びかけ

3. エコキャップ DE キャンパスツアー

日　時　2018年４月19日（木）昼休み

場　所　外濠校舎、富士見坂校舎の各施設、キャップ回収箇所

概　要

４月19日（木）、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ（以下 VSP）が「エコキャップ DE キャンパスツアー」を実施し、10名の学生が参加しました。

VSP は学内に設置されているペットボトルキャップの回収容器から、定期的にペットボトルキャップを回収しており、集めたペットボトルキャップは、一定量まで集め、無料で回収業者に回収してもらい、世界の子供たちへのワクチン代などにする活動をしています。2017 年度は、325 ㎏のペットボトルキャップを回収しましたが、本活動の認知度は高くありません。そこで、この回収活動を新入生に関心を持ってもらうため、ペットボトルキャップの回収ポイントをまわりながら、「学内の知られていない施設を学生目線で案内する」というボランティアイベントを昨年同様実施いたしました。ＶＳＰのメンバーは、参加者とエコキャップを回収しながら、外濠校舎と富士見坂校舎を効率よく案内することができました。

［企画学生の感想］

今年度から昼休みの時間が 10 分短くなったため、ルートを変更しなくてはなりませんでした。そこで、全地点間の移動所要時間を計測し、今まで回っていた地点を取捨選択したり、新たな地点を加えた新ルートを作成しました。また、企画スタッフ内で、入学して間もない頃に分かりづらかったことや、市ヶ谷キャンパスについて知らなかった豆知識などを出し合い、それらを案内内容に盛り込むことで、新入生のこれからの学生生活に役立つ案内ができたかと思います。

VSP 企画学生スタッフ　経営学部２年　　菅　結菜

・主なコース（経路）

ボランティアセンター～外濠校舎４階～富士見坂校舎３階～富士見坂校舎２階～外廊下（ラーニングコモンズ前）～図書館前～ピロティ（掲示板）～ゲート棟前正面階段～外濠校舎１階～外濠校舎地下１階～外濠校舎１階～ボランティアセンター

学生参加者数　10名

ピロティでの説明

外濠校舎１階のエコキャップ回収

4. SMBC日興証券に所属する パラアスリートとの意見交換会

日　時　２０１８年４月２０日（金）

場　所　千代田区丸の内ＳＭＢＣ日興証券本社ビル

概　要

４月20(金)、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(以下ボラセンスタッフ)6名と、SMBC日興証券に所属するパラアスリート7名が、新丸ビル内のSMBC日興証券のオフィスで、法政大学の近隣のこどもたちのためにパラスポーツを体験できる企画を合同で実施するために、意見交換会を実施しました。

SMBC日興証券には、冬季パラリンピック４大会連続出場した三澤　拓（みさわ　ひらく）選手をはじめとする世界で活躍する多数のパラアスリートが所属しています。現在、ボラセンスタッフは東京2020に向け、SMBC日興証券に所属するパラアスリートに協力を仰ぎ地域のこどもたちにパラスポーツの素晴らしさを体験してもらう企画を検討しています。

今回の意見交換会では学生たちが地域の児童館でヒアリングし、考案したプログラムの企画書をSMBC日興証券のパラアスリートの方々にレビューしていただき、多くのアドバイスをいただきました。今後はこの企画が実現できるように活動していきます。

学生参加者数　６名

SMBC 日興証券パラアスリートの方々とボラセンスタッフの意見交換会の様子

考案した企画を説明するボラセンスタッフ

5. 九段・靖国通り地区清掃ボランティア

日　時　2018年4月～2019年3月

場　所　九段さくら館→　靖国通り周辺→　市ヶ谷駅周辺→　九段商店街→　九段さくら館

概　要

毎月 20 日前後に、千代田区環境安全部および九段環境整備協議会（九段地区の町内会連合）、麹町警察署の職員、九段商店街、九段地域の小学校 PTA の方々と共に、九段・靖国通り地区の清掃ボランティア・巡回パトロール活動に参加しています。大学周辺の地域貢献ボランティアの活動の１つになっています。

学生参加者数　のべ３２名（参加者数）

日　時		参加者数（申込者数）
４月20日（金）	15：30 -17：00	７名（８名）
５月18日（金）		８名（９名）
６月20日（水）		雨天中止（１名）
７月20日（金）		高温の為中止（６名）
９月20日（木）		雨天中止（２名）
10月19日（金）		雨天中止（１名）
11月20日（火）		１名（１名）
12月20日（木）	15：00 -16：30	３名（４名）
１月18日（金）		４名（４名）
２月20日（水）		４名（４名）
３月20日（水）		５名（５名）

※8 月はお休み、雨天・高温等の場合は中止。

九段靖国神社周辺清掃に出発！

靖国通りを清掃

6. キャンパス周辺清掃ボランティア

日　時　2018 年 4 月～2019 年 3 月　基本は毎月 1 回昼休み

場　所　市ヶ谷キャンパス周辺（外濠周辺）

概　要

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催。
基本的に月 1 回、VSP のメンバーが日程を決めています。毎回 30 分間ほど、大学周辺の清掃ボランティアを行っています。詳細な活動日と参加者数は、下表参照。学生スタッフ（VSP）の活動の柱の 1 つであり、一般学生を募集し、一緒に活動しながらボランティア活動の促進につなげていきます。

学生参加者数　のべ 77 名（参加者数）※8月、2 月、3 月は休み

日　程	参加者数（申込者数）
4 月 24 日（火）	3 名(5 名)
5 月 23 日（水）	雨天中止(1 名)
6 月 14 日（木）	7 名(7 名)
7 月 10 日（火）	6 名（6 名）
9 月 25 日（火）	雨天中止
10 月 5 日（金）・ 15 日（月）・25 日（木）	計 32 名（33 名）
11 月 5 日（月）・15 日（木）	計 10 名（10 名）
12 月 5 日（水）	8 名（8 名）
1月18日（金）	11 名（12 名）

外濠周辺を清掃

終了後の集合写真

7. えこぴょん×くまもんコラボグッズプロジェクト

日　時　2018年４月～7月

概　要

ボランティアセンター学生スタッフ VSP が、７月４日(水)～７月６日(金)に実施する「東北・熊本物産展」で販売するオリジナル商品として、「えこぴょん・くまモンコラボトートバック」と「えこぴょん・くまモンコラボマグカップ」の２点を制作しました。
トートバックは昨年度の物産展でも作製し販売しましたが、今年はランチバックとして使えるよう、工夫しました。可愛らしいデザインが好評でした。
また、マグカップも制作しました。えこぴょんとくまモンが小鳥を追いかけている様子が描かれています。
これらの商品の利益は、全額被災地に寄付されます。

えこぴょん・くまモンコラボマグカップ

エコぴょん・くまモンコラボトートバッグ

8. エコキャップ回収ボランティア

日　時　2018年4月～2019年3月　毎月1回

場　所　外濠校舎、富士見坂校舎ペットボトル回収場所

概　要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ（以下 VSP）は、2018 年度 4 月から 12 月まで全9回エコキャップ回収ボランティアを実施し、延べ 69 名の学生が参加しました。

学生スタッフ VSP プログラムのエコキャップ回収ボランティアは、外濠校舎と富士見坂校舎のエコキャップを回収しました。今年度は3月１８日時点で合計 353kg 回収、ワクチン本数で約 227 本になりました。回収したエコキャップは、6 月から VSP 学生スタッフが自主的に探した無料で引き取りをしてもらえる業者、アルファジャパンさんに引き取っていただいています。大学のゴミ削減とゴミ分別の推進に役立っています。

2015 年 9 月から始まったキャップ回収は、4 年目を迎えました。この活動を始めた当初のメンバーは全員入れ替わり、なんとなく実施している意識の低いものになりつつありました。そこで、今年度はこのような状況に再び陥ることがないよう活動体制を整えることに力を注ぎました。

まず、初めにキャップ回収業者の選定です。5 月までは段ボールに詰めてリサイクル業者に発送していました。しかし、その配送料自体が寄付できるものであるのではないかと疑問を持ち、アルファジャパン（無料回収業者）さんに変更しました。回収箱に関しては、どこに設置してあるかの分からない状況であったのを表にリスト化し、箱に番号シールを張ることで未回収などを防止しました。さらに回収箱の大きさや設置場所の見直し、増設などを行い回収の効率化に努めました。その結果、年末時点で前年度の回収量を上回ることができました。

また、回収そのもののあり方について考えました。回収ボランティアの参加者は続けていくのが困難であるほど減少していました。そんな状況を打破しようと、どうしたら参加者が増えるのか VSP メンバーで検討し、回収日を毎月 12 日に固定するなどの試みも行いました。身近で継続性のあるこの活動は、ボランティアをしていくうえで重要な位置づけであると考えます。今後も毎月の活動を続けられるよう定期的に見直しを行い、引き続き改善をしていきたいと思います。

デザイン工学部　都市環境デザイン工学科　1 年　長谷川　陸

外濠での回収風景

アルファジャパンに回収していただく

9. 富士見坂庭園に救助犬がやってくる！ ～ふれあいから学ぶ犬との共生～

日　時　2018年 5月15日（火）

場　所　外濠校舎５階 526 会議室（講義）
富士見坂庭園　（デモンストレーション）

概　要

市ヶ谷ボランティアセンター主催で5月15日（火）に「富士見坂庭園に災害救助犬がやってくる！～ふれあいから学ぶ犬との共生～」を実施し、30 名の学生が参加しました。

地震や雪崩などで瓦礫の中に閉じこめられたり、ピクニックや山歩きなどで行方不明になった不特定な人たちを、犬の優れた嗅覚を使って見つけだす犬のことを災害救助犬といいます。今回はこの災害救助犬の育成及び、遭難者や要救助者の捜索活動を行っている NPO 法人災害救助犬ネットワークの方々を講師にお招きし、災害救助犬についてお話をしていただきました。

まず初めに、災害救助犬がどのように遭難者や要救助者を探すのか、災害救助犬の適正や育つまでの過程、災害救助犬への接し方についてお話しいただきました。

その後、富士見坂庭園に移動し、リードを離した状態で介添え歩行したり、合図があるまで待ち続けたり、ボックスに隠れた学生を嗅覚で探しあてる災害救助犬のデモンストレーションをしていただきました。その後は自由時間とし、ボールがついたリードで犬と遊んだり、写真撮影をしたりして犬と触れ合う学生もいれば、災害救助犬ネットワークの方々に犬の躾について相談している学生もいました。

参加した学生たちは、私たち人間のために、働いてくれている災害救助犬に直接触れて、災害救助犬に対する理解が深まったのではないでしょうか。

学生参加者数　30 名

リードなしでの介添え歩行

集合写真

10. 富士山外来植物駆除ボランティアツアー

日　時　2018年5月20日（日）

場　所　富士山麓

概　要

5月20日（日）、ボランティアセンターでは「NPO法人・富士山クラブ」の指導のもと、『富士山外来植物駆除ボランティアツアーを実施しました。この「外来植物駆除」の活動は今年で6度目の実施となり、38名の学生が参加しました。

バスの中では、一人で参加の学生も楽しく活動できるように、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が企画したクイズやビンゴなどのレクリエーションを行い、参加者間の交流をはかりました。
富士の自然の美しさを参加学生に知ってもらうため、約2時間、富士山クラブの指導のもと樹海トレッキングを実施し、樹海に生息している動植物の生態系を学ぶことができました。また道中では、洞窟や氷穴の中にも入洞し自然の壮大さを感じることもできました。
その後、富士山を見ながら昼食をとり、外来植物が多く生息している河口湖畔に移動し、駆除対象である「アレチウリ」の説明を富士山クラブから受けました。アレチウリは北米原産のウリ科のツル植物で、成長、繁殖力が非常に高く、日本の特定外来生物（環境省指定）植物類13種のうちの一種、また、日本の侵略的外来種ワースト100（日本生態学会指定）のうちの一種に指定されています。

説明をうけた後に、川口湖畔の水辺に生息するアレチウリの駆除を参加者全員でおこないました。
他の植物も目立つ現場で特定の植物を駆除することに苦労しましたが、慣れ始めると、楽しくなってきたようで、「もっとやりたかった」との声も聞かれました。心地よい気候の中での約2時間の活動し、大量の外来植物を駆除することができました。

活動後は、「富士山世界遺産センター」に移動し、各班にわかれ、ボランティアセンター学生スタッフを中心に、情報共有、振り返りを行い、外来植物駆除を広めるアイディアを発表するなど充実した活動となりました。
今後も法政大学ボランティアセンターでは富士山の外来植物駆除・清掃活動を継続的に行っていきます。

学生参加者数　38名

富士の樹海に生息している植物について説明を受けている様子

駆除した外来種植物を掲げる学生

11. インクルーシブデザインワークショップ体験会

日　時　2018年5月23日（水）

場　所　富士見坂校舎F303

概　要

東京２０２０応援プログラム「インクルーシブデザインワークショップ体験会」を5月２３日に市ヶ谷ボランティアセンターで実施し、２１名の学生が参加しました。本プログラムは、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に「東京２０２０応援プログラム」として認定されました。

２０２０年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、大会組織委員会は、障がいの有無に関わらず、すべての人々にとってアクセシブルでインクルーシブな大会となるような様々な取組みを推進しています。本学学生においても、その取り組みを理解し、相互の人格と個性を尊重し合う共生社会の実現に貢献できるよう「インクルーシブデザインワークショップ体験会」を、開催しました。

体験会では、冒頭に講師である株式会社インクルーシブデザイン・ソリューションズ　高山希氏から、インクルーシブデザインとは、高齢者、障がい者、外国人など、従来、デザインプロセスから除外されてきた多様な人々を、デザインプロセスの上流から巻き込むデザイン手法であることが説明されました。次に、日頃私たちが何気なく使用しているストローや、リンスとシャンプーを見分けるためのボトルについている凹凸や、iPhoneなどは、インクルーシブデザインの思想から開発されたことが説明され、参加した学生たちは興味深く聞いていました。

その後、「絆創膏を上手に貼るには？」をテーマに２人１組になりワークショップを行いました。２名の内１人は、目が見えない、片方の手が使えないなどのハンデを設定し、絆創膏を袋からとりだし怪我をしていると想定した部位に絆創膏を貼ります。もう一方の学生は、この一連の動作観察し、１つ１つの動作を附箋に書き出していきます。

その後、何が「絆創膏を上手に貼るには？」を阻害していたかを洗い出し、課題を解決する絆創膏の形状を提案しました。

参加した学生からは、片手で指に絆創膏を巻くのは困難だったので、巻きつく安全反射バンドのように、一部を貼り付けたら自動的に巻き付くような素材にしてはどうか？目が見えない状態だと表面、裏面がわかりにくいので、表面には凹凸をつけてはどうか？などのアイデアが出ました。今後も市ヶ谷ボランティアセンターではこのような障がいの有無に関わらず、共生社会の実現に貢献できるようワークショップを実施していきます。

学生参加者数　２１名

目がみえないと想定して、絆創膏を袋から取り出し貼る

現状の課題を洗いだし、課題を解決する絆創膏の形状をデザインしている学生たち

12. 神田すずらんまつり

日　時　2018年5月26日（土）終日

場　所　神保町すずらん通り

概　要

5月26日（土）、市ヶ谷ボランティアセンターが「神田すずらんまつり」に協力し、一般学生15名、VSPスタッフ12名の学生スタッフが参加しました。神保町のすずらん通りで開催されている「神田すずらんまつり」は今年で32回目を迎え、和太鼓や吹奏楽のコンサート、読み聞かせ、水彩画教室、囲碁教室などをおこない、地域の交流促進を目的にしたお祭りです。

今回は、神田すずらんまつり実行委員会より、法政大学のボッチャの取り組みを披露して欲しいと依頼があったこと、千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに所属する共立女子大や二松學舍大学などの大学や明治大学などの近隣の大学が既に協力していることから、神田すずらんまつりに協力させていただきました。今回、法政大学はボッチャ体験教室の出店、交通整理やごみの分別などの運営ボランティア、囲碁教室運営ボランティアを担当して、神田すずらんまつりに貢献しました。

ボッチャ体験教室では、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が祭りに来場した方々にボッチャのルールを教え、体験できるブースを出店し、432名の方に体験していただきました。このボッチャ体験教室は、東京2020参画プログラムにも認定されており、ボッチャを体験された方々には東京2020のピンバッチをプレゼントしました。

子供たちからお年寄りまで様々な年代の方々、フランス、カナダ、ロシアなどの様々な国籍の方々が参加しましたが、学生たちの柔軟な対応力で参加者全員にボッチャの魅力を伝え東京2020の機運を高めることができました。

また、すずらんまつりに協力してくれた他大の学生たちもボッチャ体験教室に参加してくれたり、交通整理やごみの分別などの運営ボランティア、囲碁教室運営ボランティアを大学の垣根をこえ協力して行ったりすることで近隣の大学との交流も深めることができました。

今後も法政大学ボランティアセンターでは近隣の大学と連携し、地域に貢献するボランティアを積極的に行っていきます。

【参考】

千代田区内近接大学高等教育連携強化コンソーシアム　https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html

法政大学のボッチャの取り組みについて　https://participation.tokyo2020.jp/jp/report/student_0009.html

学生参加者数　27名（運営ボランティア含む）

地域の方とボッチャをする

集合写真

13. 保護ねこカフェで学ぶ動物愛護ツアー

日　時	2018年5月29日（火）
場　所	ネコリパブリック東京　池袋店
概　要	

市ヶ谷ボランティアセンター主催で「猫たちに会いに行こう！～保護猫カフェで学ぶ動物愛護ツアー～」を実施し、22 名の学生が参加しました。保護猫カフェは、猫の殺処分ゼロを目指し来店するお客さんが保護猫と触れ合いながら里親を探すことができる猫カフェです。また、今回訪れた保護猫カフェを経営しているネコリパブリックでは保護猫カフェの運営の他に、猫グッズの販売、猫関連のイベントを開催するなどして猫を保護するための費用を捻出しています。そのような保護猫活動のお話や、猫との触れ合いを通じて学生に保護猫カフェの活動を知ってもらうことを目的に開催しました。当日は、講師の上野佳世子氏にネコリパブリックの保護猫活動のお話をしていただきました。

保護猫の里親探しは一般的に、譲渡会で行われますが、譲渡会では猫は緊張してしまい、その猫の本来の性格が分かりません。しかし、保護猫カフェでは、普通に暮らしている猫の生活を見ることができ、それぞれの猫のありのままの性格を知ることができます。来客の中にはピンときた猫の里親になってくれる方や、また一方保護猫の中には、性格が合わずカフェに戻ってきてしまう猫もいるそうです。スムーズに里親が見つかるだけでなく、その猫の本来の性格を知った上で引き取ることによって、猫と里親がお互い良好な関係を築ける可能性が高いようです。

＜参加学生の感想＞

多頭飼育崩壊など、ワイドショーなどで見かけて知ってはいたものの実感として感じられなかった問題が、実際にそういう環境に置かれていた猫と触れ合うことで、現実のものとして考えることができました。

猫たちは人間たちの都合で、居場所を失ったり、子孫を残す機会を失ったり、殺されたりと理不尽な目にあっているので少しでも、そのような 猫を助けられるように努力していきたいと思います。

また、猫好きな人は多いのでそんな人に猫に関わる様々な問題をもっと知ってほしいと思いました。

キャリアデザイン学部　３年　中野　実織

学生参加者数	22名

保護ねこカフェの運営方法、サクラ猫などについて説明をうける

猫の温かみにしばし癒される

14. ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング

日　時　2018年5月31日（木）

場　所　富士見坂体育館

概　要

東京２０２０応援プログラム「ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング」を５月３１日に市ヶ谷ボランティアセンターで実施し１５名の学生が参加しました。

本プログラムは、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に「東京２０２０応援プログラム」として認定されました。

ブラインドサッカーとは、アイマスクをつけ、音のなる特殊なボールを使うフットサルです。アイマスクをつけて視界を遮ることで、全員が公平な状態でプレーすることができます。今回の企画では、ブラインドサッカーを通じて、チームビルディングに必要なコミュニケーション法を体験すると同時に、「見えない」ことがどういうことかを体で感じることを主な目的としました。

プログラム中に様々なワークを行いましたが、特に、「見える人」と「見えない人」が混ざって試行錯誤するワークは、チームビルディングを学ぶには最適な内容でした。このワークは、頭上から後の人にボールを渡し、順番に列の後ろに並びなおして進む速さを競います。見えない人は最後尾が分からず、ボールは渡せるものの移動ができません。お互いに、誰がボールを持っているか、列の最後尾がどこなのかを教え合うことで、スムーズにパスができるようになりました。

また、音だけを頼りにコーンにボールをあてるなどのワークも実施しました。

このプログラムを通して、それぞれのあだ名で呼び合うことで、自ずとチームメイトとの距離が近くなり、意見を出し易い雰囲気になりました。参加者には、名前を呼びあうという些細なことが、チームビルディングには非常に効果的であるということがわかっていただけたかと思います。

本プログラムを通して、障害者と健常者の間の「見えない壁」を取り払い、視覚障害者との共生に関心をもってもらうこと、仲間が主体的に自分らしさ、多様性を発揮しつつ、相互に関わりながら一丸となって共通のゴールを達成しようとするチームビルディングを学ぶことができたかと思います。

学生参加者数　１５名

音を頼りにボールを蹴る

ボール送り競争をするワーク

15. 外国人おもてなし語学ボランティア育成講座

日　時　2018年6月2日（土）、11月17日（土）

場　所　55・58年館　857教室

概　要

市ヶ谷ボランティアセンターと東京都が共同で、６月２日、１１月１７日に２回「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を実施し、合計１１２名の学生が参加しました。

東京都と法政大学は、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、外国人観光客等が安心して東京に滞在できる環境を整えるため、本講座を実施しており今回は本年度で５回目の実施となります。

東京都が単独で実施している本講座の受講者は、40 代、50 代以上の方が多く、大学と東京都が共同で実施することによって、10 代、20 代の参加も促せるのではないかと思い東京都と協定を締結し本講座を実施いたしました。また、東京都が単独で実施している本講座の抽選倍率は 20 倍～30 倍であるため、共同で実施することによって本学学生が優先的に受講する場を提供することができました。

当日は、台東区谷中にある「澤の屋」という旅館を紹介した動画を見た後に、おもてなしに関する基礎知識としてコミュニケーション力と問題解決、ボランティアスピリッツについて学びました。講師の話を一方的に聴講する講座ではなく、グループワークやペアワーク通して、参加者が発表する形式であったため、全員が積極的に参加することができ、非常に満足度の高い講座となりました。最後に、この講座の参加者全員で「おもてなし５箇条」を作成し、ボランティアスピリッツを共有しました。

講座終了後に登録証とバッジが配布され、法政大学から１１２名の「外国人おもてなし語学ボランティア」を輩出することができました。

学生参加者数　6月2日：５９名　　１１月１７日：５３名

講座風景１

講座風景２

16. 料理 de 難民を知る
～郷土料理が味わえる世界の料理教室～

日　時	2018年6月2日（土）
場　所	千代田区富士見区民館
概　要	

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が６月２日(土)に「料理 de 難民を知ろう～世界の郷土料理作り体験～」を実施し、１２名の学生が参加しました。

日本では難民の受け入れが少ないため、難民に対する理解は十分ではありません。今回は難民についての理解を深めようと、前半に公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の鈴木晶子氏にワークショップと講演をしていただきました。後半は班ごとに難民国の郷土料理を作りました。

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会は教育を受けることが困難なアジアの子供たちに絵本を届けるなどの教育支援や、緊急救援を行っているNGO です。実際に難民キャンプなどを訪れて図書館設立、学校建設の活動も行っています。

前半のワークショップでは、自分が難民であると仮定して、国外に避難する際に、衣服やお金、防寒具などの複数の物品の中から何を持っていくか班に分かれて話し合い、発表しました。初めは 15 個、次に７個というように数を減らしていき、避難するうえで何が本当に必要なものであるのかじっくり考えました。ここでは、正解はなく価値観の違いについて焦点が当てられました。ワークショップを通して私たち一人一人のものに対する価値観が違うことを体感することができました。また、難民は毎日の生活の中で生死に関わる判断を強いられているということを学びました。講演では、実際に難民キャンプで生まれ育つ同年代の若者の生の声をお話ししていただき、難民の実態を知りました。子供や若者は教育を受けることも夢を持つこともできず、難民キャンプでの自殺率も高いそうです。毎分 20 人の人々が避難を余儀なくされているということで、数字で見るとさらに難民の深刻さを感じました。とても考えさせられる内容でした。

後半は、パキスタンの伝統的な家庭料理、『カラヒィ』を作りました。『カラヒィ』は鶏肉、トマト、ヨーグルト、生姜、ミックススパイスを使った煮込み料理です。この料理名はアフガニスタン、パキスタンにまたがる地域で使われている丸い鉄鍋からきているそうです。人数分よりも多く作りましたが、おいしく食べきることができました。参加学生からは「家でも作ってみたい」との感想もいただき、難民国の食文化に触れながら難民について理解を深める場となりました。

《企画学生の感想》

難民について、難民の立場に立って考えるワークショップを行ったことで理解を深めることができました。また難民キャンプでの人々の自由のない厳しい現状を知り、自分のできることから支援していきたいと思いました。その後はみんなでカラヒィという料理を作りました。スパイスがよく効いて美味しく食べることができました。

ーから企画を考え実施するまでは大変でしたが、難民についての理解がワークショップや料理を通じて深まり、とても充実した講座になりました。

経営学部市場経営学科３年　山根　江莉奈

今回の企画で難民の理解を深めることはもちろん、ワークショップ、料理を通して他学部他学年の学生が交流する場を提供できたことを嬉しく思います。
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の難民の気持ちを疑似体験できるワークショップ、難民の実態についての講演が大変好評でした。とてもハッとさせられることが多く、私自身も勉強になりました。現地の難民の声を聞くことはなかなかないことなのでとても貴重な経験となりました。
時間の関係上、質疑応答の時間を設けることができなかったことが反省点です。
今回、企画に携わるのが初めてで不安なこともありましたが、無事に終えることができてよかったです。

経営学部経営学科２年　長町　靜

いざ、逃げる時に選ぶ持ち物。どうしても日本人の価値観から選んでしまう自分がおり、難民の立場になって考えることの難しさを感じさせられました。
ワークショップと講義に加えて料理というプログラムがあったことで、単に知識としてだけでなく、生活面においても難民について理解が深まったと思います。

経営学部経営学科２年 菅 結菜

学生参加者数　１２名

講師より難民キャンプの現状を聞く

避難時にどのような物を持って行くかグループで話し合う

パキスタンの伝統的な家庭料理『カラヒィ』を作る

協力して無事に作ることができました！

17. 東京メトロ飯田橋で行う 地域サポートボランティア研修会

日　時　６月９日（土）、16 日（土）

場　所　外濠校舎５階 526 会議室、飯田橋駅

概　要

市ヶ谷ボランティアセンターと東京メトロは、2018 年度も大学近辺の飯田橋駅で、駅構内の「見守る目」を強化するため、学生による駅構内のボランティア活動を継続して実施しています。
2017 年６月にスタートしたこの活動は、大学と東京メトロがこのような取り組みで連携した初の試みでした。

２期生のボランティア活動の実施に先立ち、６月９日（土）、６月 16 日（土）に法政大学市ヶ谷キャンパスと東京メトロ飯田橋駅で事前研修会を行い 35 名の学生が参加しました。
公益財団法人日本ケアフィット共育機構を講師に招き、座学と実技を交え、活動にあったての基礎知識や注意点、心構えを学びました。

まず座学では、障がい者差別解消法の説明からはじまり、障がいのレベルや内容は個人差があることから、人によってはサポートを不要としている人もいるので、必ず声がけをして確認して欲しいとお話しがありました。またこの他に簡単な手話などの障がい者との接し方について教えていただきました。

その後、車椅子利用者や視覚障がい者との接し方についての実技を行いました。車椅子の折り畳み方などの基本的な車椅子の取り扱い方法からはじまり、段差を乗り越える方法などを体験しました。
また視覚障がい者の気持ちを理解するために、視界が悪くなるゴーグルを装着し、どのように見えるかを確認してもらった後、２人１組になり、片方が目を閉じて、もう片方が肘を掴んでもらい介添え歩行体験をしました。
この研修会の最後にペーパーテストを実施し、参加者全員がサービス介助基礎検定の資格を取得することができました。
その後、市ヶ谷キャンパスから飯田橋駅に移動し、ホームに設置されているインターホンや、出口の場所などやトイレの場所を確認しました。また、2017 年度活動してきた１期生からこれから活動する２期生にむけて注意事項や心構えについて話してもらい研修会を終えました。

学生参加者数　35 名

車いすを押して段差を乗り越える

視界が悪くなるゴーグルを装着して文字の表示を確認

１期生から２期生に注意点をレクチャー

東京メトロ職員員より駅構内について解説

18. グリーンツーリズムによる被災地の地域コミュニティの形成促進

日　時　２０１８年6月１３日（水）

場　所　外濠校舎５２６会議室

概　要

市ヶ谷ボランティアセンター主催で６月 13 日に～電通育英会助成事業～「グリーンツーリズムによる被災地の地域コミュニティの形成促進」を実施し、32名の学生が参加しました。

震災から 7 年経過し避難生活の長期化や、災害公営住宅等への移転など被災者を取り巻く生活環境が変化する中で被災者が安定的な日常生活を営むことができるようにグリーンツーリズムを活用し地域コミュニティ形成の促進を行っている遠野 山・里・暮らしネットワークの田村隆雅氏を講師としてお招きし、被災地の今とグリーンツーリズムの活用方法についてお話をしていただきました。

また、本学 OG（現代福祉学部）である田辺愛氏も講師としてお招きし、学生時代に実施した岩手県被災沿岸部と遠野市を結ぶ「地域おこしツーリズム」などの学生だからこそできる被災地の活性化について、お話をしていただきました。参加した学生たちは、田村氏や田辺氏のお話を聞いて、今必要とされている被災地支援を学べたのではないでしょうか。ボランティアセンターではこのような被災地の今を知り考える講座を今後も行っていきます。

＜参加学生の感想＞

私がイメージしていた被災地支援は、仮設住宅での交流や雑草除去などのボランティアでしたが、被災地に活気をとり戻すには被災地の魅力をつたえ被災地に来てもらい、住民たちと交流を深め、第二の故郷だと思ってもらえるような働きかけをしていくことが重要だと気づかされました。休暇等を利用して被災地のいいところを見つけ発信していきたいです。

学生参加者数　３１名

講師の田村氏の話に聞き入る学生たち

本学 OG 田辺氏が学生時代に取り組んだ被災地支援の講演

19. あの子の気持ち
―疑似体験を通して発達障がいを理解しよう―

日　時　2018年6月15日（金）

場　所　外濠校舎5階526会議室）

概　要

6月15日（金）にボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が「東京2020応援プログラム」として＜あの子の気持ち―疑似体験を通して発達障害を理解しよう―＞を実施し、16名が参加しました。

このプログラムでは、まず発達障がいの中でも自閉症スペクトラム障がいをもつ方の一部の症状を体験してもらうワークを行いました。この障がいをもつ方は68人に1人いると言われており、決して特別な存在ではなく身近な存在です。そのような方がどのように考え生活しているのか、どのような支援を求めているのか少しでも理解してもらおうと学生が講師である NPO 法人 ADDS と考案したワークを3つ行いました。

ワーク中は、視野を狭くするゴーグル、手先の不器用さを体感する軍手、聴覚の過敏さを体験する集音器を装着した状態で、講師に扮した学生スタッフが言ったことをノートに書きとるディクテーションや、セブンイレブンでの買い物、ボール運びや自己紹介や本の読み聞かせやリボンを結ぶなどの様々なミッションをクリアしていくゲームを実施し、日常何気なくやっていることがどれだけ大変なのかということが体感できました。特に、ディクテーションでは周りの環境や話し手の話し方によって同じ内容であっても書き取れる量が大きく違うことが分かりました。

最後に、NPO 法人 ADDS 加藤愛理氏から講義をしていただきました。自閉症スペクトラム障がいは特別なものではなく、一般の健常者であっても少しはそのような側面を持っていることなど大変勉強になる講義でした。

このプログラムを通じて、発達障がいについて理解を深め、またそのような方を支援するためにもさらに詳しく学びたいと思える機会になったと思います。

＜参加学生の感想＞

障がいのある方をサポートする人の大切さを学びました。また、人だけでなく手すりや点字、補聴器などの物の配慮も必要であると改めて思いました。障がいを持つ方と健常者が「差別」するのではなく、相手に合わせた対応をして「共存」する手段を模索する必要があると考えました。

学生参加者数　16名

ゴーグル、軍手、集音器をつけた状態で
バランスをとりボールを運ぶ体験

クリアしたミッションにシールをはっていく

20. 災害救援ボランティア講座

日　時　2018年6月16日、23日、30日（毎回土曜日）

場　所　55年館574教室、柔道場、本所防災館

概　要

市ヶ谷ボランティアセンターでは、6月16日、23日、30日の全3日間、災害救援ボランティア推進委員会、東京防災救急協会、千代田区・千代田区社会福祉協議会のご協力のもと「災害救援ボランティア講座」を実施し23名の学生が参加いたしました。

第1日目は、市ヶ谷キャンパス55年館574会議室にて千代田区社会福祉協議会の取り組み、災害救援ボランティアの基本、被災地での安全衛生、防災対策の基本などを学びました。

第2日目は、本所防災館で災害模擬体験と実技などを行い、大学に戻り被災地での安全衛生、「災害時のチームビルディングとリーダーシップ（図上訓練など）」などのグループワークを行いました。

第3日目は、上級救命技術講習として応急手当活動について実技を交え学びました。人工呼吸、AEDの使用方法、災害時などでのけがの応急処置を含めた実践的な講習内容でした。

災害救援ボランティア講座は、毎年行われており全講座受講により、上級救命技能認定証、セーフティリーダー認定書が交付されます。市ヶ谷ボランティアセンターでは、災害時などにリーダーとしてボランティア活動ができる学生の育成を目標にしています。

＜ 参加学生の感想 ＞

災害救援ボランティア講座の受講を終えて、防災や応急処置に関しての意識が高まりました。外出の際には水を持参するなど、地震が起こる等いざという時に、身を守るための知識を教わることができ有意義でした。また、怪我をした際に三角巾一つで包帯にする処置の仕方や、また代用品で応急処置ができることを知り、今後に生かしていきたいと思いました。　　法学部　2年

学生参加者数　23名

1日目：災害救援ボランティアの基本講習

2日目：本所防災館での災害模擬体験

3日目：上級救命技能講習　三角巾を使った応急手当

21. 学んで遊ぼう子ども食堂ボランティア

日　時　2018年6月16日（土）

場　所　高円寺子ども食堂

概　要

6月16日（土）、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が「学んで遊ぼう子ども食堂ボランティア」を実施し6名の学生が参加しました。

子ども食堂とは、何らかの家庭事情により、家庭で十分な食事がとれなかったり、孤食になってしまう子ども達に美味しい食事と居場所を提供することを目的に始められたものです。さらに今年の4月から以前も行っていた「無料学習塾」も同日に実施しています。

今回は3回目の訪問ですが、これらの活動のお手伝いをし、子ども達が充実した時間を過ごせるようにサポートをするとともに、児童教育支援に興味のある学生たちにこの経験を通して将来を考えるきっかけを提供することを目的として実施しました。

まずは午前中に「無料学習塾」のお手伝いをしました。幼稚園生から中学まで多くの子どもが参加し、家から持ってきたり、用意された教材を進めました。参加学生は熱心に楽しく勉強に取り組めるように子ども達をサポートしました。問題が解けたときは褒めてあげることで、子ども達もより集中して取り組めたと思います。

その後食堂に移り、午後から来た子ども達を含め、昼食をとりました。食事を終えた子ども達に絵本を読み聞かせたり、折り紙を一緒に作ったりしました。

他にも受付や皿洗い、片付けのお手伝いもしました。今回参加した学生は全員が初めてでしたが、各自積極的にボランティア活動をし、子どもの様々な表情をみることができて、良い経験になりました。

今後は新たな企画を考えながら、継続して子ども食堂を盛り上げていきます。

学生参加者数　6名

食事の前に集まってきた子ども達に勉強を教える

70人以上の食器を洗って片づける

22. 会話の見える化アプリ体験！
～音声認識＆多言語翻訳で会話をリアルタイム表示～（UDトーク）

日　時　２０１８年6月２１日（木）

場　所　外濠校舎５階５２６会議室

概　要

6月21日(木)にボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が、「東京2020応援プログラム」として〈会話の見える化アプリ体験！～音声認識＆多言語翻訳で会話をリアルタイム表示～〉を実施し、18名の学生が参加しました。今回は「UD トーク」というスマートフォン向けアプリを使用して活動を行いました。このアプリは、話した言葉を音声認識によって即座に文字化する機能や、多言語に翻訳できる機能があるため、障がい者や外国人との会話の幅を広げることができます。

このプログラムでは、前半に「UD トーク」を開発した青木秀仁氏に、開発に至った経緯や、アプリの機能や使い方、そして障がいをもつ方と接する上での大切なことなどについて詳しく講義をしていただきました。後半は、「UD トーク」を使ったワークショップを行い、参加者全員に UD トークを使っていただきました。健常者、視覚障がい者、聴覚障がい者の役をロールプレイし、グループ内で猫と犬どちらが好きか？などの簡単な二択問題についてUD トークを用いて話し合うという内容です。例えば健常者が聴覚障がい者に言いたいことを伝える場合は、スマホのマイクに向かって話し、UD トークの音声認識機能を用いてスマホに表示された文章を見せます。また、今回のワークショップでは、聴覚障がい者の役は聞こえない話せないという前提条件があるので、聴覚障がい者が視覚障がい者に言いたいことを伝える場合は、スマホに文章を打ち込み、UD トークの音声読み上げ機能を用いて文章をスマホのスピーカーから流します。簡単な二択問題とは言え、障がいをもった方とコミュニケーションを取ることの難しさと、普段とは異なる立場での会話を体験する貴重な時間になったと思います。講義やワークショップを通して、私たちの何気ない会話の伝わりづらさや、障がいをもつ方と会話をする際の工夫点など、多くのことを感じ取り考えていただく良いきっかけとなったのではないかと思います。今後も言葉を「伝える」という意識をもっていただけるような活動を行っていきます。

ボランティアセンター学生スタッフ　文学部日本文学科１年　齋藤　真悠

〈参加学生の感想〉

日本語教師になる夢のためにこの企画に参加しましたが、言語の壁よりも、目の前の人とどのようにコミュニケーションをとっていくかというもっと前段階のことを問いただされました。機会に頼るところ、自分の力に頼るところをもう一度見直して、磨きをかけていきます。

文学部日本文学科３年

学生参加者数　１８名

UD トークの開発者に説明を聞く

視覚障がい、聴覚障がいの方の立場になって会話をする

23. 都市と地域とをつなぐ銀座ミツバチボランティア

日　時　2018年 6月25日（月） 事前講義編
　　7月　1日（日） ボランティア活動編

場　所　外濠校舎5階526会議室　事前講義編
　　中央区銀座　紙パルプ会館　ボランティア活動編

概　要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が６月 25 日(月)「都市と地域とをつなぐ銀座ミツバチボランティア～事前講義編」を実施し、２１名の参加、７月１日（日）には、「ボランティア活動編」を行い、猛暑の中 14 名の学生が参加しました。

都心にある市ヶ谷キャンパスに通学する学生の多くは日常生活において、自然を意識する機会が少ないことから、都市と自然の共生についての理解が乏しいのが現状です。都市と自然の共生について理解し、地域共生を考えていくことは、私達学生にも重要であると考え「都市と地域をつなぐ銀座ミツバチボランティア」を企画しました。
この企画は昨年にも行われましたが、今回は前回の反省をふまえ、実際のボランティア活動前に、銀座ミツバチプロジェクト代表の田中淳夫氏と人間環境学部 高田雅之教授を講師としてお招きし、事前講義を行いました。
都市と自然環境との共生を目指し、銀座の屋上で養蜂を行っている、銀座ミツバチプロジェクトの田中氏からは、ミツバチの生態や銀座の屋上で行われている養蜂、プロジェクトを通した自然との共生や、銀座ミツバチに関わる様々な人の結びつきの大切さを学ぶことができました。人間環境学部高田教授による講義では、ミツバチを取り巻く世界的な問題や都市の自然について詳しく講義していただき、自然との共生についての理解を深めることができました。また、講義では「ボランティアをするということ」についても改めて考えることができました。

また、７月１日（日）ファームエイド銀座の運営ボランティア活動には 30℃を超える暑さの中、14 名の学生が参加しました。ミツバチ見学会では、ビルの屋上で実際に蜜蜂が飛び交う中、話を聞くことによって、６月 25 日に行われた講義の内容を実感できた学生も多かったと思います。マルシェ（物販販売）では、日本全国の出店者の方々と共にその地域の特産品を銀座のお客様にアピールできました。当日は法政大学の他に立正大学や千葉商科大学の学生ボランティアが 40 名ほど参加し、協力して活動ができ、親交を深めることもできました。

人間環境学部３年　中村　美月
デザイン工学部１年　久保　百合恵

＜参加学生の感想＞

銀座の屋上での養蜂がメインの活動だと思っていましたが、養蜂やその他の活動を通して得たコミュニティを活かして幅広く活動している事がわかりました。また、実際に販売のお手伝いをする事で生産者の方の想いやビジネスの現場を直接目にする事もできました。私がお世話になった佐藤さんや他の出店者の方々はお話を聞かせて頂いたり、商品をお裾分けしてくださったりと皆さんとても朗らかで温かかったです。人と人の繋がりが都市と地域が繋がりであるのだと実感しました。

人間環境学部３年　吉田　美穂

私は事前講義とファームエイドでのボランティア活動の両方に参加しました。事前講義では今まで知らなかったミツバチや都市環境のことを多く知ることができたので良かったです。ファームエイドでは特産品の販売を行いました。当日はとても暑かったのですが、子どもからお年寄りまでたくさんの笑顔に出会うことができ、貴重な経験になりました。今回のボランティアを通して、身近な環境を考えるときに、自分の学部や普段何を勉強しているかなんて関係ないと感じました。また機会があれば参加したいと思います。

文学部日本文学科１年　齋藤 真

学生参加者数

事前講義編　２１名

ボランティア活動編　１４名

人間環境学部高田教授と銀座ミツバチプロジェクトの田中氏の講演

銀座で採れたハチミツをティスティング

暑い中で他大学学生と協力し地域の物産展を販売するボランティア

ファームエイド銀座でハチミツ入りの商品の販売ボランティア

24. 避難所体験～東日本大震災から学んだこと

日　時	2018年7月1日（日）
場　所	外濠校舎5階526会議室
概　要	

千代田区キャンパスコンソ協力プログラム「避難所体験～東日本大震災から学んだこと」をボランティアセンター学生スタッフ（チーム・オレンジ）が、7月1日（日）に市ヶ谷キャンパスで実施し、33名の学生が参加しました。

首都直下地震が高確率で発生すると言われていて、いつ起きてもおかしくない状態です。チーム・オレンジでは東北ボランティアツアーや東北スタディツアーなどの被災地に赴く企画を毎年継続的に実施する中で、防災の重要性について身をもって感じ、自ら学んできました。今回はチーム・オレンジが学んだ知識を千代田区キャンパスコンソ所属大学の学生と共有し、防災について改めて考える企画を実施しました。

千代田区キャンパスコンソ協力プログラムということもあり、たくさんの共立女子大や二松学舎大の学生も参加し、近隣の学生たちが協力して防災について学びました。

この企画では、防災クイズ、非常食試食、防災クイズカルタ、避難所運営ゲームなどを行いました。非常食試食では、学生がセレクトした缶入りパンや水をいれるだけで作れるピラフなどを実際に試食することで備蓄を促す目的で行いました。防災クイズカルタは、毎日新聞にも掲載されたチーム・オレンジが作成したオリジナルのカルタです。避難所運営ゲームでは、避難所の運営側の立場になり、様々な被災者をどこに配置するかなどのことを班で話し合い、運営の難しさを感じてもらいました。最後には各班でどのように配置したのかを共有しました。

【参考ホームページ】

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム　https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html

防災かるた　https://www.facebook.com/ HoseiUniversity/posts/ 1506787342784251

学生参加者数　33名

様々な避難者が来た際に、避難者をどこに配置するか図上でシュミレーションする

チーム・オレンジが自作した防災クイズカルタを共立女子大生、二松学舎大生と体験

25. SMBC日興証券×法政大学 地域のこどもたちにパラスポーツを知ってもらおう

日　時　２０１８年7月4日（水）

場　所　千代田区ふじみわんぱくひろば

概　要

ボランティアセンターでは、７月４日（水）に、SMBC日興証券とともに、地域のこどもたちにパラスポーツを体験してもらうイベント「地域のこどもたちにパラスポーツを知ってもらおう！」を児童館「富士見わんぱくひろば（東京都千代田区、以下わんぱくひろば）」にて開催し、94 名の大学近隣に住む親子が参加しました。

ボランティアセンターでは、ボランティアセンターに所属する学生スタッフ（VSP）が中心となり、市ヶ谷キャンパス近隣の児童館、わんぱくひろばでこどもたちを対象とした企画を定期的に開催しています。今回、学生スタッフ（VSP）が児童館へニーズを調査し、２０２０年を前に、パラリンピックで開催されるスポーツを知ってもらうためのイベントを企画しました。

種目は、現在こどもたちの間で流行しているバスケットボールと２０２０年の東京パラリンピックで正式種目となるバドミントンの２種類とし、パラアスリートが所属するSMBC日興証券に学生スタッフが企画を持ち込み、実現に向け協議するとともに、実際に競技を体験したいというこどもたちの声に応えるため、競技用車いすメーカーなどに掛け合って競技用車いす２１台を無償貸与いただく運びとなりました。さらに大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松學舍大学、法政大学が２０１８年4月1日に設立した「千代田区内隣接大学の高等連携強化コンソーシアム（千代田区キャンパスコンソ）」を構成する他大学の学生も企画に加わりました。

当日は、SMBC日興証券に所属する千脇貢選手（車いすバスケットボール）とSMBCグリーンサービスに所属する村山浩選手（車いすバドミントン）にお越しいただきました。
パラリンピックについてこどもたちに学生たちがスライドを用いて教えた後、学生たちから競技用車いすの乗り方を教えました。その後、競技用車いすに乗った状態で、選手とフリースロー対決や学生たちがなげた風船を打ち返しパラスポーツに親しみました。また、選手にシャトルを投げ打ち返してもらったり、実際のドリブルやシュートを披露してもらったりする中で、こどもたちはパラアスリートの凄さを実感したようでした。

【参考ホームページ】

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム　https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html

＜企画学生のコメント＞

今回の体験会を通してこどもたちからは「パラリンピックに興味がわいた」、「東京 2020 が楽しみになった」などの感想があがりました。多くの方の協力があり、大成功の形で終える事が出来てよかったです。これからも東京 2020 を広める活動をしていきたいです。

学生参加者数　１４名　（プログラム全参加者数１０８名）

競技用車いすメーカーに企画の趣旨を説明し、
無償貸与を交渉

パラリンピックとは何かこどもたちに説明する学生

こどもたちに競技用の車いすで曲がる際のコツを教えている様子

競技用車いすにすわり学生たちがなげた風船を打ち返す

26. 東北・熊本物産展

日　時　2018年7月5日（木）、6日（金）

場　所　一口坂校舎

概　要

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが、７月５日(木)・6(金)に一口坂校舎 1 階情報発信スペースで「くまモン×えこぴょんコラボグッズ今年も作りました！東北・熊本物産展」を開催しました。

東日本大震災の復興支援に取り組んでいるチーム・オレンジは、東北・熊本物産展を実施しました。この企画は、学生ができるボランティアとして震災の風化を防ぐために、4 年前から行われてきました。2016 年 4 月の熊本地震を受け、東北の商品のみならず熊本の商品もそろえて、岩手県の有名な銘菓「かもめの玉子」や熊本城の空に映える満月をイメージしたミルク餡まんじゅうの「新月下の熊本城」など学生が選んだ東京ではなかなか買えない商品を販売しました。

また昨年度の物産展でも販売し好評だった本学の公式キャラクター「えこぴょん」と熊本県の PR キャラクター「くまモン」とのコラボグッズを今年もボランティアセンター学生スタッフ VSP に作製を依頼し、販売しました。

７月４日には、ボアソナードタワーのフォレストガーデンで物産展を PR するため、プレ販売を行いました。多くの学生がその場で商品を手に取って買い、興味を持ってくれました。また、物産展当日は、笹の飾りを作るワークショップと、チーム・オレンジが開発し、毎日新聞等に掲載された「防災クイズカルタ」の展示をし、えこぴょんと協力しながら一口坂校舎の前ではっぴを着て、積極的な呼び込みを行いました。

324 名の方に来場していただき、売上額は、228,790 円に達し、利益の 11,710 円はすべて、熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付いたしました。

東京でできる被災地支援や、震災の風化防止に関する取り組みを、市ヶ谷ボランティアセンターは今後も続けていきます。

【参考ホームページ】販売商品　http://www.hosei.ac.jp/volunteer/NEWS/zaigaku/180621_01.html

防災かるた　https://www.facebook.com/%20HoseiUniversity/posts/%2015067873427842 51

学生参加者数　２５名　（全体来場者数 324 名）

フォレストガーデンでのプレ販売の様子

学生たちがセレクトした商品を販売しました

27. 見えないけど見えている？ゴールボール体験教室

日　時　2018年7月5日（木）

場　所　富士見坂校舎体育館

概　要

２０１８年7月5日に「東京２０２０応援プログラム」見えないけど見えている？ゴールボール体験教室を市ヶ谷ボランティアセンターで実施し、９名の学生が参加しました。

ゴールボールとは、戦争で目に障害を負った軍人のリハビリを目的として考えられたプログラムをスポーツにアレンジしたものです。選手全員が目隠しをし、３対３で行う球技です。パラリンピックの正式種目として２０２０年の東京パラリンピックでも実施されます。

今回の企画では、実際に体験する前に、世界選手権にも参加している日本代表主将の信澤用秀氏と、国際審判員で東京都ゴールボール連絡協議会の小野和人氏に講演していただきました。ゴールボールのルールについての説明だけでなく、ゴールボールを取り巻く環境や視覚障がいを持つ方の私生活に関することまで貴重なお話を伺うことができました。

ゴールボールの体験では、３人ずつのチームに分かれてゲームを行いました。視覚が使えないことの難しさや、ボールの軌道を読む面白さを知りました。ゴールボールの奥深さを感じることができたと思います。また、信澤用秀氏のプレーを間近で見ることもでき、参加者からは驚嘆の声が上がっていました。

参加者は東京パラリンピック２０２０への意識が向上したとともに、視覚障がいを持つ方への理解を深めることができたと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）　経営学部経営学科３年　　野村 英吉

学生参加者数　９名

ゴーグルをした状態で相手コートにボールをなげこむ

集合写真

28. 防災ゲーム Day～そなエリア東京

日　時　2018年７月７日（土）

場　所　そなエリア東京（江東区有明）

概　要

７月７日（土）にボランティアセンター学生スタッフ（チーム・オレンジ）が一般社団法人防災教育普及協会主催イベント「防災ゲーム Day2018in そなエリア東京」で、開発した防災クイズカルタの体験会と展示を行いました。
このイベントは、東京都教育委員会、 江東区の後援を得て、 防災教育材やプログラムの普及啓発を目的とし、毎年実施されています。
チーム・オレンジの体験会には、31 名の来場者にお越しいただき約 40 分間、講師を務めました。
防災クイズカルタは、読み上げる札が防災に関するクイズになっており、「地震が起きた時、家のどこへ行けばいいか？」などの質問に対する答えとなる絵札を選ぶルールになっています。また、質問に対する絵札は正解の絵札だけなく、間違いの絵札もあることから、参加者は議論しながらカルタの正解を導きだし、そのプロセスを楽しんでいるようでした。
また、体験会終了後、展示エリアにて、「展示・体験コーナー」を設け多くの来場者に学生が開発したカルタに触れていただきました。ボランティアセンターでは、今後も学生と連携して防災啓発を行っていきます。

【参考ホームページ】
防災かるた　https://www.facebook.com/HoseiUniversity/posts/ 1506787342784251

学生参加者数　８名

カルタを手に取る参加者に説明する

参加メンバーの集合写真

29. 手話でお話ししよう「手話とは？」 @ふじみわんぱくひろば

日　時　2018年 8月1日（水）事前説明会
8月2日（木）実施日

場　所　外濠校舎5階526教室　事前説明会
千代田区ふじみわんぱくひろば　実施場所

概　要

8月2日（木）に千代田区キャンパスコンソ協力プログラム、市ヶ谷ボランティアセンター主催、手話サークルわたがし企画「こどもたちと手話で遊ぼう」を実施しました。千代田区の学童施設ふじみわんぱくひろばで実施し、20名を超える子ども達が参加してくれました。
また、千代田区キャンパスコンソーシアム協力大学にも協力を呼びかけたところ、6名の共立女子大の学生が協力してくれました（法政大学関係からは25名の学生が参加）。
この企画は、子ども達に「手話とは何か」というところに興味を持ってもらい、また障がいを持っている方について考えるきっかけになればと思い企画しました。活動では、子ども達が楽しく手話に興味を持てるように主に劇、ゲーム、歌の3つのワークショップに分け実施しました。

劇では子ども達に、手話について、耳が聞こえないということについてなどに、何らかの興味や関心を持ってもらうために、
子ども達の呼びかけに応じて劇が進行していく「参加型」で行いました。ゲームでは子ども達の前で手話を披露し、その意味を選択肢の中から選んでもらいました。歌では「手のひらを太陽に」をみんなで手話をしながら歌いました。また、実際に耳が不自由な方に、日常生活での苦労などを話していただきました。
3つのワークショップを通して、子ども達は座っているだけでなく、声を出したり体を動かしたりして、積極的に参加してくれていました。

今回は、時間通りに終わらず、ボランティアに参加した一般学生への対応が少し疎かになってしまうなど反省点が多々ありましたが、企画を通じ子ども達がとても盛り上がり、楽しそうにしてくれていたので、子ども達には楽しみながら「手話とは何か」、また、「耳が聞こえないとはどのようなことなのか」を考える良い機会になったのではないかと思います。
また、わんぱくひろばからもご好評をいただくことができたので、今回のボランティア活動の反省を活かし、今後ともこのような企画を行っていきたいと思います。

【参考ホームページ】
千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム　https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html

〈企画学生の感想〉
- 今回の企画を通して、子ども達が、耳の聞こえない人や手話についての理解を深めてもらえたなら嬉しいです。また、企画を立ち上げてから本番当日まで、たくさんの人にご協力いただきました。本当にありがとうございました。
- このボランティアの企画をしたキッカケが自分自身の子どもの頃の経験から、という事もあったので、今回参加してくれた子ども達が、自分のようにこのボランティア活動をキッカケに手話に対して興味を持ち、また、障がいを持っている方や高齢の方などに、自主的にアクションを起こして手伝うことができるようになれば嬉しいと思っています。
- 今回の企画を子ども達と行ったことにより、自分も手話に対する理解がより深まったと感じています。この活動を通して少

しでも手話の魅力を広めていくことができたらいいなと思います。自分の反省点は、前に出て説明をするときに子ども達の立場になって工夫できなかったことです。他者に説明するときは、まず他者の立場に立つ、という当たり前のことの重要さに改めて気づかされました。この反省点を次に活かしていきたいと思っています。

学生参加者数　事前説明会　31 名　実施日　３１名

最初は簡単な挨拶から

ゲームで正解した子どもにシールを付ける

手話歌の説明

手話歌の練習で立ち上がる子ども

30. 東北被災地支援ボランティアツアー

日　時　２０１８年 8月2日（水）、8月3日（木）下見
8月１０日（金）事前研修会
8月２０日（月）～２４日（金）　３４、３５次隊
8月２３日（木）～２７日（月）　３６、３７次隊　※２分隊で出発
9月１３日（木）報告会

場　所　外濠校舎５階５２６会議室　事前研修会
岩手県遠野市、釜石市周辺　活動場所

概　要

８月２０日（火）～８月２７日（月）、ボランティアセンターでは、岩手県遠野市を拠点にし、陸前高田市、大槌町、釜石市で通算 34～37 次となる「東北被災地ボランティアツアー」を実施し、総勢 36 名の学生が参加しました。

このプログラムは、ボランティア活動を通してメディアでは伝えきれていない被災地の現状や、少子高齢化などの地方自治体が抱える問題を学生たちに体感してもらい、今後の復興支援の在り方や、地方自治体の活性化やについて考えるきっかけを提供すること目的に実施しています。
現地では、認定 NPO 法人遠野山里暮らしネットワークのコーディネートの下、公営住宅での岩手弁かるた大会やボッチャ体験会、薪割り、避難道の整備、幼稚園やネギ畑の草むしりなどの様々なボランティア活動を実施するとともに、奇跡の一本松などの震災遺構の見学会を実施しました。

また、本プログラムはボランティアセンター学生スッタフであるチーム・オレンジが中心となり、参加者のためにボランティアの内容や注意事項について説明する事前研修会を実施し、帰着後にはこのプログラムで得られた成果を各々が発表する報告会を実施しました。また、彼らは、法政大学の被災地支援の取り組みをまとめた「チーオレ新聞」を作成し、ボランティアの先に配布したり、現地 NPO 法人とミーティングを重ね交流会やボランティアの内容を検討したりするなどして、大学の被災地支援の取り組みの活性化に大きく貢献してくれました。今後もボランティアセンターでは学生と協働し被災地支援を実施していきます。

[企画学生の感想]
２０１１年3月１１日当日とその後のことは今でも鮮明に覚えています。私は当時、卒業式を１週間前に控えた小学６年生でした。子どもながらに、何か大きな事が起こっているのはわかりましたし、テレビで見た津波の様子は底知れない恐怖を私に与えました。更に、帰ってきた父の様子が衝撃的でした。福島県会津若松市出身の父が、テレビの震災と津波の映像を見て泣いていたのです。それから私には、東北のために何かしなければという一種の使命感のようなものが生まれ、機会があれば東北支援の活動をしたいと考えました。しかし、中学生・高校生の６年間は機会に恵まれず、法政大への指定校推薦が決まった時、やっとそのチャンスを得ました。大学資料の中に、チーム・オレンジ取り組みが載っており、絶対に入って活動し、現地に行ってボランティア活動をしようと決めました。
このボランティアを通して学べたのは、被災地には、日本で起こっている問題が詰まっているということです。災害により更に進んだ少子高齢化、止まらない人口流出、産業の衰退とそれに伴う低賃金での生活環境など、これからの社会を見据え、考えていく上での実地勉強になりえます。また、交流会で震災や津波について学ぶと共に、初対面の参加者と話をし、協力し合うことで、コミュニケーション能力を高めることもできました。
今後もこのボランティアを続けていく上で、大切なことは主に２つあると考えます。１つは、復興の現状を学生に実際に見てもらうことで、メディアでは伝えられない事を知ってもらい、震災や復興のイメージを変えることです。２つ目は、学生は無

力なようで、しかし持っている影響力は大きいということです。震災から７年経ち、東北ボランティアをする団体は減りつつあります。その現状において、「心の復興」や「コミュニティの形成」という現地の課題に対して、大学生は大きく貢献できるのです。

震災を知ってほしい・一緒にお話しをしたいという現地のニーズと、現地の現状を知りたい・現地の人とお話しをしたいという学生のニーズをつなげることにこれからも取り組んで行きたいです。

学生参加者数　事前研修会　２９名
３４、３５次隊　１９名　　３６、３７次隊　１７名（合計３６名）
事後報告会　２２名

仮設住宅で岩田弁かるた大会

避難道を整備するため竹を運ぶ学生

被災当時のお話を語り部さんから聞く学生

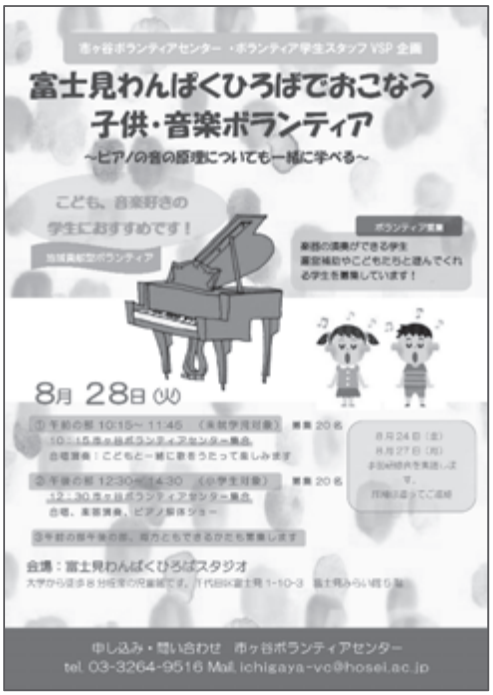
公営住宅でのボッチャ体験会

31. 富士見わんぱくひろばでおこなう 子供・音楽ボランティア

日　時　　201８年8月２１日（火）、２４日（金）、２７日（月）事前研修
8月２８日（火）実施日

場　所　　BT マルチメディアスタジオ　　事前研修
千代田区ふじみわんぱくひろば　実施場所

概　要



市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が、８月 28 日（火）に近隣の児童館である富士見わんぱくひろば（以下わんぱくひろば）で千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム「富士見わんぱくひろばで行う子供・音楽ボランティア」を実施し、大学生 27 名(企画スタッフ４名含む)と子ども 79 名が参加しました。

ボランティアセンターでは、ボランティアセンターに所属する学生スタッフ（VSP）が中心となり、わんぱくひろばで子どもたちを対象とした企画を定期的に開催しています。

今回のボランティアは楽器演奏や合唱を通じ、子どもとふれあうボランティアです。「千代田区内隣接大学の高等連携強化コンソーシアム（千代田区キャンパスコンソーシアム）」を構成する他大学の学生(共立女子大 10 名)も企画に加わりました。

当企画は昨年度も実施しましたが、今年度は２部構成にし、参加学生が活躍できる場面を楽器演奏時にも増やすなどパワーアップさせました。演奏する曲については、わんぱくひろばの職員さんに、子ども達に人気の曲を事前に伺い、子ども達が楽しんでもらえるようなプログラム構成にする工夫もしました。

参加学生の協力を得て様々な楽器のアンサンブル曲を取り入れ、演奏前に各々がユーフォニアム、フルート、ホルン、トランペットなどの楽器を子ども達にわかりやすく説明しました。普段、身近に見ることが少ない楽器の数々に子ども達は興味津々でした。そして、合唱曲では、学生たちの演奏に合わせて子ども達が好きな曲を、参加者全員で元気に声を合わせて歌いました。

午後の部では、ピアノを分解して、子ども達にピアノの構造を知ってもらうピアノ解体ショーも合わせて実施しました。ピアノ解体ショーの合間には、「ピアノが出来たのは何年前か？」「ピアノの弦の数はいくつか？」などのクイズがあり、なかなか難しい問題でしたが、正解者にシールをプレゼントするなどの工夫をすることで、真剣に考えてくれました。

【参考ホームページ】

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム　https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html

[企画学生からの感想]

やはり子ども達への対応の難しさを感じましたが、昨年度より多くの子ども達に参加してもらえて成功だったと思います。初めての企画担当でしたが、準備にとても時間がかかったのでやりがいを感じられました。これからも、より良いボランティアへの貢献の仕方を考え続けていきたいです。　デザイン工学部１年　長谷川　陸

今回の企画スタッフは、昨年度の企画スタッフと新たに入ってくれたスタッフが、丁度半分ずつを占めており、昨年の様子を元に新たな意見も取り入れ、良いバランスで進めていけました。子ども達に喜んでもらうということを目標に掲げ、ニーズに応えるための様々な調整が大変でしたが、成功に終わった後に得られた充実感は強く、次の企画への原動力となりました。引き続き、VSP の活動に励んでいきたいと思います。　経営学部経営学科２年 菅 結菜

今回は、小さい子ども達がどこまで興味を示してくれるのか気になるところでしたが、リズムに身体をゆらし最後まで熱心に聴きいってくれました。またリハーサルの時間もあまりなく、演奏者も初対面同士が多かったのですが和気あいあいと本番まですすみ、子ども達を感動させるに至りました。また子ども好きの学生に子ども達がまとわりついて離れなかったのも、ほほえましかったです。終了後、参加学生達が口々に、またやりたい、と言っておりました。とりあえず学校、学年、学部を超えた交流も成功したといえます。そして学生達が微力ながらも地域に貢献できたのではと思いました。

科目等履修生　森泉　博夫

歌や学生による楽器演奏で、子ども達がいろいろな楽器に興味をもってくれたり音楽を楽しんでくれたので良かったです。
また、法政大生だけでなく共立女子大の方とも交流ができる機会になったことを嬉しく思います。

経営学部市場経営学科１年　後藤 優音

学生参加者数　２７名

ピアノ解体ショー

アンパンマン２重奏

トトロ５重奏

音楽クイズ

32. 集めて、拾って法政クリーン fes

日　時　2018年８月29日（水）

場　所　外濠周辺、市ヶ谷キャンパス内

概　要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ VSP が企画した「集めて、拾って法政クリーン fes」を夏休み期間中８月 29 日（水）に実施し、12 人の学生が参加しました。

この企画は、現在定期的に行われているキャンパス周辺清掃と、エコキャップ回収の参加人数を増やすために、より多くの人々に魅力を感じていただくために行われました。キャンパス周辺清掃にゴミの量と質で競い合うチームスポーツの要素を取り入れ、いつも以上に集中して清掃を行うことができました。

また、エコキャップ回収では普段回ることのない富士見坂校舎も巡ることで多くの量を回収することができました。時間のある夏休みならではの企画になったと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）ではこれからもキャンパス周辺清掃や、エコキャップ回収などの活動をさらにパワーアップさせて継続させていきます。皆さまの参加をお待ちしております。

学生スタッフ３年　中野　実織

積極的に取り組んでくださり、活動も参加者の全員で程よく平等に分担できたので、今回はむしろ少人数で良かったのではないかと思います。強いていうならば、普段の延長という雰囲気が強かったため、更に参加者が増えた場合、「クリーン fes」への魅力が少し欠けてしまうのかな、とも感じました。この点に関しては、現在 VSP の課題の１つとして、試行錯誤の最中ということで、全員で徐々に改善していければ良いと思います。　学生スタッフ２年　岡部　琴美

今回のキャンパス周辺清掃では、毎月おこなっていた清掃にはなかったスポゴミ形式を取り入れ、楽しみながら活動してもらう事を目標にしていました。他のチームと競い合うことで、より多くのゴミを集められたのではないかと思います。

エコキャップ回収には久しぶりに参加したのですが、テスト期間と夏休みを挟んだこともあり、非常に多くのキャップを集められました。不純物を取り除くことを徹底していた点も良かったと思います。　学生スタッフ２年　石井　拓也

学生参加者数　12名

キャンパス周辺清掃ボランティア集合写真

エコキャップ回収の成果

33. 千代田区みらいの防災リーダー育成講座ボランティア

日　時　２０１８年９月２日（日）

場　所　千代田区役所１階

概　要

９月２日（日）にボランティアセンター学生スタッフ（チーム・オレンジ）が、千代田区主催のイベント「みらいの防災リーダー養成講座」に参加し、防災クイズカルタを紹介しました。

このイベントは、千代田区が、ダンボールベッドの組み立て、地震体験車による地震体験、訓練用消火器による消火訓練などの体験をとおして、将来に役立つ防災に関する知識を身につけることを目的とし、今年初めて実施されました。

本学のチーム・オレンジの学生と千代田区キャンパスコンソーシアム協定大学の共立女子大学の学生が協力して、防災クイズカルタを行いました。この養成講座には、小学生１年～4 年の生徒 16 名のほか、保護者の方も 14 名参加がありました。

防災クイズカルタは、身近な問題から、保護者の方でも難しい問題もありますが、言葉ではなく、絵が描かれていることから、低学年の生徒も十分に、楽しみながら、防災教育に触れていただき、短い時間でしたが、閉会時には、「カルタが楽しかった。」など声をいただきました。

【参考ホームページ】

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム　https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html

＜参加学生の感想＞

千代田区主催みらいの防災リーダー養成講座で、私達が作成した防災クイズカルタを千代田区民の子どもたちと保護者に遊んでもらいました。参加者は答えの分からない問題を必死になって考え、私達の答えと解説に驚き、楽しんでいただけました。今回のゲームが防災について考えるきっかけになればと思います。また、臨機応変に対応してくださった千代田区職員にとても感謝しています。

学生参加者数　４名

養成講座閉会式の様子

学生が読み手となりカルタに挑戦

34. ヒューリック・ダイハツ JAPAN パラバドミントン国際大会 2018 観戦ツアー

日　時　2018 年 9 月 30 日（日）

場　所　町田市総合体育館

概　要

市ヶ谷ボランティアセンター主催で 9 月 30 日に～東京 2020 応援プログラム～「JAPAN パラバドミントン国際大会 2018 観戦ツアー」を実施し、15名の学生が参加しました。
今回の観戦ツアーは、東京都より、9 月 26 日（水）～30 日（日）に町田市にて開催されるパラバドミントン国際大会の情報発信や観戦促進の協力要請があり実施する運びとなりました。

東京都では東京 2020 パラリンピックの成功に向け、今年度からパラリンピックの国際大会の開催を共催により支援し、多くの方にハイレベルな競技を観戦していただける事に取り組んでいます。その取り組みの一環として、世界バドミントン連盟の公認大使として日本で 2 度目となる[JAPAN パラバドミントン国際大会 2018]が開催されました。

当日は台風が接近していたこともあり、数名の申込者が参加できなくなってしまいましたが、市ヶ谷ボランティアセンターが実施したパラスポーツイベントに協力していただいた、村山浩選手も大会に参加したこともあり、参加した学生たちは熱心に応援をし、パラバトミントンの理解を深めたようです。

学生参加者数　15名

パラバトミントンを観戦する様子

大会の様子

35. 千代田区男女共同参画センター 第6回 MIW 祭り ボッチャ体験教室

日　時　2018 年 10 月６日（土）

場　所　千代田区役所　１階

概　要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ VSP は、障がいをもつ子どもの現在（いま）と未来を考える会の協力を得て、千代田区の公式のイベントである「千代田区男女共同参画センター　第６回 MIW 祭り」に参加しました。

８月に行った「神田すずらん祭り」同様、千代田区の地域貢献ボランティアの１つです。
当日は 12：00 からの２時間ほどの時間でしたが、千代田区役所区民ホールで「ボッチャ体験教室」を行い、ボランティアセンター学生スタッフが６名参加しました。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、昨年度より東京オリンピック・パラリンピックの気運醸成のために、ボッチャ体験会なども学内外で行っています。大学のノボリとボッチャコートを白テープで貼り付けたブルーシートを持参したボランティアセンター学生スタッフが、時間に合わせ集合しました。法被を着た学生がボッチャを楽しそうに行っていると、自然と声がかかります。
ボッチャは、目標球（ジャックボール）に向かってボールを投げ、どれだけ近づけることができるかを競う競技で、重度の脳性麻痺者のためにヨーロッパで考案されたパラリンピック正式種目です。
当日は近隣の方や区の職員の方、また通りすがりの外国人の方もボッチャを体験してもらい、東京 2020 パラリンピック正式競技ボッチャへの気運が高まったかと思います。

［企画学生の感想］
「あっボッチャ知ってる！」これまで何度かボッチャの体験会を行って来ましたが、こういった言葉を沢山いただいたのは初めてでした。今回体験会に参加された方の中には５月の神保町にて行ったボッチャ体験会にも来て下さった方も多数おり、着々とボッチャの認知度、そしてリピーター数も増えて来ています。今後も 2020 年に向けて、体験会を多数行っていきます！
その時は一緒にプレイして日本中をボッチャで盛り上げていきましょう!!

法学部２年　藤山　雄多

学生参加者数　６名

区の職員の方に教える

ボッチャを通しホール内が地域の方との交流の場に

36. まちのわ防災 Festa（飯田橋グラン・ブルーム）

日　時　　２０１８年１０月６日（土）

場　所　　飯田橋グランブルーム

概　要

10月６日（土）に「まちのわ 防災 Festa」が飯田橋グラン・ブルーム管理組合主催のもと開催されました。
本イベントは飯田橋で生活する、働く、学ぶ、様々な人々が飯田橋グラン・ブルームを舞台に展開されるイベントを通じ多目的に
交流できる場づくりを目的に例年開催されており、今回は防災をテーマにした「見て・感じて・楽しくふれあえる」イベントで
した。
市ヶ谷ボランティアセンターは、キャリアデザイン学部荒川ゼミ、理工学部知能ロボット研究室（理工学部伊藤研究室）、IVUSA、ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ、と連携し本イベントを盛り上げ、総計 854 名の方々に参加していただ
きました。

1．理工学部知能ロボット研究室（理工学部伊藤研究室）
〇最新レスキューロボット実演
「瓦礫の中で活躍しているロボットを間近で操作できるのは珍しい」という声を聞くことができました。中高年・シニア層の方に多く参加いただき、大人から子供までロボットを動かして楽しんでいる姿がありました。

2．キャリアデザイン学部荒川ゼミ
〇防災グッズ作りワークショップ
自分だけのアート防災グッズ「スズ付き光るキーホルダー作り」、「スズ付きロゼッタリボン作り」のワークショップ行いました。子供たちに大好評でした。

3．チーム・オレンジ
〇防災カルタ・緊急に役立つ身近なもの活用法
家庭にある身近なものを使って作れる防災グッズはファミリー層に好評でした。子供でも簡単に遊べる防災カルタは「わかりやすいイラストで防災知識が身について楽しかった」と親御さんからの感想もいただきました。

4．IVUSA
〇バルーンアート・新聞紙を使ったワークショップ
新聞紙を使って災害時に使える防災グッズのワークショップ。正面入口にピエロがバルーン配布を実施したことにより、ほとんどの子供たちはバルーンを持って館内や屋外を回っていました。とても好評でした。

本イベントを通して、法政大学学生の取り組みついての認知度向上にも寄与し、キャンパス周辺で生活する人々と本学の学生が交流することができ、地域貢献ボランティアとしての１つになりました。ボランティアセンターでこのような取り組みを今後も積極的に行っていきます。

学生参加者数　　４７名

チームオレンジ：子供でも遊べる防災カルタ

チームオレンジ：身近なもので作れる防災グッズ

知能ロボット研究室：レスキューロボットの操作方法を
地域の子どもに教える

知能ロボット研究室：参加メンバー

荒川ゼミ：参加メンバー

IVUSA：バルーンアート

37. 手話講座

日　時　10月11日、18日、25日、11月8日、15日、22日、29日、12月6日（木曜日、全８回）

場　所　５８年館5階８５６教室

概　要

手話講座入門編では、NHK 手話ニュースキャスター 中野佐世子先生を講師に招き、自己紹介をはじめ、基本的なあいさつから、聴覚障がい者について、また障がい者に関しての法規にも触れながら理解を深めていきました。最終回には補助犬の紹介 DVD を見て、障がい者が行動する上で大切なパートナーである補助犬の存在を、多くの人々に広める必要があることも学びました。

初めて手話に触れる学生が多い中、毎回ペアを組んで練習した会話の時間には、学年や学部を越えて交流を持てました。手話講座は、全 8 回という事もあり、今回の入門編からもっとハイレベルな内容に関して学んでいきたいという意欲的な参加者や、より広義な福祉についてより知識を深めていきたいなどの感想もあり、充実したボランティア講座になりました。

＜参加学生の感想＞

歌にも力を入れた授業内容だったので、楽しみながら学習できました。手話は、人と人とがコミュニケーションをとる上で基礎的かつ大切なことが沢山つまっている言語だと思います。手話以外に障がい者が利用している情報伝達手段として、点字や読唇術も学習してみたいと思いました。　文学部　１年

この講座で学んだことを発展させ、実際に耳が聞こえない、聞こえづらい人と関われるために実践する機会を自分で探していきたいです。そして実際に町中で困っている人がいたら自ら躊躇せずに、手を差し伸べたいと感じています。講座を開いていただき、ありがとうございました。　人間環境学部　１年

学生参加者数　２３名

講師の先生に基礎から手話を教わる

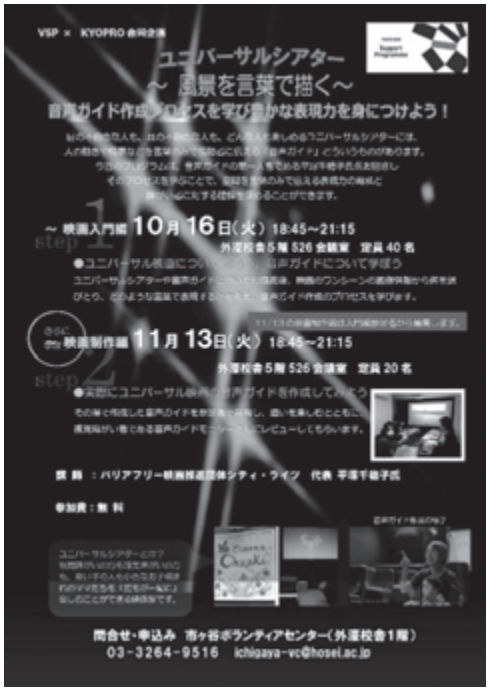
ペアを組んで練習をする

38. ユニバーサルシアター～風景を言葉で描く
～音声ガイド作成プロセスを学び豊かな表現力を身につけよう！

日　時　２０１８年 １０月１６日（火）（映画入門編）、
１１月１３日（火）（映画制作編）

場　所　外濠校舎５階５２６教室

概　要



ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）と課外教養プロジェクト学生スタッフ(KYOPRO)が 10 月 16 日(火)と 11 月 13 日(火)に「ユニバーサルシアター～風景を言葉で描く～音声ガイドの制作体験をしよう！」を実施し、10 月 16 日に 15 名、11 月 13 日には８名の学生が参加しました。

ユニバーサルシアターとは、視覚障がい者、聴覚障がい者、車いすの方や小さな子供連れなど、様々な理由で映画に行くことをためらってしまった人でも楽しむことができる映画館です。
今回は講義を通してユニバーサルシアターについて、その映画の音声ガイドについて学び、また実際に音声ガイドを作ることを通して、視覚がい者についての理解を深めるとともに、他者を思いやり、そして行動することの大切さを学びました。
本企画では、バリアフリー映画鑑賞推進団体シティ・ライツ代表平塚千穂子氏と視覚障がいを持つモニターさんの河原崎晴美氏をお招きし、ユニバーサルシアターや映画の音声ガイドについての講義や音声ガイドの作成を行いました。

1 日目の 10 月 16 日には、実際に音声のみで有名な映画のワンシーンを聴き、その後音声ガイド付きで同じシーンをもう 1 度聴くことで、視覚障がい者への理解を深め、音声ガイドのありがたみを感じてもらい、その上でユニバーサルシアターとはどういうものなのか、シネマ・チュプキ・タバタ設立への歩み、音声ガイドを制作するうえで気を付けることを講義で学びました。
2 日目の 11 月 13 日には 1 日目のおさらいをした後に、短編映画のワンシーンを使って実際に音声ガイドを作成し、河原崎氏に評価してもらいました。実際に目の見えない方に評価してもらうことで、視覚障がい者が映画を見るうえでどのような情報を求めているのかを具体的に理解することができました。

学生参加者数　２３名

［参加者からの感想］
シネマ・チュプキ・タバタ設立のきっかけ、苦労、そして成果を講義で聞き、思いやりはとにかく行動に移すことで形になるのだということを学びました。また、音声ガイドを作るうえで気を付けることを学んだ後、実際に音声ガイドを制作し評価してもらったことで、必要だと思ったことが不要だったり、逆に必要ないと思ったことが必要だったりすることが多く、情報の取捨選択の難しさを実感しました。今回の企画に参加してみて、分かっていたつもりで分かっていなかったことを実感することが多く、大変貴重な経験になりました。

文学部心理学科 1 年　西尾　果織

昨年度とは異なり、参加学生に体験してもらう実践の場を設けたのでより深い学びが得られたと思います。実際にやってみないとわからないことは多く、新たな視点を持つことが出来ました。その反面、企画時間をじっくりとった内容だったため参加する気軽さが失われたのが反省かと思います。どの企画もですが、様々な人に参加していただいて、いろんなことを持ち帰ってほしい思いが強いので、自分自身も成長しながら今後もよりよい立案ができるよう努力していきたいと思います。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科１年　長谷川　陸

通常の企画よりはるかに長時間の企画であったがあっという間に時間が過ぎた。決して多いとはいえない参加者人数ではあったが、グループ作業での参加者同士の連帯感、一体感はかなりのものであった。参加者たちが帰りぎわに講演者やゲスト、スタッフに御礼を述べて退出してくれた事は嬉しい限りであった。これも参加者の満足度の証であると思う。

文学部地理学科 森泉　博夫

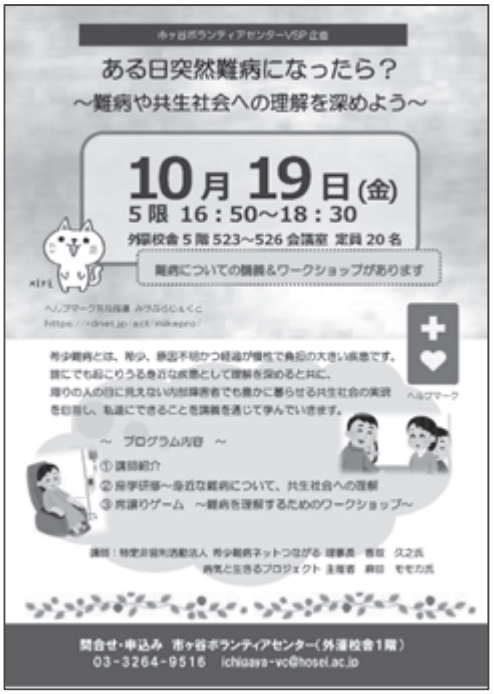
講義を真剣に聞く学生達

講義を真剣に聞く学生達

39. ある日突然難病になったら？ ～難病や共生社会への理解を深めよう～

日　時　２０１８年１０月１９日（金）

場　所　外濠校舎５階５２６教室



概　要

希少難病とは、希少、原因不明かつ経過が慢性で負担の大きい疾患です。今回は講義やワークショップを通して、難病が誰にでも起こりうる身近な疾患として理解を深めると共に、周りの人の目に見えない内部障がい者でも豊かに暮らせる共生社会の実現を目指し、私達にできることを学びました。本企画では、特定非営利活動法人希少難病ネットつながるの理事長である香取久之氏と、病気と生きるプロジェクト主催者である麻田モモカ氏をお招きし、難病の理解を深める講義やワークショップを開催していただきました。

前半では、難病や、難病を取り巻く制度や社会問題に関する講義を行いました。参加者には難病は身近に感じられないかもしれませんが、実は誰にでも起こり得るという認識を深めてもらいました。また、講義の後半では、持病に関わらず誰もがやる気や能力で認められる社会の構築の重要性をお話しいただき、大変考えさせられる講義となりました。

後半では、難病当事者の理解を深めるワークショップを行いました。難病患者は自身の身体に負荷がかけられている状態で生活をしています。そこで、チーム対抗戦で班員がクイズに３問正解するまで、班員の１人が「腹筋」という負荷をかけられる状態を作り、疑似体験をしてもらいました。このワークショップは大変盛り上がり、当事者意識を持つことで、難病患者への理解を深めることができました。

［企画学生の感想］

難病患者の人数や難病の制度など、まだまだ知らないことが多く、より身近な疾患として理解を深めることができました。前半の講義では、香取氏の持病に関わらずやる気や能力で認められる社会であるべきである、という言葉にとても共感させられました。また、ヘルプマークは駅のホームでポスターを見かけることはありますが、もっと認知され、普及していってほしいと思いました。後半ではワークショップを行いましたが、私達が作成したクイズに楽しく参加してもらえたのでよかったです。また、負荷をかけられる体験をしてもらったことにより、学生自身がより難病当事者への理解を深められたように感じました。これからは電車などで困っている人、体調が良くない人を見つけたら席を譲るなど身近なところから行動し、誰もが生きやすい社会になっていってほしいと思います。本当にありがとうございました。

経営学部市場経営学科３年　山根　江莉奈

学生参加者数　18名

難病についての講義を熱心に聞く

ワークショップの様子

40. 富士見わんぱくひろば「わんぱくこどもまつり」

日　時　２０１８年１０月２７日（土）

場　所　千代田区富士見わんぱくひろば

概　要

千代田区富士見わんぱくひろば（以下わんぱくひろば）で開催された「わんぱくこどもまつり 2018」に協力しました。

わんぱくひろばの「わんぱくこどもまつり」は、毎年行われ、約 700 名の参加者がある地域児童館最大のイベントです。法政大学では、アカデミー合唱団、児童文化研究会、パフォーマンスサークルすだまのメンバーと、一般応募した学生を含む計 38 名の学生が参加しました。

アカデミー合唱団の学生は、 定番の「となりのトトロ」「さんぽ」「翼をください」、手遊び歌などを歌いました。鍛えられた美声は、親御さんや子供たちから大好評でした。

児童文化研究会の学生は「ぐりとぐら」の巨大絵本の読み聞かせなどをし、小さい子供も親しめるような目線を意識して活動していました。

パフォーマンスサークルすだまは、カードマジックや、ボールジャクリング、ヨーヨー、ディアボロ、シガーボックス、フローワンドなどのパォーマンスを披露し、めずらしいパフォーマンスに立ち止まって見ていく子供も多く見受けられました。一般応募した学生たちは、ハロウィン仮装パレードの交通案内、受付、子供の工作の補助、ゲームコーナー、フリーマーケットの準備などのボランティア活動をしました。

＜参加者の感想＞

今回初めてボランティアに参加しましたが、とても楽しく活動させていただきました。小さな子供とのコミュニケーションは普段あまりする経験がなく、緊張していたのですが、ハロウィンに全力な職員の方々や、楽しそうな子供たちを見て緊張がほぐれ、たくさんの子供達と触れ合うことができました。特に、私が担当したゲームコーナーでは楽しそうに遊んでくれるのを見て、充実感を覚えました。とても貴重な体験でした。ありがとうございました。

法学部３年　大内　麻由佳

学生参加者数　３８名

児童文化研究会大型絵本読み聞かせ

こどもたちと工作で遊ぶ

41. 富士山トレイル整備ボランティアツアー

日　時　２０１８年１０月２８日（日）

場　所　富士山麓

概　要

市ヶ谷ボランティアセンターは、10 月 28 日(日)、「NPO 法人富士山クラブ」のご指導のもと、学生 38 名で『富士山トレイル整備ボランティアツアー』を実施しました。

参加者は、活動場所である「本栖湖いこいの森キャンプ場」まではバスで移動し、車内で参加者全員によるミニゲームやクイズ大会を、ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)を中心に行い、参加者同士の交流を深めました。

キャンプ場に到着後、始めに「NPO 法人富士山クラブ」の方々に作業内容の説明をしていただき、その後各自ヘルメットと軍手をつけ、熊手や鍬を持ち活動場所まで移動しました。事前に、途中登る場所があるという説明を受けていましたが、予想以上に急勾配で、昼食の弁当を担いでいた学生は特に大変そうでした。昼食は活動のスタート地点でいただきました。

昼食後、目的であるトレイル整備作業を行いました。それまで登って来た道を整備しながら降りるという形で、一列に並んで作業をしました。「NPO 法人富士山クラブ」の方々に熊手や鍬の使い方を教わりながら、参加者全員で協力して作業を進めることができました。

登って来た時は過酷に見えた道も、降りる時には見違えるほど綺麗な道になったと感じられました。

下山後、5～6 人程度のグループに分かれて今回のトレイル整備活動の感想や反省点などについて意見を出し合い、最後には参加者全員の前で自分達の考えを発表しました。活動前に役割分担を決めておく、トレイル整備は継続していくことが重要など数多くの貴重な意見を共有することができ、充実した内容になりました。　文学部史学科１年 太田 宙

〈参加学生の感想〉

当日は天気も良く、自然の中でのびのびと活動ができました。活動場所まで道具を担いで急勾配な山道を登っているときは、体力的に厳しく、どうなることかと思いましたが、登りきった後に食べた昼食はとても美味しいものでした。トレイル整備は、参加者同士でコミュニケーションをとりながら協力して進めることができました。また、自分たちが作業した道を下ることができたので、自分が行なった作業が実際に歩きやすい道になる効果を体感できたことも、良かったです。今後山に登るときは、このような道を整備してくださる人々のおかげで、私たちは安全に山を登れているということを忘れないようにしたいです。今回の作業を無駄にしないためにも、また機会があれば参加しようと思います。　文学部　１年

学生参加者数　３８名

熊手や鍬を手に、道を切り開いていく

作業を終え、富士山クラブの皆さんと

42. ～犬との「触れ合い」を通して保護犬の現状を知ろう～

日　時　2018年10月30日（火）

場　所　外濠校舎5階526会議室

概　要

本企画では、動物の譲渡会ボランティアや啓蒙活動をされている一般社団法人はーとinはーとZRの皆さまにご協力いただき、講義や保護犬とのふれあいを実施しました。代表の池上奈穂氏に動物保護の現状を話していただき、飼っていたペットが捨てられて日々殺処分されていること、それをなくすためにはペットの流通経路を変える必要があるということについてなども考えさせられる講義となりました。

講義の後には、7匹の保護犬たちとのふれあいを通じて、保護されている動物がペットショップにいる動物とどう違うのかを肌で感じてもらいました。保護犬になった理由は多頭飼育崩壊や病気などさまざまで、ただ講義で話を聞くだけでなく、実際に触れてみることで、より保護犬に関して理解が深まったと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ 法学部3年　友利　亮太

＜参加学生の感想＞

講義では人気のペットショップで売られている犬には親犬がいて、その親犬は毎年のように子供を産む事に使われ、体がボロボロになることを知った。ペットショップとブリーダーの間では犬の値段が付けられ、そこで外された犬達はブリーダーの元で世話されるが、ブリーダーの管理が行き届いていない結果、様々な病気にかかったり、精神的に大きな疾患を抱えたりすること、また保健所で殺処分される犬は窒息という形で亡くなるという現状、これを想像すると本当に苦しくなり、またこの現状がまだ認知されていないと思うと残念な気持ちになった。

私たちにできることはペットショップで犬を飼わないこと、ニーズを少なくすることでブリーダーは親犬に子供をたくさん産ませる必要がなくなり、殺処分する犬を少なくできる、また保護犬を積極的に受け入れて殺処分される犬を救うこと、身近な人から社会に広めていく事がこれから先必要になるのだと思う。

キャリアデザイン学部　キャリアデザイン学科　2年　桑名　彩佳

学生参加者数　46名

多くの参加学生が訪れた

保護犬に実際にふれあい合いながら質問

43. 地域防災について私たちのできることを考える

日　時　2018年11月10日（土）

場　所　外濠校舎5階526会議室

概　要

チームオレンジは、「地域防災」に貢献したいという想いから、実践的なAED講習と地域防災に貢献する消防団の活動等を知ってもらうために、「地域防災について私たちにできることを考える」企画を実施しました。当日は、グループに分かれて麹町消防団の方々にAEDの使い方の指導を受け、要救助者に対する対応などを学びました。「大きな声で人を呼ぶこと、消防署に連絡をすること、救急車が来るまでにやること」など、実際におこなってみることは貴重な体験となりました。

また、後半は、被災地で活動していた浪江町消防団の方たちが、原発事故により、救助できなかった命を残してしまった心情を伝えるために制作された映画「無念」を観ました。上映後は、消防団活動の紹介や意見交換を行い、地域防災について理解を深めることができたと思います。

＜参加学生の感想＞

消防の方に来ていただき、AED講習と、東日本大震災についてのアニメ「無念」を鑑賞しました。AEDについては、いざという時に使い方を忘れていては意味がありませんので定期的に学べる機会を今後作っていくべきだなと感じ、とても勉強になりました。そして、「無念」を鑑賞した際はアニメとはいえその情景に呼吸を忘れるくらいの緊張を覚えました。私たちの周りでもいつ起きるか分からない災害。もっと関心を持って備えていかなければならないなと感じました。

経営学部経営戦略学科　三田寺　有希

学生参加者数　9名

消防団の方から話を聞く

AEDの使い方を教わる

44. ボッチャ東京カップ2019予選 ～大学選手権東日本大会～

日　時　２０１８年１１月１７日（土）

場　所　武蔵野総合体育館（武蔵野市）

概　要

「ボッチャ東京カップ 2019」は、パラリンピックスポーツであるボッチャを広く一般のスポーツとして普及し、競技力の向上を目指すことを目的として、一般社団法人日本ボッチャ協会が主催しています。

2018 年 11 月 17 日、武蔵野体育館で行われたボッチャ大会において、小学生の部の運営ボランティア、および大学選手権への参加を行いました。

小学生大会のボランティアは、主に会場の設営や、参加者や保護者の誘導などを行いました。近隣の小学校ではボッチャ協会の方々が何度も指導を行われていたそうで、試合は予想以上に盛り上がりを見せていました。仲間とコミュニケーションをとりながら、真剣に勝負している子どもたちの姿が印象的でした。こうした競技体験を通じて、東京 2020 やいわゆるパラスポーツへの関心が子どもたちにも高まっているのではないかと感じました。

大学選手権は、今回２回目の参加でしたが、前回から３校増えた７大学の参加で開催されました。参加チームの中には、ボッチャ専門の部であったり車いすの選手もいたりと、ボッチャを普及させようという各大学の取り組みが見られました。試合に勝つことはできませんでしたが、実際に競技をしないと分からない発見もあり、貴重な経験になりました。このような活動の広がりが、障がい者への理解やボッチャを含めたユニバーサルな競技の普及に繋がっていくと良いと思いました。

人間環境学部　２年　石井　拓也

学生参加者数　４名

ボッチャ選手権に参加したメンバー

ボッチャ大学選の試合の様子

45. 街の緑を守ろう！
～都市部における自然保護ボランティア～

日　時　　２０１８年１１月１７日（土）

場　所　　中目黒公園

概　要

現在、環境問題には世界的に大きな関心が寄せられていますが、その多くが地球温暖化や森林伐採、大気汚染といった、地球規模での問題に限られています。

この様な問題は早急に対応すべきではありますが、同時に身近な自然にも関心を抱くべきだと思います。私の住む町では、かつては数多くあった私邸の庭や空き地といった、生き物が住める環境が少なくなり、それに伴い昆虫やカエル、野鳥といった様々な種類の生き物が、街から姿を消したように感じました。

身近な自然を守れなくして、地球規模の環境問題は解決できないと思い、本プログラムを企画しました。

当日は、目黒区立中目黒公園のボランティア団体である有機クラブの会員の方々に、ご協力をお願いしました。

参加者は、汚れてもよい服装と軍手で、公園内でボランティアを行いました。男性の参加者は、公園内で栽培している作物に使う堆肥作りをしました。この堆肥は中目黒公園や目黒区内で得た、落ち葉を発酵させて作っています。落ち葉を掘り返し米ぬかを撒くなどして、発酵させる作業を行いました。

一方女性の参加者は、同じく公園で栽培されている作物に使う、肥料作りを担当しました。この肥料は魚粉等身近にある有機性食品を混ぜて作った物で、農薬をほぼ使用しておらず、環境に悪影響を及ぼさないものです。参加者は魚粉をすり合わせたり空気を入れるなど会員の方たちの指示を受け作業しました。これらの作業終了後、有機クラブの会員の方々に公園内を案内していただき、開園から 15 年間、野菜や芝生、虫や鳥などが、多数のボランティア団体によって守られていることを学びました。

この活動は参加者からにも好評で、一年を通じて活動ができることもあり、来年以降も同様の企画を、実施していきたいと考えています。

法学部国際政治学科２年　正田　一成

学生参加者数　　９名

有機性食品等を混ぜて肥料を作る

落ち葉を掘り返し発酵させる

46. 富士見わんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア

日　時	２０１８年１１月２１日（水）
場　所	千代田区富士見わんぱくひろば
概　要	

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）は、11 月 21 日（水）に近隣の児童館、富士見わんぱくひろば（以下わんぱくひろば）で千代田区キャンパスコンソーシアム協力プログラム「富士見わんぱくひろばで行う子供・音楽ボランティア」を実施し、大学生 15 名(企画スタッフ３名含む)と子ども 19 名が参加しました。

わんぱくひろばでの今回のボランティアは楽器演奏や合唱を通じ、子供とふれあうボランティアです。「千代田区内隣接大学の高等連携強化コンソーシアム（千代田区キャンパスコンソーシアム）」を構成する他大学の学生(共立女子大５名)も企画に加わりました。当企画は今年の８月も実施し、そのときは学生の楽器演奏を子供達に聴いてもらうという演奏会形式でしたが、今回はゲームなどを用いて子供たち参加型の音楽会にしました。使用する曲に関しては、事前にわんぱくひろばの職員さんに人気の曲を伺い、子どもたちが楽しんでもらえるようなプログラム構成にする工夫もしました。

実施内容としては、学生の演奏によるイントロクイズで会を始め、次にフルーツバスケットのルールに楽器を適用し実際に鈴やタンバリンなどを持ちながら行う楽器バスケット。次に、学生のピアノ演奏の BGM による椅子取りゲームを行い、最後はサビの部分で振り付けを入れた『世界に一つだけの花』の合唱をしました。学生と子供たちが一緒に歌ったりゲームをすることで、最初から最後まで和気あいあいとした雰囲気に包まれた音楽会になりました。

【参考ホームページ】

千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム　https://www.hosei.ac.jp/NEWS/newsrelease/180328.html

[企画学生からの感想]

一般学生との協力が他の企画よりも大事であるため、スタッフは連絡、打ち合わせを頻繁に行って来ましたが、面識のない学生同士のコミュニケーションも重要だと改めて感じました。子供により楽しんでもらえるように考えた結果、夏季実施分より参加した一般学生の満足度もあげることに成功したと思います。２回の活動を行った結果、前回より改善を重ねられたことは確かであるので、少しずつ今後も良くしていけたらそれで十分だと思います。これからも自己満足に終わらないこの意識を忘れずに活動していきたいです。

デザイン工学部都市環境デザイン工学科１年　長谷川 陸

子供たちに楽しんでもらいたいという熱意のある参加者が多く集まってくださり、この企画の成功に向けて協力していただけたことに感謝しています。当日は予想外なことがいろいろありましたが、予想以上に会が盛り上がったのも事実です。
子供たちには音楽を身近に楽しんでもらうことができたと思います。なにより子供たちの笑顔がたくさん見られて良かったです。私は今回の企画を通じて企画実施までの進め方などを学ぶことができたので、この経験を他の企画にも活かしていきたいです。また、子供たちに楽しんでもらえるような活動を続けたいと思います。

経営学部市場経営学科１年　後藤 優音

学生参加者数　１５名

ボランティア学生の司会で進行

イントロ宛てクイズ（学生のピアノ演奏）

企画スタッフのまとめの挨拶

集合写真

47. 教職員に教える地域防災

日　時　２０１８年１１月２２日（木）

場　所　外濠校舎 526 会議室

概　要

今年の秋学期防災訓練では、チーム・オレンジが講師となり、23 名の職員は生徒として熱心にプログラムに参加しました。チーム・オレンジは、東北を主とした被災地支援・防災啓発について現場だけでなく、学内での物産展企画や企業とコラボした子供を対象とした防災教育イベントなど様々な企画を実施している、2011 年４月に結成された市ヶ谷ボラティアセンター所属の学生団体です。

第一部は、チーム・オレンジ制作の防災クイズカルタをやりながら、楽しく防災の知識を学びました。第二部では、避難所運営ゲームを行いました。避難所（小学校）に、避難してきた人をどのように受け入れるか、外部からの様々な要望にどのように応えるか等をチームごとに話し合いました。

参加した職員からは「カルタが楽しかった」、「チーム・オレンジの学生ががんばっている様子がわかった」などの感想があり、非常に有意義な防災訓練になりました。

学生参加者数　１４名

チーム・オレンジのみなさん

チーム・オレンジの皆さんが各テーブルについて優しく指導

問題を聞いてカルタを選びます

避難してきた人を各部屋に配置します（避難所運営ゲーム）

48. 学食企画～お昼ごはんで被災地へ～

日　時　2018年11月26日（月）～30日（金）

場　所　BT 地下１階　フォレストガーデン
富士見坂校舎地下１階　食堂
東館　食堂（小金井）
６号館食堂（社会学部食堂・多摩）

概　要

東日本大震災から７年が経ち、また各地で地震被害が頻発していることから、身近な学食と連携し、東北・北海道にちなんだ料理を提供し、日常生活の中で震災についてもう一度考えるきっかけを作りたいという思いで１２名の学生がプログラムの企画に携わりました。

法政大学生活協同組合に協力いただき「学食企画～お昼ごはんで被災地へ～」として、フォレストガーデン、富士見坂校舎食堂（市ヶ谷）、東館食堂（小金井）、６号館食堂（多摩）の３キャンパスにて実施し、東北・北海道復興支援メニューを提供しました。
生協とミーティングや試食会を実施して「福島ソースカツ丼（福島県）」、「札幌味噌バターラーメン（北海道）」各 432 円の２種類のメニューを考案しました。どちらも好評で、これらのメニューが期間中３キャンパス合わせて 2,292 食を食べていただけたため、企画目的の震災について考えてもらうきっかけ、並びに風化防止になったと感じております。

文学部地理学科２年　清水　遥貴

＜参加学生の感想＞

・生協の方から今回の企画は好評だと聞き大成功だと思う。ただ、この企画が震災を風化させないという目的をもっと浸透させる必要があると思う。　文学部２年

・企画で提供したメニューを食べている方を多く見かけ、好評であったように感じました。震災を風化させないことがこれからの課題になると思うので、今後もこの企画を続けていければと思います。　法学部２年

学生参加者数　１２名

福島ソースカツ丼

札幌味噌バターラーメン

試食会を開催しメニューの検討を行う

学生が食べている様子

ポスターで宣伝

チラシを配るチームオレンジメンバー

49. 千代田区内近隣大学の高等教育連携強化 コンソーシアム　ポスターセッション

日　時　２０１８年１２月１日（土）

場　所　二松学舎大学　中州記念講堂

概　要

2018 年7月4日に実施した「法政大学(VSP)×SMBC 日興証券 地域のこどもたちにパラスポーツを知ってもらおう！」と 2018 年 8 月 28 日と 11 月 22 日に実施した「法政大学(VSP)×千代田区富士見わんぱくひろば　富士見わんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア」の２つのポスター発表をしました。

ポスター制作にあたり、ボランティア参加者から提出してもらった原稿を１枚のポスターにまとめるのに苦労しました。原稿は、企画段階の打ち合わせから準備、ボランティア当日の様子や、ボランティアへの思いなどが、長文だったためでした。思い切って文章を選別して、ポスター１枚で表現できるよう編集しました。複数の原稿が元であったため、客観的なポスター制作ができ、結果的には、うまくできたと思いました。

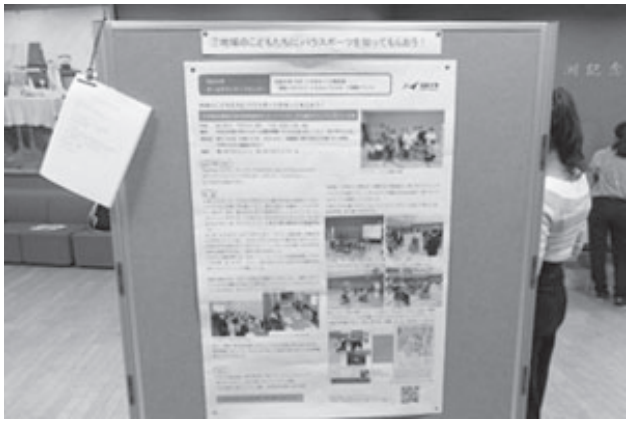
＜参加学生の感想＞

これまで多くの企画で他大とかかわってきたが、こうしたそれぞれの大学、団体が発表して、お互い共有できるのはこれからの自分たちが行う企画にも大きくつながると思います。さらには「発表する」という事で、相手に伝える大切さを発見する事ができました。来年、再来年と他大との関係を続けていきたいです。

法学部２年　藤山　雄多

学生参加者数　６名

学生によるポスターセッションの様子



学生作成のポスター

50. 福島被災地スタディツアー

日　時　２０１８年１２月９日（日）

場　所　福島県いわき市、二葉郡浪江町

概　要

本企画は、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」が企画し、各種手配、広報、当日の運営を行いました。今回のスタディーツアーは「行って、見て、感じてふくしま」をスローガンに掲げ、福島県の被災状況や復興に向けた取り組みを学ぶことを目的としたツアーを企画しました。

当日は、市ヶ谷キャンパスから貸切りバスで福島県いわき市 いわきワンダーファームに向けて出発しました。

ワンダーファームでは、農業最大の問題である風評被害についてや、復興に向けての現在の取り組みなどをお話しいただき、その後ワンダーファームでトマト狩り体験を通して実際に福島の野菜の安全性を確認しました。

浪江町では、一般社団法人まちづくりなみえの職員の方にご協力をいただいて、浪江町の震災時の被害状況から、復興計画、現在の復興状況までご講演いただき、震災についての知識を深めました。その後未だ被災した小学校や震災被害者の慰霊碑など震災の爪痕が残る
町内の視察を行いました。

現地での視察、講話、食事を通して震災の記憶を共有し、風化防止、防災意識の向上に結びつけることができました。また、このプロジェクトを通じて「チーム・オレンジ」の学生スタッフは、企画書作成、準備、当日の運営などのプログラムの一連の流れを学ぶことができました。

［ ルート（日帰り）］

法政大学出発→ワンダーファーム（講話・トマト狩り体験・昼食）→浪江町・講話（町内視察）→法政大学到着

＜参加学生の感想＞

故郷が災害危険区域になり二度と住むことができないのだという生の声に心が痛んだが、漁場（市場）が来年、町を活気づける力となって再起するという前向きな声も聞け、自分の心も変わっていくのを感じた。震災たくさんの悲しみや苦しみを生んだが、同時に今立ち上がろうとする力も生まれている事を知ることができた。ニュースや授業では知ることのできない、リアルを知ることができて本当によかった。　社会学部３年

帰宅困難区域となり、故郷に帰りたくても帰れない人々がいる現状や、除染した土壌が未だに街の至るところに置かれていて、課題がまだまだ山積みであることを知る事ができました。福島の現在の状況を報じるメディアも年々少なくなってきていますが、実際に自分の目で確かめることで、復興の段階にすら進んでいないということを知り、驚きました。原発の問題もあり、震災は過去の事でなく、未だなお収束していない問題であると感じました。　生命科学学部２年

何度被災地を訪れても「想像はできるけど理解はできない」といつも感じます。ここに住んでいる人々の苦しみや悲しみなを100%理解するのは難しい。ですが「理解したい」「向き合いたい」という思いは持ち続けたいと思います。　社会学部４年

学生参加者数　４２名

ワンダーファームでのトマト狩り体験

ワンダーファームでの語り部の話を真剣に聞く

浪江町移動の際もバスの中で町内の状況を説明いただいた

まちづくりなみえの職員による震災当時の説明

震災遺構となった小学校。震災当日まで生徒が通学

浪江町にて集合写真
勉強になった一日

51. 災害の現場で役立つ ファシリテーション講座

日　時　２０１８年１２月１０日（月）

場　所　外濠校舎５階５２６教室

概　要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフは 12 月 10 日（月）、「災害の現場で役立つファシリーテーション講座～“もしも”が起きたときのためにできることを今増やす～」を実施し、１８名の学生が参加しました。

［内容］

●オリエンテーション
　講師である鈴木まり子氏の自己紹介や、鈴木氏が所属しているNPO法人日本ファシリテーション協会の紹介

●知り合いタイム

●災害ボランティアとは（災害ボランティアとは一体どんなボランティアなのか？、 自分の得意分野を生かすとより良いボランティア活動、話し合いの進め方）

●５つの手法と考え方　など

プログラムを通して、ファシリテーション講座を受講した学生がほんの少しの間であっても今までの自分に足りないところを見出し、今後の学生活動に生かしてくれたら企画した意味があったな、と思っています。

人間環境学部 人間環境学科２年　小長井　愛

＜参加学生の感想＞

私が今回の講座で１番印象に残っていることは「まとめようと考えてはいけない」ということです。リーダーの役割が比較的多い人生を歩んできた私は前に立つと、どうしてもまとめる方向に考え、最終的には妥協していました。そのような考えを改める良いきっかけであったと思います。

文学部１年

今回の講座を通して、グループサイズを変えて話し合いをするやり方を知ってこれからのサークル活動やゼミなどで使っていきたいと思いました。どうしてもシーンとしてしまい、意見を出しにくい雰囲気になったしまうことがあるのでまず二人から話し合いを始めるのもいいかなと思いました。

人間環境学部１年

学生参加者数　１８名

52. スターバックス　コーヒー　ジャパン　の取り組みから見るごみ削減

日　時　２０１８年１２月１８日（火）

場　所　外濠校舎５階５２６教室

概　要

内容概略

（１）学生からの企画説明

（２）講師の方によるコーヒーテイスティングの実習とスターバックス コーヒー ジャパン（株）のリサイクルフローの紹介

（３）個人でできる廃棄物を減らすためのアクションやアイデアのディスカッションと発表

（４）質疑応答

近年話題になったプラスチック製品の海洋廃棄問題をきっかけとして立ち上がった本ワークショップ企画は、最終的にスターバックス　コーヒー　ジャパン（株）社員の方２名の協力のもと、様々なごみ問題についての講義・啓発ののち、スターバックス　コーヒー　ジャパン（株）の廃棄物とその処理方法の改善策について講義を行いました。簡単に聞くことができない裏話が盛りだくさんあり、見えないところで様々なごみ問題への努力がなされているのが勉強になりました。

講義の後、参加者をグループ分けして廃棄物を減らすためのアイデアの考案会、そしてプラスチックストローの代替案についてのディスカッションを実施しました。食べられる素材のストローにする、リユース食器など奇抜なアイデアがたくさん出て興味深い内容になりました。

＜参加学生の感想＞

スタバで出たコーヒーかすが、牛の食べ物になって循環している事を今回初めて知り、素晴らしいと思いました。飲食店で出るゴミは一般家庭に比べ量が多いので、適切に処理していく事がより良い環境づくりにつながると思います。店舗でのゴミ削減に関して、紙ナプキンやストローなど資材が用意されているとお客さんも使ってしまうので、最初から置かないこともエコへの近道だと思いました。　文学部１年　宮元　美佳

本ワークショップを通じて、参加者の皆様には様々な企業が環境への取り組みを実施していることを知ってもらい、各家庭においてもごみ問題を意識していただければ嬉しい限りです。　経営学部１年　月岡　悠

学生参加者数　２５名

グループディスカッションの様子

各グループからの発表の様子

53. 手話狂言鑑賞教室

日　時　２０１８年１２月２０日（木）（鑑賞教室事前講座）
２０１９年１月２６日（土）（手話狂言鑑賞教室）

場　所　外濠校舎５階５２６教室（鑑賞教室事前講座）
国立能楽堂（手話狂言鑑賞教室）

概　要

12 月 20 日（木）の事前講座には 21 名、1 月 26 日（土）の鑑賞教室には 16名の学生が参加しました。手話狂言とは、ろう者の俳優の方たちが手話を使って、表情豊かに狂言を演じるもので、聞こえる人も聞こえない人も一緒に楽しめます。

・鑑賞教室事前講座

手話狂言鑑賞をより楽しく、有意義な機会にするために行った事前講座では、講師として日本ろう者劇団の小泉文子氏と、手話通訳者の中野佐世子氏、豊田直子氏をお招きしました。内容としては、まず手話講座の受講生である学生が「能」と「狂言」の違いについて、実演を交えて発表しました。それをふまえて、小泉氏より手話狂言についての説明をしていただきました。なぜ手話狂言を始めたのか、どのように稽古をしているのか、台本をどう作っているのか、などのお話を伺うことで、手話講座で学んだことをより具体的にイメージすることができ、楽しく鑑賞するためのポイントをしっかり予習することができました。また、狂言のすり足や構えなど、狂言独特の「型」を体験することができました。この講座を実施したことは、手話講座での学習をより深く掘り下げ、また有意義に手話狂言を鑑賞することにつながったと思います。参加者からは、手話は表情を使って行うものであるということが改めて分かり、アルバイトなどで聞こえない人と会ったら実践したい、狂言と手話は表情を使うという点で共通している、表情を使って何かを表現することは、健常者であってもコミュニケーションをするうえで重要なことだと感じた、などの感想をいただきました。表情に着目し、それをコミュニケーションに活かしたいといった感想が多かったです。

・手話狂言鑑賞教室

1 月 26 日は実際に、手話狂言を鑑賞しました。社会福祉法人トット基金理事長の黒柳徹子さんのお話を聞いた後、「柿山伏」、「素袍落」、「鈍太郎」を鑑賞しました。狂言師によるアテレコの声と、演者の方々の表情がぴったりとマッチし、何度も見所の笑いを誘っていました。手話講座で習った手話もしばしば登場し、また小泉氏から教えていただいたすり足なども実際に見ることができ、漠然としたイメージがより明確なものとなりました。この体験は、手話講座受講生にとって、今後も手話に興味を持ち続けるきっかけになったのではないかと思います。

VSP 企画学生スタッフ　法学部４年　成田　大輝

＜参加学生の感想＞

手話サークルに入っていることもあり手話には少し親しみがあったが、手話で狂言までできるとは思っていなくてどんなものなのか楽しみだった。実際見てみたら手話がわからなくても分かりやすく、又展開も簡単にわかるものでとても楽しめました。実際の狂言は見たことないがこれを通して、そちらにも逆に興味が出てきました。　グローバル教養学部　２年　荻津　こはる

まず印象的だったのが、アフレコと演者の方々の表情がぴったりと合っていて、しっかり笑いを誘っていたことです。耳の聞こえない方が演じ、聞こえる人と聞こえない人が同時に楽しめる機会は、「障がい者」と「健常者」との間の見えない壁をなくしていくきっかけにもなると思います。また聞こえない状態であのような本格的な狂言を発表するには、想像を絶するような練習量と、高い意識が必要だと感じました。　法学部４年　成田　大輝

今回の手話狂言鑑賞教室で実際に手話狂言を見て、非常に面白く、感動しました。声を発する人と演者のタイミングがぴったりで本当にすごいなと感じました。
また、12月の事前学習の際に小泉さんから学んだ、腰の落とし方や動きなどの様々なことも実際に見ることができてよかったです。狂言というもの自体、鑑賞するのが初めてでしたが1つ1つの話が短めで内容もわかりやすく楽しむことができました。自分の世界がまた広がったように思います。また機会があれば手話狂言を見に行きたいです！

人間環境学科　　1年　　中山 結子

学生参加者数

21名（鑑賞教室事前講座）
16名（手話狂言鑑賞教室）

小泉氏（手話狂言師）の表現を中野氏（手話講座講師）に通訳していただく（事前講座）

能の表現について能楽研究会が協力（事前講座）

国立能楽堂前集合写真

54. 合同定例会（ボランティア活動報告）

日　時　２０１８年１２月２２日（土）

場　所　外濠校舎５階Ｓ５０５教室

概　要

開会挨拶として、伊藤ボランティアセンター長から本定例会の趣旨説明がありました。また、2018 年度はスーパーボランティアと呼ばれた尾畑さんがマスコミに大きく取り上げられたことにより、ボランティア活動が注目された年となりました。ボランティア活動への気運が高まる中で、法政大学のボランティア団体の活動のさらなる飛躍を期待していると、激励の言葉をいただきました。

次に各団体の 2018 年度活動報告を発表していただきました。
チーム・オレンジは代表の鬼頭さん、VSP は代表の藤山さんをはじめ参加者全員、メトロ東京飯田橋駅ボランティアは代表の皆川さん、キャンパスエコロジーは代表の尾崎さんが 2018 年度活動報告を発表しました。
チーム・オレンジは、福島スタディツアーと大学の庶務課主催の防災訓練参加を中心にこれまで行ってきた活動を時系列順に報告しました。
VSP は、キャンパス清掃やペットボトルキャップ回収、千代田区内の祭りでの「ボッチャ」普及活動、こども音楽ボランティア、子供食堂ボランティア、都市部の保全活動、千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム等、年間実施される 100 プログラムのうち、７プログラムの活動報告をしました。
メトロ東京飯田橋駅ボランティアは、サービス介助基礎検定の資格取得をして行っている日々の駅ボランティア活動について活動の様子の写真を交えながら報告しました。
キャンパスエコロジーは、土浦市で活動している「里山班」。千葉県の棚田で活動している「棚田班」、千代田区を中心に祭りのゴミ分別活動などを行っている「緑化班」、自主法政祭でゴミステーション等の活動をしている「学祭班」の４つの班があり、各班ごとに活動報告をしました。

その後の活動報告の感想発表については、普段見えにくい他団体の活動の意図や意味を報告会を通して感じることができた、他団体の発表の中に自団体でも活かせる視点や考え方があり大変参考になった、などの意見が寄せられ、参加者にとって実りの多い報告会となりました。

＜参加学生の感想＞
お互いの活動が知れるいい場になると思いました。また、横のつながりもできてボラセンでの活動においてさらに幅が出ると感じました。　文学部２年　鬼頭　雅也

それぞれのチーム、プログラム企画から運営まで協力して行っていることや、今まで知らなかった活動についても知ることができ、ボランティアに対しての熱意を感じられました。メトロボランティアは他チームと協力したり単発参加したりするのが難しい活動ですが、ボラセンの活動として他チームの皆さんから学べるところを取り入れ、お手本にさせて頂きたいと思っております。それから、今回伊藤センター長と初めてお話する機会があり、刺激を受けたと同時にこれからもコツコツと活動を続けていきたいと励みになりました。　人間環境学部１年　皆川　桃子

これまで、VSP はメトロやチームオレンジの方々とは何回か関わりを持たせて頂き、どういった活動を行っているか等のお話を聞いたことありますが、キャンエコとは中々共同で活動する機会がなく、こうした機会で活動のお話を聞けたのは大変貴重なことです。またこれまで関わりを持っていたメトロ、チームオレンジについても詳しい活動までは存じておらず、今回の合同定例会によって他団体の素晴らしい活動内容を認知できました。
同じボランティアセンター所属の団体で、素晴らしい活動を行っている大事なパートナー団体についてを詳しく知らなかったのは大変恥ずかしく感じました。それぞれの団体、代表さん、メンバーさんの話も面白く、非常に努力しているのが鮮明にわかりました。今回は活動報告だけではなく、悩みごとや今後の課題などを話し合え、これは今後の私達 VSP の活動にも必ず良い影響をもたらすはずです。来年度もこうした合同での定例会や企画を増やしていけたら良いなと感じました。

法学部２年　藤山　雄多

ＶＳＰやチームオレンジ、メトロの活動をお聞きするのも初めてで法政の中でこんなにたくさんのボランティア活動をしていたのかと驚き、代表として知識不足を感じました。キャンエコもボランティアとしては自治体のお祭りのボランティアをしたり NPO のお手伝いをしたりしているので他の団体のボランティア精神は大変参考になりました。キャンエコは他の団体と違いそこまでボランティアセンター様と密接に関わっている訳では無いので空気感が少し違うのかなと言った部分はあったのですがボランティア団体として参加してよかったと思います。

人間環境学部２年　尾崎　沙也花

学生参加者数　１５名

チーム・オレンジ鬼頭代表の報告

メトロ東京飯田橋駅ボランティア皆川代表の報告

VSP メンバーの報告

キャンパスエコロジー尾崎代表の報告

55. 55・58年館清掃ボランティア

日　時　２０１８年１２月２２日（土）

場　所　５５・５８年館３階

概　要

大内山校舎の竣工に伴い 2019 年３月から 55・58 年館校舎解体工事が始まります。55・58 年館は、戦後の法政大学を象徴する校舎であり、長年にわたり多くの学生と教職員の学び舎でした。

VSP 学生スタッフは、55・58 年館３階の 531,532,833,834 教室と廊下を掃除するボランティアを企画しました。大教室のため、床を箒で掃き、机を雑巾で拭きました。机拭きの際には競争することで、楽しみながら素早く掃除をすることができました。

廊下掃除では、床を掃いて拭き、窓枠を雑巾で拭きました。窓枠はやはり埃が溜まりやすいようで多くの埃が取れ、掃除のしがいがありました。床拭きの際には、55・58 年館の特徴である長い廊下を活かし、雑巾がけリレーを行いました。距離がある分大変さもありましたが楽しめました。55・58 年館は、まもなく 60 年の歴史の幕をとじることになります。

＜参加学生の感想＞

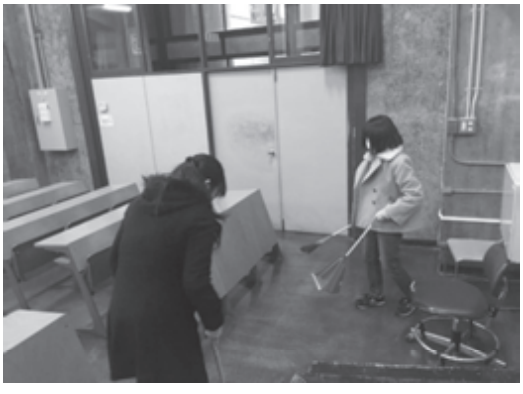
今までお世話になってきた 55・58 年館への感謝の気持ちを持ちつつ、楽しみながら掃除を行いました。教室も廊下も目立った汚れは少なかったですが、今回の掃除でより綺麗になったと思います。また、私は 55・58 年館での授業が多くあり、特にお世話になった思い入れのある校舎であったため、この取り組みに参加できてとてもよかったです。専門必修の授業で使用していた教室の掃除をしているときには、自分がいつも使わせてもらっている机を掃除でき、嬉しい気持ちになりました。このような取り組みを今後も実施できたらよいと思います。

文学部１年　佐久間喜望

学生参加者数　７名

長―い廊下を雑巾がけ

机を雑巾で拭き掃除



教室の床を箒で掃き掃除

56. 学生ボランティア団体助成事業表彰式

日　時　２０１９年2月5日（火）

場　所　国立オリンピック記念青少年総合センター

概　要

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジは、継続して行っている東北被災地支援ボランティアと今後のチーム・オレンジの活動において、「学生ボランティア団体助成事業」に採択され、10万円を助成していただくことになりました。
学生ボランティア団体助成事業表彰式と交流会(2/5)に、２名の学生が参加しました。
会場は、「レセプションホール」国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町３－１）。参加学生スタッフは、同じ課題を持つ他大の学生同士の情報交換などの機会にもなり、刺激をうけ、今後のボランティア活動に生かしていきたいと思いを新たにしていました。

＜参加学生の感想＞
表彰式に参加することで活動のモチベーションとなり、特に同じ震災復興のボランティアをしている他団体の方と情報交換できた交流会は、自分にとっても所属団体にとっても良い機会だったなと思いました。さらに今後の活動の幅も広げられると感じました。

チーム・オレンジ学生スタッフ　鬼頭 雅也　　小長井 愛

学生参加者数　２名

チーム・オレンジ受賞の様子

表彰状を手に

57. フェアウェルDays

日　時　２０１９年2月２３日（土）、２４日（日）

場　所　５５・５８年館

概　要

2019 年 3 月より 55・58 年館の解体工事が行われるにあたり、55・58 年館のフェアウェルイベントが 2 月 23 日（土）、2 月 24 日（日）に行われました。このフェアウェルイベントのピアネット企画として行われた「学び舎 55・58 年館が育んだ法政スピル」に学生スタッフ VSP とチーム・オレンジが参加しました。

VSP は「55・58 年館でのボランティア活動と 55・58 最後のボランティア～感謝を込めた大掃除～」を副題に掲げ、12 月 22 日（土）に行った 55・58 年館の清掃活動の様子のパネル展示を主に、VSP の日々の活動の展示を行いました。また、展示スペースの一角を交流の場とする、55・58 年館への思いを綴る寄せ書きスペースを作るなど学生スタッフと来場者の交流も積極的に行いました。

チーム・オレンジは「チーム・オレンジに宿る法政スピル」を副題として、チーム・オレンジに宿っている法政スピルが日々の活動にどのように影響をもたらしているのかを展示しました。また、日々の活動で使っている防災かるたなども展示するなどの工夫を凝らし、来場者に楽しんでいただけるような展示となりました。

今回のフェアウェルイベントのピアネット企画には 2 日間で合計 1,264 名の来場者に足を運んでいただくことができました。VSP、チーム・オレンジの両学生スタッフと来場者の方が楽しく交流している場面も数多く見られ、55・58 年館の思い出の共有や活動の紹介をすることができ、大成功のうちにイベントを終了することができました。

＜参加学生の感想＞

フェアウェル Days のイベントに関わることによって、より法政大学について、また自団体であるチーム・オレンジについて知識を深められました。また同時に、それらについて深く考える良い機会になったと思います。加えて当日学生スタッフとして参加することで、多くの OB・OG の皆様、教職員の方から「法政大学の生きた歴史」を拝聴し、55・58 年館だけでなく法政大学の歴史の深さを実感し、愛校心が湧きました。

55・58 年館は取り壊されてしまいますが、これからは新しい校舎で先輩方が作ってきた「法政大学の歴史」を私たちがつくっていきたいと思いました。

人間環境学部　２年　小長井　愛

今回の企画に様々な年代の方が来てくださりました。私達の企画に関心を持っていただくと同時に、かつて自分達が過ごしていた法政大学を懐かしんでおられました。来場していただいた方々の話には、私達の知らない法政大学が語られており、私はそこに歴史を感じると共に、法政大学が築き上げた伝統を継承する様、努めていきたいと思いました。

文学部　１年　　南　皓大

フェアウェル Days 企画に関しては、予想を越える大盛況で今更ながら卒業生の皆さんの愛校心に感動しました。学生だった当時の事を思い思いに熱く語っていただき、私達のボランティア活動に関しても沢山の激励の言葉をいただきました。また私たちスタッフが開催前に会場の教室を大掃除したり、長い廊下を雑巾がけ競争した事は、きっと忘れられない青春の思い出になるでしょう。

科目等履修生　森泉 博夫

学生参加者数　１５名

VSP 活動の様子①

VSP 活動の様子②

VSP 準備の様子

チーム・オレンジ活動の様子①

チーム・オレンジ活動の様子②

チーム・オレンジメンバー集合写真

58. ふじみわんぱくひろばで行う 防災アートフェスタ

日　時　２０１９年2月２３日（土）

場　所　富士見わんぱくひろば

概　要

企画学生作成のポスター

富士見わんぱくひろばの「アートフェスタ」に参加し、以下企画を実施しました。

⑴防災クイズ(13:00～14:30)

防災についての身近な知識を○×問題にして子どもたちに答えてもらいました。ひらがなベースのクイズを 10 問作り、そのうちの 3 問に正解できるとロボットを操縦できる「ロボット操縦券」をもらえるようにしました。

⑵防災グッズ作り(15:00～16:30)

新聞紙できるスリッパ作りを実施。難易度も低めで、完成したスリッパはアートフェスティバルに合わせ絵を描けるようにしていたので、幼児から高学年まで多くの子どもたちに楽しんでもらえました。スリッパを作った子どもたちには「ロボット操縦券」を渡しました。

⑶防災ロボット操縦体験(知能ロボット研究室（理工学部）)(13:00～16:30)

小金井キャンパスの理工学部電気電子工学科の知能ロボット研究室(伊藤一之教授)の皆さんに協力してもらい、研究室の方々が作った防災ロボットの操縦を子どもたちに体験してもらいました。子どもたちはロボットの操縦に興味津々で、ロボットを操縦したくて⑴や⑵に２回以上来てくれた子どもたちもいました。

※⑴もしくは⑵を体験してくれた子どもたちがロボットを操縦できる仕組みを作っていたためロボットの操縦に子どもたちが集中することなく、スムーズに子どもたちを誘導できました。また、２つの体験をしてくれた子どもたちには景品として非常食用のビスコをプレゼントしました。

経営学部 経営戦略学科 ２年　三田寺有希

＜参加学生の感想＞

何度も打ち合わせをしながら当日まで企画を進めてきました。上手く進行ができず、富士見わんぱくひろばのスタッフさんやチーオレのみんな、特にボラセンの職員さんにはご迷惑をたくさんおかけしました。それでも皆さんが優しく指導してくださったおかげで当日企画を成功させることができました。予想以上に子どもたちが楽しんでくれていて、その笑顔を見る度にやってよかったなと感じられました。防災グッズを作成している時はただ工作をするだけでなく、その用途についても子どもたちは興味を示してくれて防災について興味を持ってもらえたと思います。

また、知能ロボット研究室（理工学部）防災ロボットにもたくさんの子どもたちが興味を持ってくれました。ロボットを操縦できるだけあって、ロボットを操縦する為に何度かクイズや防災グッズ作りに参加してくれた子もいました。木材の障害物を置いた事や学生の説明により、ロボットが災害現場でも使われていることを子どもたちに知ってもらうことができたと思います。遊びながら防災を学べる貴重な機会になりました。

もしも災害が起きたときどうしたらよいか、それが学べる機会は都内ではまだまだ少ない印象です。近年起こると言われている首都直下型地震、そのほかにもいつ起こるか分からない災害に備えてもらうために多くの方を巻き込んだ企画を今後も行っていきたいです。

経営学部 ２年　三田寺　有希

学生参加者数　９名

知能ロボット研究室（理工学部）
災害救援ロボットのデモの様子

防災スリッパのアートペインティング

引き換えカードと防災用ビスコを交換

防災クイズでロボット操縦券をもらう

59. 常葉学園大学（静岡県）図上訓練

日　時　２０１９年2月２３日（土）、２４日（日）

場　所　静岡県常葉学園大学

概　要

静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練　今やりたい！災害時の「多様」に気づき、地域の備えに＋α静岡県で行われた上記のタイトルの訓練に参加しました。この訓練では今回で 14 回を迎え、毎年テーマを設定してワークショップや事例報告、交流会などを行っています。私は県内プレイヤー、県外プレイヤー、ビジターとある中でビジターとして参加しました。「多様」というテーマをもとに行われたワークショップを見学では、6～7 人程度の小グループでファシリテーターと共に互いの考えを共有しました。事例報告では、避難所を実際に運営する側として体験した職員の話、ボランティアの運営側の体験談や事例など様々な報告を聞き、学びました。交流会は、参加者の方たちとどのような活動を行っているのか、何を問題として抱えているのかなどたくさんの話を聞きました。また、参加者の方の計らいにより、学生が集まって交流する場などもありました。

文学部地理学科２年　鬼頭　雅也

＜参加学生の感想＞

今回のテーマは「多様」でした。事前課題を取り組んだとき「多様」を認めることは、例えば避難所を運営するうえで大きな弊害になるのではないか、と結論に至っていました。各人の「多様」な要望を細かく聞いていては避難所の運営は困難になると感じたからです。そして訓練に参加して、特に事例報告が印象的であるが、割り切ることも必要だということが分かったとともに、積極的に考える必要もあることが分かりました。この「多様」はとても難しいことだと思いました。一番印象的なものは、受援する側のニーズの「多様」です。各地からボランティアが来てくれることはうれしいが、むやみに、というのも新しい問題が生まれます。受け入れる側は、事前に想定をしてどんなボランティアが必要なのかあらかじめ準備しておくことは無駄にはならないと思いました。

交流会では、経験の高い災害ボランティアの方のお話に加え、学生とも交流を深めました。ある団体は静岡県に一つの地域と協力関係を結び、災害の時に円滑に赴けるように事前に交流を行っているという貴重な話が聞けました。このことは自団体に生かしたいと考えています。

また、ファシリテーターの存在の大切さに再度関心を持ちました。チーム・オレンジの代表として時代と共に変化していくボランティアの在り方にうまく対応していくのに大切な能力だと思いました。このように、災害についての理解や考察に加え、団体運営についても大きなヒントを得られてとても有意義なものでした。

学生参加者数　１名

図上訓練の様子①

図上訓練の様子②

60. 岩手・宮城スタディツアー

日　時　２０１９年2月２２日（金）　事前説明会
　　3月1日（金）～3月4日（月）実施

場　所　外濠校舎Ｓ５０５教室　事前説明会
　　岩手県遠野市、陸前高田市、大槌町など　実施場所

概　要

東日本大震災から８年を迎えた今、スタディーツアーという形で被災地に対する理解やボランティアに対する導入として、今まで被災地を訪れていない学生が足を運ぶことで、風化防止や防災意識の向上につなげていくことを目的に実施しました。本企画はボランティアセンター所属の学生スタッフであるチーム・オレンジが企画し、各種手配や外部との調整、当日の運営なども行いました。また、実施にあたり２月２２日（金）に事前説明会を行いました。

３月２日は、「釜石観光ボランティアガイドの会」の案内のもと、市内の視察を行いました。ガイドの方からは、津波にのまれながらも命からがら助かったという体験をお話いただいたり、当時のまま残されている建物を実際に見学したりすることで、参加学生は震災時の状況に思いを馳せ、自分の目で見ることでしか感じられない被災地の現状を学びました。また、本年夏にラグビーワールドカップの開催される釜石鵜住居復興スタジアムを見学し、復興を肌で感じることができました。午後には、「三陸鉄道」の運行する震災学習列車に乗車しました。車窓から景色を眺めながら、三陸鉄道の被災状況やその後のクウェートからの支援などについてお話をうかがいました。

３日は、宮古市の景勝地である「浄土ヶ浜」の見学を行いました。ガイドの方のお話を聞きながら浄土ヶ浜の美しい景色を眺めたり、津波にのまれたレストハウスの話を聞いたりしました。午後には、「学ぶ防災ガイド」の案内のもと、市街が全滅状態になった田老地区の視察を行いました。全員で防波堤の上に立ちその高さを実感するとともに、それを乗り越えた津波の恐怖を感じました。震災当時、津波が迫ってくる様子が撮影された「たろう観光ホテル」の一室でビデオを視聴し、津波が来たら即高台へ、「津波てんでんこ」の考え方を学びました。その後は、実際に小学生が避難した津波避難道を通って、高台に逃げる疑似訓練をしました。

４日は「陸前高田市観光協会」のガイドのもと、陸前高田市の視察を行いました。復興のシンボルとなっている奇跡の一本松や、津波が３階まで襲った旧気仙中学校、かさ上げ工事中の街並み等を視察させていただくことで復興の進んでいる様子を学びました。しかしながら用途の決まっていない広大な土地を見て、被災地におけるまちづくりの難しさも感じました。午後は気仙沼市に移動し、シャークミュージアムを見学しました。震災関連の展示や映像を通して、一瞬にして故郷を奪われた方々の苦しみ、また、そこから立ち上がろうと前を向く力強い姿を学ぶことができました。気仙沼の産業であるサメ関連についても学び気仙沼の生活についても学ぶことができました。

身につけておくべき防災知識や被災地での今現在の問題点を自分も含めて参加者全員が知ることができ、とても良いツアーを実行できました。日程などの都合上、視察やガイドといった受動的な体験ばかりになってしまいましたが、現地の人ともっと交流するような能動的な体験ができるように設定すればよかったと思います。被災地やボランティアに興味があるけれど一歩踏み出せない人なども参加しやすいように、今後も様々な企画を実施していきたいと考えています。

チーム・オレンジ企画学生スタッフ　法政大学文学部２年　伊達　隼人

＜参加学生の感想＞

風景を見る限り、徐々に復旧、復興しているように見えました。

一方で被災した方々の中には、今もなお葛藤し続けている方も多く、震災はまだ終わっていない、いや終わらないのだと思いました。

複数の方が「いま必要な支援は心のケア」であるとおっしゃっていました。わたしたちは所詮部外者であり、被災者との壁は否定できません。でも被災者には「よそ者になら話せること」もあるといいます。“話を聞く”ことで被災者の方が背負うものを少しでも共有したいし、今回出会ったみなさんから学んだことを自分の中で「生きた教訓」として残していきたいです。

経営学部　経営学科　３年

最初は参加を悩んでいましたが、参加してよかったです。私がこのツアーに参加したのは就活をしていて宮城に来ることがあり、それがきっかけでもっとしっかり学びたいと思ったからです。自分で得られる情報（YouTube やテレビなど）で勉強はしていましたが、直接震災・津波を経験した方に話を伺えるというのはより衝撃やその苦労が伝わってきました。
今回、街を見るだけになってしまい、被災地の方の力になれなかったのが歯がゆかったです。そしてツアーでガイドをしてくださった方にお礼をちゃんとしたいです。目を赤くして、鼻をすすりながらも当時あったことを私たちに伝えてくれたこと、とても感謝しています。
また、スタディツアーではありましたが他学部の学生ともっと仲良くなりたかったです。説明会で自己紹介などをすればスムーズにまた活発にいくと思いました。

キャリアデザイン学部　キャリアデザイン学科３年

学生参加者数　３１名

震災学習列車

浄土ヶ浜ガイド（宮古市）

学ぶ防災ガイド（田老町）

アイスブレイク（防災カルタ）

シャークミュージアム（気仙沼市）

意見交換会

61. 東京メトロ飯田橋駅ボランティア報告会

日　時　２０１９年3月6日（水）

場　所　外濠校舎２階２０２教室

概　要

飯田橋駅社員を始めとした東京メトロ社員の方、日本ケアフィット共育機構の方、千代田区社会福祉協議会の方をお招きし、そして以前このボランティア活動に携わっていただいた前ボランティアセンター職員 南雲健介さんにも参加いただきました。

初めに伊藤マモルボランティアセンター長から挨拶をいただき、今年度から参加した２期生３人がこの１年の活動報告や次年度に向けての改善点の提案プレゼンテーションを行いました。質疑応答では、南雲さん、伊藤先生、東京メトロの小澤様から感想と今後についてのアドバイスなどをいただきました。

また、講評では、飯田橋駅社員の坂入様、昨年６月の研修でも大変お世話になった日本ケアフィット機構の山崎様から講評をいただきました。皆さんこの活動と今回の発表を褒めて下さり、多くの方のサポートあってのボランティア活動であることを強く感じました。

そして東京メトロより感謝状と記念品の授与があり、１期生から浮池、岩本、楠山、森泉、２期生からは皆川が表彰されました。これからも責任を持って駅での見守り活動を続けていきたいと改めて身が引き締まりました。

多くのコメントにあったのが、メンバーの固定化の問題です。これは私達学生もメトロ側も問題視している点でもあるので、これからこのボランティア活動を軌道に乗せるにあたって改善していかなければいけなと考えています。

報告会の準備に取り掛かるのが遅かったのと、頼れる２期生メンバーが少なく、数人に負担をかけてしまったのは大きな反省点だと感じています。また懸念されている参加メンバーの固定化についてですが、今年度はメンバー同士が顔を合わせる機会がそこまで多くなく、LINE でのコミュニケーションも十分に取れていたとは言えない現状がありました。そのため、活動が本格的に始まってからの期間、また募集時にも改善点は多いと感じています。現時点で来年度も参加するとの意思を示してくれているメンバーもいますので、皆で意見を出し合い、ボランティアではありますがメトロさんから依頼を受けて活動していることを頭の片隅に置いて、地道に活動を続けていきたいと考えております。

人間環境学部１年　皆川　桃子

＜参加学生の感想＞

東京地下鉄において法政の学生さんが駅でボランティアをしているということで興味を持って参加させていただきました。障がいのある方のサポートや駅を利用する人々への道案内など多岐にわたる活動は大変だったと思いますが研修や駅員の方のサポートを通して良くなっていったのではないかという印象を受けました。１年生の時から周りを見て行動する機会があることは今後社会人になった時も大いに役に立つのではないかと思います。

また組織の問題点としてメンバーが固定化されてしまう、一度休んでしまうと参加しにくいという問題に対して解決しようとする意欲が感じられました。ぜひ理系の学生(小金井)もたくさん呼んで活動して欲しいです！これからも頑張ってください。

理工学研究科　奥田　航大

参加者数　１７名

駅ボランティア学生スタッフ皆川さんからの報告

東京メトロより表彰状、記念品の授与

東京メトロ社員、飯田橋駅社員と談笑

集合写真

62. ベイラー大学との合同ボランティアツアー

日　時　2019年3月11日（月）、12日（火）

場　所　新宿区（神楽坂）、荒川区（社会福祉協議会関連施設）、中央区（銀座）

概　要

市ヶ谷ボランティアセンターでは３月 11 日(月)、12 日(火)にアメリカのベイラー大学の学生８名と VSP メンバー5 名の共同で「ベイラー大学企画」を実施しました。
「子ども食堂」や「子どもの居場所」に関するボランティア活動や、日本の文化について知ってもらうための東京観光を行いました。法政大学の海外交流協定校であるベイラー大学のミッショントリップの一環で、私たち VSP はその活動のサポートをしながら一緒に活動しました。

１日目は、荒川区内の子ども食堂やおもちゃ図書館でのボランティア活動や、明治神宮・原宿・渋谷といった東京を代表する観光地巡りを行いました。子ども食堂では、ベイラー大学の学生さんが自分たちで料理を作り、子どもたちに喜んでもらえたので充実した活動になったと思います。また、おもちゃ図書館では乳幼児の遊び相手になって子どもたちとふれあいました。普段は乳幼児と接することがないので、私たちにとっても新たな発見が沢山ありました。

２日目は、日本の文化や歴史をより知ってもらうことを目的に、焼き鳥体験や歴史博物館見学などを行いました。焼き鳥体験では、肉や野菜を串に刺すところから炭火を使って実際に焼くところまでをお店のスタッフさんに教えていただきながら行い、ベイラー大学の学生とも楽しく交流することができました。その後は江戸東京博物館や浅草に行きました。ベイラー大学の皆さんには今まで知らなかった日本を感じ取ってもらえたのではないかと思います。
２日間の活動の中で、特に印象深かったのは子ども食堂での出来事です。ベイラー大学の学生さんは日本語をほとんど話せません。ですが積極的に子どもたちとコミュニケーションを取ろうとした彼らの思いが伝わったのか、食堂の子どもたちも気持ちを一生懸命伝えようとしてくれました。その様子を見て、言葉は通じなくても気持ちを伝えようとすることが大切だということを学びました。この企画をやるまでは、「私は英語を話せないからベイラー大学の皆さんとちゃんと交流できないだろうな…」と思っていたのですが、上手く言葉で伝えられなくても相手の学生さんが気持ちを汲み取ろうとしてくれたので楽しい時間を過ごせました。
今後は今回できなかったことや上手くいかなかったことを生かし、一般学生の皆さんが楽しみながら交流を図ることができるような企画を考え実施していきたいです。　文学部日本文学科１年　齋藤真悠

［企画スタッフ学生の感想］
今回、私は主に１日目の午後の活動に関わる、バイタル・プロジェクトさんとベイラー大学の方をつなげる役割を担っていました。バイタルの方にもベイラーの方にも、多くの感謝をいただき、嬉しい気持ちになりました。
子ども居場所ステーションに来ている子どもたち、ベイラー大学の学生さん、両者に得るものがあったようでよかったです。いろんな方にボランティア事業に興味を持っていただけるよう、広めていきたいと思いました。また今回のような機会があれば、その際もつなげる役割を担いたいです。　文学部１年　佐久間　喜望

企画実施前は仲良くなれるか不安がありましたが、みなさんとても良い方々で、良い友達になれました。事前の打ち合わせを重ねてスケジュールを決めたことで充実した２日間を過ごせたと思います。　経営学部　１年　月岡　悠

私はこれまで国際交流にはあまり興味がなかったのですが、この活動で文化や考え方の違う外国の方と話すことの楽しさがわかり、とても良い経験になりました。また子供たちをみんなで見守れる社会づくりに貢献する活動を行なっていきたいと思いました。　経営学部　１年　後藤　優音

学生参加者数　１３名

焼き鳥体験をしている様子

子ども食堂でのボランティアの様子

ハチ公前から観光へ出発

グループ行動で交流を深める

焼き鳥マスターの修了書を手に

両大学での集合写真

多摩ボランティアセンターの活動の概要

多摩ボランティアセンター2018 年度活動の総括

多摩ボランティアセンター長　橋本　到

2018 年度、多摩ボランティアセンターでは、2009 年創設以来の二つの方針――「学生スタッフによる自律的な企画運営の推奨」「地域との絆の強化」のもと、数多くの成果をあげることができました。イベント数は 30 と、昨年とほぼ同数ですが、ボランティアの実行を中心的に担う学生スタッフ数は、倍増し 51 名に達しました。前年度の学生スタッフの努力、ボランティア活動への関心の広がりが、増加の要因と考えられます。

多摩におけるボランティア活動は、大きく分けて、大学の立地する相原の地域支援と、遠隔地の被災地支援（気仙沼、熊本）に分かれます。

センターの柱の一つである「地域（相原）との絆の強化」は、着実にその根を深く、広く張り続けています。学生企画による住民団体交流会である「あいはら想いの竹カフェ」は、2017 年度から始まり、相原地区協議会から補助金をいただき大学連携事業として実施を継続しています。年間 3 回、多くの来場者をお迎えし、親睦を深めるゲームやトークイベントでは、司会・進行に学生が工夫を凝らし、学生自らが様々な形で相原の今を知り、新たな活動に向かう契機ともなっています。本年度の第 3 回目（19 年 3 月）では、認知症カフェを開いている「特別養護老人ホーム椿」に場所を移し、その協力を得ながら、「理想の最期の迎え方」というともすればシリアスな話題を、和気藹々と語り合う場をもうけ好評を博しました。地域活性化に関わる他の活動としては、「相原にぎわい創生事業「竹あかりの街「相原」」が主催する、相原に自生する竹をメインモチーフにした試みへの参加があります。周辺大学の学生と協働し、19 年 3 月に JR 東日本相原駅西口にて、自らの製作した竹のオブジェに明かりを灯しました。相原での活動は多岐に及び、郷土の詩人八木重吉記念館の墓地清掃、小中一貫校町田市立ゆくのき学園の児童との交流、介護老人福祉施設ヴィラ町田への慰問・傾聴、あいはらほうとうコンサート（相原住民福祉協議会）への参加など以前から続けられている活動の他、新たなものとしては、堺市民センター、子どもセンターぽお（いずれも相原）や青少年施設「ひなた村」（本町田）での子ども支援、特別養護老人ホーム第二清風園（薬師台）訪問や東京医科大学八王子医療センターでの「緊急医療救護所訓練」参加など、学生による意欲的な取り組みが相次ぎました。また、これに加えて、町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ」（町田全域）では、地域ボランティアの交流の輪に積極的にかかわりました。

被災地支援では、それぞれ東日本大震災、熊本地震の被災地である、宮城県気仙沼市大谷海岸（2015 年から継続）と熊本県益城町木山仮設団地で活動を行いました（2016 年から継

続）。いずれにおいても、被災から時間がたち、復興が進む中、所謂瓦礫撤去のような被災地支援でなく、コミュニティー支援という色彩が強くなっています。

気仙沼市大谷海岸地区は、被災後住民の感情や防潮堤工事に対する考えなどが必ずしも一つにならないなか、様々な努力や工夫によってこれを克服し、広く注目を集めていることを、現地の三浦友幸様（一般社団法人プロジェクトリアス代表）からお話ししていただき、貴重な学びとすることができました。大谷海岸の花火祭りは、鎮魂とコミュニティーの融和を願って開かれますが、「チーム気仙沼でつながら騎士（ナイト）」は、9月9日に行われたこの祭りの舞台や椅子席の設営、車での入場者の整理、打ち上げ花火の後片付けのお手伝いなどをさせていただきました。今回で四年目となる、若い学生たちのボランティア活動は喜ばれ、Knet気仙沼ケーブルネットの取材も受けました。

「チームたまもん」は、一次隊が8月20日から23日、二次隊が2月16日から18日にかけて熊本県益城町で支援活動を行いました。併せて、現地の動向を知るために、町の社会福祉協議会や木山団地内の自治会長さんから話をうかがい、被災後今なお残る問題と今後の活動の展開について考えました。熊本保健科学大学の学生と協働しての子ども支援では、仮設団地内の集会所で工夫を凝らして子どもたちと遊び、その模様の一部が読売新聞熊本版に紹介されました。仮設の子供たちの多くは両親が働きに出ている間、自分たちだけで遊びますが、遊具も遊び場にも十分恵まれているというわけではありません。「チームたまもん」の取り組みは、一義的にはそうした子供たちに手を差し伸べることですが、それにとどまらず、来訪した大学生と楽しく遊んだ子どもたちが、帰宅してその思いを持ち帰り、ご家庭に伝えてくれれば、そのことがまた現地への励ましになるのだろうとも考えられます。

熊本支援は、別のプロジェクトとも連動していて、被災地と相原を結びつけ、寄り添いの絆をより太くし、励ましを進めています。益城町のお茶屋の富澤さんと相原のカトウファームさん、ゆめ工房さんとのコラボで開発した「益城町を応援しなく茶クッキー」ならびに「同プリン」を、学内はもとより、相原地区でのボランティア活動である竹カフェ、堺市民センター祭、町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ」などで販売し、ささやかながらその収益を現地に寄付させていただいています。また、「はるかのひまわりプロジェクト」では、益城の移動図書館からいただいたひまわりの種――もとは阪神淡路大震災の犠牲となったはるかちゃんの育てていたもの――を法政多摩キャンパス内に植えています。昨年度から継続されているプロジェクトですが、これも寄り添いの輪を広げようとするものです。

ボランティア活動は私的なものではなく、多数の幸せに関わる営みですから、活動終了で終わらずに、それを広く発表し、手を携えるべく活動の輪を広げることが大切で、それがさらに大きな支援の力を生みます。学内では、10月に「夏の被災地活動報告会」、12月に「地域にスマイルを届けよう活動助成金」報告会が行われ、様々な学内ボランティア団体の情報交換や啓発につながりました。学外では、2月にイオンモール多摩平で催された「多摩地区の大学と地域によるネットワーク」主催の「被災地と多摩地域の架け橋～大学生はなぜ、被災地に通い続けるのか？」に参加し、中央、明星、実践女子、首都大学東京の各大学の学生

とともに、本学の気仙沼チームの学生代表が登壇し、活動の模様をプレゼンしました。熊本チームも支援のクッキー販売を行いました。来場者は二日で 640 人、他大学のプレゼンや会場からの活発な反応は、大きな励み、刺激になりました。また、3 月の学生活動報告会「がくまち Expo」（主催町田市）でも、ポスターブースにて来場者と交流しました。

2018 年度は、このように、地域との交流、被災地支援で、数々の活動を展開し、実りある形で終了することができました。様々な問題をクリアーしながら、活動に生き生きと取り組み、多くの学びを得た学生たちの真摯な姿勢、奮闘を賞し、その成果を一緒に喜びたいと思います。一方、職員の皆さんにおいては、昨年から大幅にスタッフが入れ替わったなかで、学生との連絡や見守り、各種資料の作成に携わる一方、ボランティアセンターの活動のもう一つの柱である「学生スタッフ」による「自律的な企画運営」が確実に遂行できるよう腐心されました。その労に感謝したいと思います。

最後に、活動の財源について触れると、被災地支援では、災害発生から時間が経つと外部の助成金が減少しがちなうえに、活動の場が遠隔地であるため、費用のやりくりに苦労することになります。そうしたなかで、気仙沼支援、熊本支援は、それぞれ、ヤフー基金、日本財団（ガクボ）から、そして、両支援とも本学の「地域にスマイルを届けよう活動助成金」から、助成をいただくことができました。記して深く感謝の意を表する次第です。ボランティアは、社会の変動につれて変化すべきものですし、現場で発見した新たな課題にも取り組まなければなりません。次年度においても、引き続き、本年の成果を継承、発展させていきたいと考えております。

2018年度　ボランティア支援プロジェクト　イベントカレンダー

月　日	曜　日	イベント・講座・訪問先	概　要	参加者数
4月11日-13日	水-金	益城町を応援しなくっ茶！クッキー販売&パネル展	コラボクッキーの販売とチームたまモンの活動パネル展示	5名
5月20日	日	第二清風園イベント支援	第二清風園の100周年イベントの運営支援	7名
5月23日-10月9日		はるかのひまわり絆プロジェクトIN多摩キャンパス	被災地支援の一環として、多摩キャンパス正門横で「はるかのひまわり」を育成	26名
5月30日・6月27日	水・水	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	9名
6月3日	日	町田市生涯学習センター利用者交流会	町田市生涯学習センターの第5回利用者交流会	7名
6月23日	土	―相原11地区協議会大学連携事業― 第4回地域交流会「竹カフェ」	Slow World Cafeにて、相原地域の方々との交流会	13名
6月30日	土	ヴィラ町田傾聴ボランティア&Voice of Winds演奏会	吹奏楽サークルVoice of Windsによる演奏と傾聴ボランティア	26名
6月30日-7月1日	土-日	堺市民センター祭り	コラボクッキーの販売	12名
7月6日	金	町田市立ゆくのき学園大戸小学校児童来訪	ゆくのき学園大戸小学校の児童らが授業の一環でボランティアセンターに来室	1名
8月5日	日	ヴィラ町田夏祭りボランティア	ヴィラ町田夏祭りの運営補助	14名
8月20日-8月23日	月-木	熊本被災地支援活動（第1次隊）	益城町仮設団地での子ども遊び支援	6名
9月8日-9月9日	土-日	宮城県被災地ボランティア ～気仙沼でつながらNIGHT～	宮城県気仙沼でのお祭り支援やスタディツアー	8名
10月11日	木	夏の被災地ボランティア活動報告会	気仙沼でつながら騎士、チームたまモンによる被災地ボランティア活動報告会	21名
10月20日	土	第71回自主法政祭多摩地区	コラボクッキーの販売とチームたまモンの活動パネル展示	7名
10月21日	日	ひなた村子どもチャレンジフェスティバル	イベント運営補助、および子ども向けの出し物を主催	6名
10月22日・ 11月19日	月・月	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	9名
10月28日	日	第二清風園ハロウィンフェスティバル	第二清風園ハロウィン祭りに参加	15名
12月2日	日	第12回市民協働フェスティバル　まちカフェ！	町田市内の活動団体が集い、活動の紹介展示やワークショップを行い交流を深めるイベントに参加	12名
12月8日	土	―相原11地区協議会大学連携事業― 第5回地域交流会「竹カフェ」	Slow World Cafeにて、相原地域の方々との交流会	11名
12月14日	金	八木重吉記念館清掃ボランティア	八木重吉記念館周辺の清掃活動	4名
12月21日	金	学生ボランティア2018年度活動報告会	多摩キャンパス学生による活動報告会	11名
2月3日	日	東京医科大学八王子医療センター緊急医療救護所訓練	八王子医療センターでの医療対応訓練	10名
2月6日-2月10日	水-日	第5回大学生ボランティア写真展&イベント	イオンモール多摩平の森にて、他大学と合同でボランティア活動を報告、展示	11名
2月16日-2月18日	土-月	熊本被災地支援活動（第2次隊）	益城町仮設団地での子ども遊び支援	5名
3月3日	日	たまぴよ～つくろう!!ひなまつり～	子どもセンターぱおにて親子向け企画	5名
3月8日	金	あいはらほうとう&コンサート	相原地域の交流企画に参加	4名
3月12日	火	―相原11地区協議会大学連携事業― 第6回地域交流会「竹カフェ　椿」	相原地区の方々との交流会	10名
3月20日	水	学生活動報告会【ガクマチEXPO】	町田・相模原で活動する大学学生団体の活動報告会	4名
3月23日	土	ゆめ工房まつり	ゆめ工房が主催するイベントの運営補助	2名
3月30日	土	まちだ○ごと大作戦-竹あかりの街あいはら-	竹灯籠をはじめとする竹のオブジェを制作し、点灯式を行う	6名

講師、協力先	備　考
町田ゆめ工房・お茶の富澤。・Slow World Café	学内にて、学生スタッフ考案のゆめ工房（相原町）とお茶の富澤。（益城町）コラボ「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売と、チームたまモンによる熊本支援活動のパネル展示を行った。
社会福祉法人賛育会第二清風園	町田市にある複合型福祉施設、社会福祉法人賛育会第二清風園にて開催された100周年記念フェスタの運営支援を行った。
はるかのひまわり絆プロジェクト・法政大学美術研究会	昨年同様、命の尊さや復興の象徴として広まった「はるかのひまわり絆プロジェクト」に賛同し、キャンパス内にてひまわりを育成、種を収穫した。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
町田市生涯学習センター	町田市生涯学習センターの利用者交流会にて、学生スタッフが分科会「明日から使える！コミュニケーション法」を運営。利用者の方たちと交流をした。
Slow World Café・スターキッズ・地域系サークル「ふなで」・町田ゆめ工房	相原地域の方々をお招きした交流会。相原地区にて高齢者や子どもの居場所づくりを行っている「スターキッズ」と本学サークル「ふなで」の連携を紹介するとともに、グループワークを行った。
介護老人福祉施設ヴィラ町田	吹奏楽サークルVoice of Windsのメンバー21名による演奏会、学生ボランティア5名による傾聴ボランティアを行った。
堺市民センター・町田ゆめ工房・お茶の富澤。	相原駅近くにある堺市民センターにて、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」を販売。熊本で頂いた、命の尊さや復興の象徴である「はるかのひまわり絆プロジェクト」のひまわりの種も配布した。
町田市立ゆくのき学園大戸小学校	ゆくのき学園大戸小学校の児童ら5名が、「まちをたんけん　大はっけん」という授業の一環で法政大学に来訪。ボランティアセンターにて学生スタッフが概要説明を行い、キャンパス内を案内した。
介護老人福祉施設ヴィラ町田	ヴィラ町田夏祭りにて、運営補助や利用者の方との交流等を行った。
熊本YMCA・熊本保健科学大学・熊本子育てネットワーク	仮設団地内で、子ども支援（流しそうめん・バルーンアート・スライム作り）を行い、現地の社会福祉協議会の方にお話を伺い、見学をした。
本吉町内の自治会	大谷海岸花火まつりの舞台の設営、片付け等の運営補助を行った。また、語り部の方にお話を伺い、被災跡地を見学した。
	被災地支援を行っている学生スタッフ「チーム気仙沼でつながら騎士」「チームたまモン」が夏の活動について報告し、意見交換を行った。
町田ゆめ工房・お茶の富澤。	多摩キャンパスの学園祭にて、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売と、チームたまモンの活動紹介パネル展示を行った。
町田市少年少女発明クラブ	町田市政60周年を記念したイベントに参加。メインイベントの運営補助と、子どもを対象にした「しっぽとり」ゲームを考案、実施した。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
社会福祉法人賛育会第二清風園	町田市にある複合型福祉施設、社会福祉法人賛育会第二清風園にて開催されたハロウィン祭りの運営支援を行った。
町田市市民部市民協働推進課・町田ゆめ工房・お茶の富澤。	学生スタッフが考案した益城町産茶葉×相原名産品のコラボ商品「かぶせ茶プリン」「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売を行い、子ども向けのワークショップを開催した。
Slow World Café・パンの木	相原地域の方々をお招きした交流会。「貿易ゲーム」という経済の仕組みを疑似体験できるワークショップを行い、学生と地域の交流を深めた。
八木重吉記念館	相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。
	多摩キャンパスの学生が、この一年間の自分たちのボランティア活動について報告した。
八王子医療センター・地域交流センター	被災地で活動する「チーム気仙沼でつながら騎士」「チームたまモン」のメンバーを中心に、八王子医療センターでの医療対応訓練に参加した。
イオンモール多摩平の森・多摩地区5大学・日野市社会福祉協議会・日野市役所・東京ボランティア・市民活動センター	多摩地区の大学・行政とともに被災地ボランティアに関する報告会とパネル展示を行った。「チームたまモン」は物産展でクッキーを販売し、「チーム気仙沼でつながら騎士」は活動報告会に参加した。
熊本YMCA・熊本保健科学大学・熊本子育てネットワーク	仮設団地内で、子ども支援（団子・たこ焼き・スーパーボール作り）を行い、現地の自治会長・社会福祉協議会の方に、被災地の現状についてのお話を伺った。
子どもセンターぱお	町田市にある子どもセンターぱおにて、学生スタッフ考案の親子参加型の工作企画を開催。紙コップを用いたひな人形作りを行った。
あいはら住民福祉協議会・町田市社会福祉協議会・大地沢青少年センター	「相原地区高齢者支援対策事業」として開催されている「あいはらほうとう＆コンサート」イベントに参加し、会場準備や受付業務を行った。
特別養護老人ホーム椿・明月堂	相原地域の方々をお招きした交流会。特別養護老人ホーム椿で開催されている認知症カフェ「カフェつばき」と協働で行い、「理想の最期の迎え方」をテーマにゲームを実施した。
町田市生涯学習センター・桜美林・相模女子・サレジオ高専・さがまち学生Club・大学コンソーシアム八王子	町田・相模原で活動する大学学生団体がパネルディスカッション、ポスターブースセッションを通じて、自分たちの活動をPRした。
町田ゆめ工房	「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の製造でお世話になっている町田ゆめ工房の主催イベントに参加。運営補助や利用者の方の見守りを行った。
さがまちコンソーシアム・相原にぎわい創生プロジェクト・東京家政学院大・多摩美術大・東京造形大・地域交流センター	相原駅西口駅前広場に、他大学とともに竹灯籠を作成した。点灯式では、学生スタッフが司会を担当し、学生代表として挨拶を行った。

①　益城町を応援しなくっ茶！クッキー販売＆パネル展

日時：2018 年 4 月 11 日（水）～ 4 月 13 日（金）
場所：多摩キャンパス EGG DOME 2 階　Slow World café、6 号館食堂

概要：

1．内容

学生スタッフ熊本被災地支援「チームたまモン」第二弾の企画・提案で完成した、益城町の「お茶の富澤」さんと相原町の「ゆめ工房」さんとのコラボスイーツ、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」販売を行った。当日は熊本県での被災地ボランティア活動パネルを展示。地域の方々にもお越しいただき、3 日間で 120 個を完売した。

この活動は読売新聞より取材を受け、4 月 13 日（金）付の多摩版に掲載された。

熊本県益城町名産「かぶせ茶」×相原町「ゆめ工房」さん手作りクッキー
コラボスイーツを限定販売！

とびきりスイーツで被災地支援♡

益城町を応援しなくっ茶！クッキー
販売＆活動パネル展

熊本地震から２年。多摩ボランティアセンターでは、
被災地ボランティア活動パネル展と現地支援クッキー販売を行います。

●日時：2018 年 4 月 11 日（水）～13 日（金）
◆パネル展　→11：00～18：00　カフェの営業時間内
◆クッキー販売→13：00～　なくなり次第終了
※値段＝4 枚入り 100 円

●場所：EGG DOME（16 号館）2 階 Slow World Café

●内容：①パネル展示→チームたまモン 2017 熊本支援活動写真
②益城町を応援しなくっ茶！クッキーの販売

●企画：多摩ボランティアセンター学生スタッフ（チームたまモン）

●協力：お茶の富澤（熊本：茶葉）
カトウファーム（相原：苗）
社会福祉法人相田ゆめの工房（相原：クッキー製造）
桜美林大学　3 年　坂田明さん（ラベルデザイン）

●販売：認定 NPO 法人やまぼうし　Slow World Café

2．参加者数

5 名

3．背景・目的

・学生が主導して、被災地と相原地域を結ぶ。
・熊本の状況を多くの人に知ってもらう。

4．参加者の感想

「とてもかわいく包装がしてあってびっくりしました！ 被災地支援とはいえ、きちんと商品として売れるものでないと、人に買ってもらうのは難しいのだなと気づくことができました。このクッキーを買うことで、熊本地震を思い出してもらえたら嬉しいです。」（社会学部 3 年　田野崎友里）

「なかなか思い通りにいかないことも多く、自分にとって良い経験になりました。」（現代福祉学部 2 年　富所美羽）

「無事 120 個完売して安心しました。このクッキーが熊本の事を思い出すきっかけとなれば嬉しいです。」（現代福祉学部 2 年　橋本空）

クッキーのラベルは、桜美林大学の
坂田明さんにデザインしていただきました

たくさんの方にお買い上げいただきました

②　第二清風園イベント支援

日時：2018 年 5 月 20 日（日）　13：00〜16：30
場所：社会福祉法人賛育会第二清風園

概要：

1．内容

町田市にある複合型福祉施設、社会福祉法人賛育会第二清風園内にて、100 周年記念フェスタの開催イベントのお手伝いをさせて頂いた。

学生たちは、イス並べや利用者・地域の方のご案内、話し相手を主に担当し、イベントの補助スタッフを行った。

2．参加者数

7 名

3．背景・目的

・介護老人福祉施設でのボランティアを体験し、関心を深めてもらう。
・自身の特技をいかしたボランティア活動を行う。

4．参加者の感想

「1 年生は法人の雰囲気等がわかったと思うので、今後も継続的に参加してくれるとありがたいです。自分から仕事を見つけるなど、テキパキと動いてくれていたのが印象的でした。」（現代福祉学部 3 年　千田佳奈）

「自分より小さい子供を相手にすることがしばらくなかったので、楽しく、また勉強になりました。施設の方も優しく指示を出してくださり、良い雰囲気の中でお手伝いさせていただきました。是非また参加したいです。」（社会学部 1 年　小平奈美）

「初めてのボランティアで大変そうなイメージがありました。しかし、思っているより取り組みやすくて楽しいことだとイメージが変わりました。今回ボランティアをやっているという感覚より、自分を楽しみながらお手伝いをしている感覚でした。もっと参加したいです。具体的に指示をしてもらうのを待たず、もっと動けたら良かったと思います。」（社会学部 1 年　梶原綾乃）

実りある活動ができました

③　はるかのひまわり絆プロジェクト IN 多摩キャンパス

日時：2018 年 5 月 23 日（水）～ 10 月 9 日（火）
場所：法政大学多摩キャンパス正門横

概要：

１．内容

阪神大震災由来のひまわりの種「はるかのひまわり」を育て、命の尊さや被災地復興について考える、「はるかのひまわり絆プロジェクト」に参加。多摩キャンパスで育成した。無事開花し、多くの種を収穫することができた。収穫した種は、2/9（土）の第 5 回大学生ボランティア写真展&イベントにて、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」購入者に配付した。

２．参加者数

日程	参加者数	日程	参加者数
5 月 23 日（水）	8 名	7 月 11 日（水）	3 名
5 月 30 日（水）	6 名	10 月 9 日（火）	3 人
6 月 8 日（金）	6 名		

３．背景・目的

・被災地域と連動したボランティア企画の実施。
・復興を願う象徴であるひまわりをキャンパス内に咲かせ、震災や命の尊さについて考える機会を提供する。

４．参加者の感想

(5/23)

「熊本プロジェクトが主となり活動を行っていたが、中にはわざわざ参加してくれたボランティアセンターの方もおり、とても助かりました。今後はプロジェクト関係なく多くの方にも参加してほしいと思います。」（経済学部 1 年　小森滉太）

「チームたまモンの企画の一つとして、取り組ませていただいているひまわりの種まきですが、たまモン以外のボランティアセンターの方が参加してくださったことがとてもうれしかったです。」（経済学部 1 年　石井彰吾）

「最後までできませんでしたが、久しぶり土を掘るなどの作業ができて楽しかった。時間がある時また参加したい。」（社会学部 1 年　豊満祐希）

「土いじりは中学生以来だったので楽しかったです。水曜日の午前中は空いているのでまた参加したいです」（現代福祉学部 1 年　清水一希）

「チームたまモンだけでなく、他の学生スタッフとも一緒に活動ができ嬉しく思います。発芽するのが楽しみです！」（現代福祉学部 2 年　富所美羽）

(6/8)

「ボランティアを兼ねてひまわりを育てることができるのでリフレッシュにもなり、楽しかったです。これから成長していくひまわりを見るのが楽しみです。梅雨入りしたのに今日は晴れて良かったです。」（現代福祉学部 2 年　橋本空）

「思ったより多くのひまわりが芽を出していてうれしかった。今日植え替えを行ったので、今後の成長がとても楽し

みです。」（経済学部１年　石井彰吾）

「汗水流し、とてもやりがいのある活動でした。早くひまわりが咲き、多くの人にもこのプロジェクトを知ってもらいたいと思います。」（経済学部１年　小森滉太）

「これから咲くだろうひまわりの芽を植えるのは非常に心おどる作業だった。これからも手入れを欠かさずにしっかりと咲かせたい。」（社会学部３年　鈴木史哉）

（7/11）

「今日は最初日差しが照り付けて暑かったですが、途中から雨が降り出しやりやすかったです。ひまわりの生育が良い所は、雑草の生育も良く抜くのが余計に大変でした。また、生えてくると思うと辛いですが、とりあえず水やりが楽になって良かったです。良かったです。「（現代福祉学部１年　海老沢真由）

「雑草取りは正直大変でしたが、週に１回でもやっておけば楽になったと思う。日々の積み重ねの大切さを知った。」（社会学部１年　秋山颯人）

「雑草なのかひまわりなのか分からないくらい雑草が生えててびっくりしました。定期的に抜いたほうがいいかもしれません。間引きのタイミングも難しいですね。支柱で安定してくれたら嬉しいです。成長を願ってます。」（現代福祉学部２年　橋本空）

（活動総括）

「昨年度から続けている活動なので、本年度も無事に咲いて嬉しかったです。ボランティア活動をしていない学生から『今年も咲いたね！』と声をかけてもらったりと、輪を広げるという活動の意義を実感することができました。」（現代福祉学部２年　富所美羽）

土を耕し、種まきの準備（5/23）

ポットに種まき（5/30）

ポットで生育したものを植え替え（6/8）

草むしりを行いました（7/11）

無事開花しました（8/21）

種を収穫し、片づけました（10/9）

④　八木重吉記念館清掃ボランティア

日時：2018年5月30日（水）13：00〜13：30 / 6月27日（水）13：00〜13：30 / 10月22日（月）13：00〜13：30
11月19日（月）13：00〜13：30 / 12月14日（金）13：00〜13：30

場所：八木重吉記念館

概要：

1．内容

相原出身の詩人、八木重吉さんの生家である八木重吉記念館周辺の清掃を行った。参加学生はゴミ拾い、除草作業を行い、終了後は八木重吉さんご一家の墓前にて合掌した。

2．参加者数

日程	参加者数	日程	参加者数
5月30日（水）	4名	11月19日（月）	5名
6月27日（水）	5名	12月14日（金）	4名
10月22日（月）	4名		

3．背景・目的

・大学周辺にゆかりのある文化人の足跡を訪ね、継続的なボランティア活動につなげる。
・相原地域の文化的、歴史的に重要な史跡の環境整備。

4．参加者の感想

「石の下にも落ち葉がつまっていたので、意外と大変だった。今度は表面だけではなく下まできれいにしたい。清掃することで、八木さんを輝かせ、現代での存在感を保てると思った。次は記念館や本人について知った上で参加したい。」（社会学部1年　梶原綾乃）

「昼休みに催されるという事で非常に気軽に参加できた。このような気軽に行えるボランティア活動があればより多くの人に参加してもらえるのではないかと思った。」（社会学部3年　鈴木史哉）

「短い時間の中でわずかなことしかできませんでしたが、およそ袋1個分の雑草をぬいたり、花を植えたりして、終わった時には僅かな達成感や少しでも人の役にたてたことへの喜びを感じることができました。ありがとうございました。」（現代福祉学部1年　根本佳奈）

「このボランティアに参加して、相原に八木重吉という詩人がいたことを知りました。こんな近くに記念館があるとは知らなかったので新たな発見でした。お墓がきれいになると心もすがすがしい気分になるので参加して良かったです。」（現代福祉学部1年　小野汐梨）

「空いている時間に清掃のお手伝いが出来て嬉しかったです。ぜひまた参加させていただきたいと思いました！ 気軽に参加できるボランティア活動はとてもありがたいです。」（現代福祉学部1年　安藤千沙）

参加学生による清掃活動（5/30）

多くの学生が参加しました（6/27）

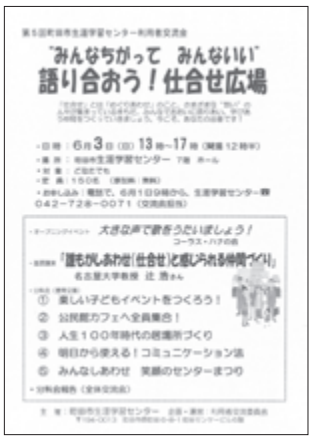
命日の茶の花忌（10/26）前に花を植えました（10/22）

沢山の落葉がありました（11/19）

今後も継続して実施する予定です（12/14）

⑤　町田市生涯学習センター利用者交流会

日時：2018 年 6 月 3 日（日）13：00〜17：00
場所：町田市生涯学習センター



概要：

1．内容

町田市生涯学習センターの利用者交流会にて、学生スタッフが分科会「明日から使える！コミュニケーション法」を企画・運営。利用者の方たちと交流した。

2．参加者数

7 名

3．背景・目的

・町田市で開催されるイベントに参加することによって、学生と地域の交流を目指す。
・世代間交流や世代間コミュニケーションについて考える。

4．参加者の感想

「色々、不安なこともありましたが、無事に終えられて良かったです。初めて会った地域の方も多く、楽しみながら交流できたので嬉しかったです。」（現代福祉学部 3 年　鈴木琴音　【企画担当】）

「予定よりも多くの方にご参加いただき、楽しんでいただけて嬉しかったです。皆さんとの交流は私にとってもとても勉強になったので、今後に生かしたいと思います。」（現代福祉学部 2 年　橋本空　【企画担当】）

「最初はかなり緊張したが、用意していただいたゲームやアイスブレイクが面白くて緊張がやわらぎ、楽しく会話することができた。来て良かったと思った。」（現代福祉学部 1 年　宮下なつ）

「自分自身も楽しみながら地域の方々と交流できたのでよかった。地域の方に「学生と意見交換できてよかった」と言ってもらえてうれしかった。」（現代福祉学部 2 年　石川綺音）

オープニングにも登壇

地域の方と交流しました

⑥　-相原 11 地区協議会大学連携事業-　第 4 回地域交流会「竹カフェ」

日時：2018 年 6 月 23 日（土）14：00～16：00
場所：多摩キャンパス EGG DOME 2 階　Slow World Café

第4回 竹カフェのご案内

概要：

1．内容

日頃お世話になっている相原地域の方々をお招きし、「相原」の魅力について語り合った。今回は地域と学生のコミュニケーション、そして「居場所づくり」をテーマにし、地域の方々に居場所を提供している団体「スターキッズ」と、「スターキッズ」でカフェ企画を実施している地域系サークル「ふなで」の方々にインタビューを行った。また、参加者全員に「自分にとっての居場所とは」というテーマで、それぞれにとっての「居場所」を発表してもらった。

2．参加者数

13 名

3．背景・目的

・地域の方々との交流を深める。
・相原地域の魅力を改めて発見し、それをどのように発信し、他団体と連携していくかについて考える。

4．参加者の感想

「自分は地元で生まれてこの地方で育ってきて生活をしてきたが、実際地域の人と話すという機会は 1 度も無かった。今回居場所ということがテーマであったが、地域の人々と地域について話すことは刺激的であり、まさに貴重な居場所を体験できた。次回も参加したい。」（現代福祉学部 1 年　坂本真悟）

「企画から関わらせていただき、とてもやりがいがありました。企画の段階ではテーマが決まらずに詰まった場面もありましたが、先輩方と一緒に考える機会は有意義でした。本番では司会を担当させていただき、グループ内の方から『次回来た時の成長ぶりを見るのが楽しみ！』と言っていただけたことがうれしく、励みになりました。改めて、地域の方と交流することのできる素晴らしいイベントだと思いました。」（社会学部 1 年　吉井妙英）

「普段、なかなかこんなにしっかり地域住民の方と交流する機会がないため、とても良い機会だった。また、その方たちがどういった活動をされているのかも知れたのでいい経験になった。」（社会学部 1 年　浅沼和崇）

「入学して 2 か月しか経っていなくて、こちらの地域の方々と関わることがなかったので、今回たくさんの地元の方々とお話しする機会があって嬉しかったです。また地域で行われている様々な活動を知るきっかけになって良かったです。」（社会学部 1 年　吉田佳穂）

「前回同様たくさんの相原地区（町田市）の方に来ていただけたのがうれしかった。自己紹介から、初対面の方もいらっしゃったにも関わらず、各グループの雰囲気が良かった。内容が住民の方にも伝わりやすかったのが今回の雰囲気につながったのではないかと思う。課題としては、居場所をテーマとした回だったが、グループで居場所について語り合ったり、学生が考える居場所を伝えられる時間が少なかったので、次回はテーマに沿った話し合いがもっとできればより有意義な時間を過ごしていただけるのではと思う。」（現代福祉学部 3 年　千田佳奈）

「お足元の悪い中、たくさんの方にご参加いただき、とても嬉しかったです。私にとって、改めて地域と関わることについて考えるきっかけになりました。今回頂いた意見や感想をもとに、また次回に向けて色んな視点で取り組んでいきたいと思います。スターキッズの武者さん、ふなでの皆さん、そしてご来場くださった皆さま、ありがとうございました。」（現代福祉学部２年　橋本空）

「今回の竹カフェは、地域の皆様のご参加が多く、とても嬉しかったです。本番を迎えるまで、不安でいっぱいでしたが、無事に終えられることができ、良かったです。来てくださった地域の方、初めて参加してくれた新入生からも『良かった』や『楽しかった』という声を頂けたので嬉しかったです。今回頂いた意見をしっかり受け止め、次回へ向けて頑張りたいです。」（現代福祉学部３年　鈴木琴音）

学生スタッフによる司会進行

地域サークル「ふなで」の皆さんによる活動報告

スターキッズの代表の方にお話を伺いました

学生を含め 37 名が参加しました

⑦　ヴィラ町田傾聴ボランティア＆Voice of Winds 演奏会

日時：2018 年 6 月 30 日（土）14：00～16：00
場所：介護老人福祉施設ヴィラ町田

概要：

１．内容

介護老人福祉施設「ヴィラ町田」で吹奏楽サークル「Voice of Winds」のメンバー21 名による演奏会と、学生ボランティア 5 名による傾聴ボランティアを行った。

２．参加者数

26 名

３．背景・目的

・介護老人福祉施設でのボランティアを体験し、関心を深めてもらう。
・自身の特技をいかしたボランティア活動を行う。

４．参加者の感想

「私は、カメラ係とイスの運搬、利用者様の移動のお手伝い、少し傾聴をさせていただきました。傾聴が思ったよりも難しくて、話題を探すのが大変でした。さまざまな高齢者の方と接する機会はめったにないので貴重な体験ができてよかったです。次回はもう少し気を利かせて動けるようにしたいです。」（現代福祉学部 1 年　古沢公実）

「他団体と協力してボランティアをするのは初めてだったので、良い経験になりました。次もあったらやりたいと思いました。」（現代福祉学部 1 年　菊地映梨香）

Voice of Winds による演奏会

全 4 曲を披露しました

⑧　堺市民センター祭り

日時：2018 年 6 月 30 日（土）-7 月 1 日（日）　10：00〜16：00
場所：堺市民センター

概要：

1．内容

相原駅近くにある堺市民センターで開催された「第 33 回堺市民センターまつり」にて、熊本支援を広める活動を地域の方に知ってもらう為、ゆめ工房さんとのコラボ商品「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売を行った。

2．参加者数

12 名

3．背景・目的

・地域に密着したボランティア活動を行う。
・市民、行政、地域との交流をはかる。

4．参加者の感想

「地域の方と触れ合って、お話をしたりクッキーの販売やゆめ工房さんのパウンドケーキなどの販売を通じて色々な方と交流が出来てとても良かった。また参加したい。」（社会学部 1 年　浅沼和崇）

「最初はなかなかクッキーが売れなくて不安だったが、小学生が友達に広めてくれたりして完売できたので良かった。ゆめ工房さんの販売のお手伝いをできたのがとても楽しかった（こちらも完売できて嬉しかった!!）。」（現代福祉学部 1 年　渡邉萌香）

「初めてチーム熊本を飛び出してのボランティアでしたが、地域の方々との交流ができ、良い経験になりました。これからの活動に活かしていけたらと思います。」（経済学部 1 年　石井彰悟）

「全員で協力して 1 時前に完売させることができたので良かったです。熊本での支援に繋がりますと言ったら、ほとんどの人が買って下さったので、地域の方々の温かさを感じることができました。ゆめ工房さんのお手伝いをしたことで、いろいろな方々とお話しする機会があったので、来て良かったと思いました。来年も参加できるといいです。」（社会学部 1 年　吉田佳穂）

試食を提供するなど工夫をこらして販売

2 日間で無事完売しました

⑨　町田市立ゆくのき学園大戸小学校児童来訪

日時：2018年7月6日（金）11：00～12：30
場所：多摩キャンパス　EGG DOME 2階　ボランティアセンター

概要：

1.内容

ゆくのき学園大戸小学校の児童ら5名が、「まちをたんけん　大はっけん」という授業の一環で法政大学に来訪。ボランティアセンターにて学生スタッフが概要説明を行い、質問などに対応した後、キャンパス内の各所を案内した。

2．参加者数

1名

3．背景・目的

・児童らの学習の手助けをする。
・児童らに、ゆくのき学園と法政大学のつながりを知ってもらう。

4．参加者の感想

「小学生を相手に法政大学について説明するのは正直大変でした。活動を通して、難しい内容や言葉をどのように噛み砕いて説明すればいいのかと相手の立場に立つことの大切さを再確認できました。今後のボランティアにも活かしていきたいと思います。」（経済学部1年　小森滉太）

学生スタッフが子どもたちの質問に答えました

キャンパス内を案内しました

⑩　ヴィラ町田夏祭りボランティア

日時：2018年8月5日（日）　11：00〜15：00
場所：介護老人福祉施設ヴィラ町田

概要：

1．内容

介護老人福祉施設ヴィラ町田にて開催される夏祭りの運営を支援した。会場の設営や出店の運営補助を行い、利用者や地域の方と交流した。

2．参加者数

14名

3．背景・目的

・異世代との交流を通じたボランティアの実践。
・ボランティア先として日頃お世話になっているヴィラ町田の活動を支援する。

4．参加者の感想

「暑い中たくさんの方が来てくださり、皆さますごく楽しそうで私も元気をいただくことができました。小さいお子さまも利用者さんも幅広い方が参加していて、良いイベントだなと感じました。参加して良かったです。」（現代福祉学部3年　鈴木琴音）

「この日はかなり暑かったが、担当者様のご好意により学生の殆どは室内でのボランティアとなった。私が担当したのはアイスやジュースの販売だったので、あまり利用者やその家族と長い時間接するという機会はなかった。しかし介護士の方の活躍を目の前で見ることが出来、貴重な経験となった。」（現代福祉学部1年　宮下なつ）

出店のお手伝いをしました

利用者の方やそのご家族でにぎわいました

⑪　熊本支援ボランティア第１次隊/第２次隊

日時：2018年8月20日（月）～ 8月23日（木）
　　2019年2月16日（土）～ 2月18日（月）
場所：熊本県上益城郡益城町

概要：

１．内容

Gakuvo（日本財団学生ボランティアセンター）協働プログラムの一環として、熊本県上益城郡益城町にて、学生スタッフ「チームたまモン」が支援活動を行った。

第1次隊（8月20日-23日）は、製茶工場を訪問し、熊本城見学。その後、木山仮設団地にて、流しそうめんとかき氷のイベントを企画・実施し、熊本保健科学大学の学生とともに子ども向けの工作を行った。また、高齢者と茶話会を行った。

第2次隊（2019年2月16日-18日）では、木山仮設団地にて熊本保健科学大学の学生とともに子供向け支援として、お団子とたこ焼き作り、スーパーボール作りを行った。また、益城町の社協さんや木山仮設団地の自治会長さんから現状のお話を伺った。

２．参加者数

日程	参加者数
8月20日（月）～ 8月23日（木）	6名
2月16日（土）～ 2月18日（月）	5名

３．背景・目的

・熊本地震被災地の支援。
・他大学との連携したボランティアの実践。

４．参加者の感想

「子どもたちが『あのときのお姉ちゃんでしょ！　覚えてる？』と声をかけてくれ、法政大学として、個人として益城町との絆ができてきていると実感することができ、とても嬉しかった。」（現代福祉学部3年　富所美羽）

「1日十数人の子どもが集まり、学生スタッフ5人で対処するのは中々のハードワークであった。しかし以前よりも子どもたちは落ち着いたように思われ、中には進んでお手伝いをしてくれる子もおり、また保護者のお力添えもあって企画はおおかた成功であった。子どもたちは普段できないような団子づくり等を通して常に楽しそうであったため、目的は果たせたと思う。

社協さんからは震災当初から今に至るまでのお話を伺った。今後、公営住宅への移行や仮設の集約が行われるとのことで、大きな変化があることが分かったが、どのようになるかは確実に把握することは難しいようだ。自治会長さんからは現在の西自治会についてのお話が主であった。自治会によって全く雰囲気が異なることや、高齢者の割合が高まる一方であることが印象的であった。」（経済学部1年　小森滉太）

熊本保健科学大学の皆さんと打合せ（一次隊）

子どもたちと流しそうめんをしました（一次隊）

子どもたちとかき氷を楽しみました（一次隊）

子どもたちとお団子作りをしました（二次隊）

外遊びを楽しみました（二次隊）

自治会長さんに益城町の現状を伺いました（二次隊）

⑫　宮城県被災地ボランティア～気仙沼でつながらNIGHT～

日時：2018年9月8日（土）～ 9月9日（日）
場所：宮城県気仙沼市

概要：

１．内容

気仙沼市内で開かれた第7回大谷海岸花火まつり支援をメインに、被災地域の見学やレクチャー、被災地復興の実情と気仙沼市の文化について学習した。

２．参加者数

8名

３．背景・目的

・被災地のニーズに基づいた活動を計画、実施。
・被災地への継続的な支援。

４．参加者の感想

「大谷海岸花火大会ボランティアに参加して3回目の参加です。1年生のころから参加する中で、今回現地に行き大谷海岸や気仙沼市内の風景が大きく変わっていたことに衝撃を受けました。気仙沼市街地に新しく建物が建てられると同時に大谷海岸も防潮堤の工事が進んでいました。花火大会実行委員長の三浦さんからは『大谷海岸地区の方々の中から様々な意見が出た中で、防潮堤を作ることになったが、地区の団結を象徴する花火大会は残したい』というお話を聞く中で、総勢1000人近くの地区の方などがお越しになる様子を見ました。
その中で、復興に努めながらも更に地域と気仙沼を盛り上げていく方々を支える支援ができたことにやりがいを感じました。来年もまた気仙沼の復興と大谷海岸の振興に地域ボランティアとして携わりたいと考えています。」
（現代福祉学部3年　恩田祐希）

「まずは率直に、今年でこの活動が4年目を迎え、ここまで活動を支えてきてくれた方々と受け継いでくれた後輩たちに感謝の気持ちでいっぱいになりました。個人的には、こんなにも継続することができるとは考えていなかったため、毎年変わっていくものや変わらないものを4年間かけて見たり感じたりすることができ、活動を継続することの重要性や継続したからこそ得られるものがあるという事を知りました。この活動は『大学生だから出来ること』を大きな軸と考え、始めた活動でした。瓦礫の撤去や支援物資の振り分けなどは、大人になってからでもできます。もしかしたら震災ボランティアにおいて一番必要とされることはこれらのことかもしれません。しかしこの大谷海岸花火大会ボランティアという地域のコミュニティに入り、一緒に楽しんだり、周りを見て臨機応変に行動できるのは、子どもでも大人でもない私たち『大学生』だからできることだと強く感じています。」（社会学部4年　武藤花織理）

会場設営

駐車場の誘導

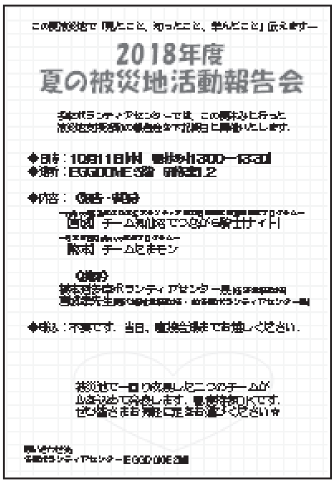
現地の取材を受けました

充実した活動ができました

⑬　夏の被災地ボランティア活動報告会

日時：2018年10月11日（木）　13：00〜13：30

場所：多摩キャンパス　EGG DOME 5階　研修室1.2



概要：

1．内容

被災地支援をしている学生スタッフ「チーム気仙沼でつながら騎士」「チームたまモン」の2団体が、夏休み期間中の活動について、成果や今後の課題を含め報告を行い、先生方に講評を行っていただいた。

2．参加者数

21名

3．背景・目的

・気仙沼、熊本それぞれの被災地支援活動について知る。

・意見交換や講評をふまえ、今後の活動にいかす。

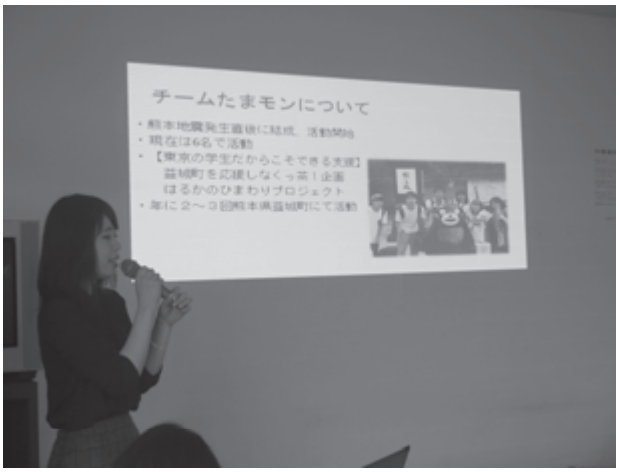
4．参加者の感想

「仮設住宅に住んでいる方々のストレスを発散することのできるとてもいい活動だなと思いました。また、仮設住宅から退去された方々の支援もお願いされたということで、とてもすばらしいなと思いました。」（現代福祉学部1年　古沢公実）

「発表姿勢が慣れている感じでとても良いと思いました。」（現代福祉学部1年　岡崎ひばり）

「活動の写真が多くあり、様子が分かりやすかったです。」（現代福祉学部3年　鈴木琴音）

「チーム気仙沼でつながら騎士」の報告



「チームたまモン」の報告

橋本多摩ボランティアセンター長による講評

現代福祉学部教授の宮城先生にもお話いただきました

⑭　第 71 回自主法政祭多摩地区

日時：2018 年 10 月 20 日（土）　9：00〜13：00
場所：多摩キャンパス　経済学部棟 3 階　321 教室

概要：

1．内容

多摩キャンパスの学園祭にて、学生スタッフ「チームたまモン」考案の、ゆめ工房（相原町）とお茶の富澤（益城町）コラボ「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売と、同チームが今年度実施した熊本県益城町での活動紹介パネル展示を行った。

2．参加者数

7 名

3．背景・目的

・学生が主導して、被災地と相原地域を結ぶ。
・熊本の状況を多くの人に知ってもらう。

4．参加者の感想

「学園祭での販売は屋内と屋外での移動販売と 2 つありました。屋内の販売では建物の 3 階で、人の出入りが芳しくありませんでしたが、その分来ていただいた人は私たちの活動に興味をもたれ、質問をして帰られる方ばかりでした。屋外での販売は不特定多数の方に『熊本県益城町』という名前を伝える事が出来たと思います。どちらの販売も私たちの活動において意義のあるものになりました。」（現代福祉学部 1 年　海老沢真由）

「大学生から地域の方まで幅広い世代に、活動について興味を持っていただくことができました。実際に地震の被害を受けた方のお話もたまたま聞くことができ、貴重な機会になりました。」（現代福祉学部 2 年　富所美羽）

経済学部棟 3 階にて販売

100 袋があっという間に完売しました

⑮　ひなた村子どもチャレンジフェスティバル作戦

日時：2018 年 10 月 21 日（日）　8：30〜16：30
場所：青少年施設ひなた村

概要：

1．内容

町田市制 60 周年を記念したイベント「町田市政 60 周年〇ごと大作戦 2018」の一つである「ひなた村子どもチャレンジフェスティバル作戦」に参加。メイン企画である「たまご落とし」の運営補助と、子どもを対象とした「しっぽとり」ゲームを学生スタッフ自ら考案、実施した。

2．参加者数

6 名

3．背景・目的

・本学と町田市のつながりを深める。
・子どもを対象としたイベントの企画、運営について体験する。

4．参加者の感想

「子どもたちの工作の見守り、しっぽとりゲーム運営を主にさせて頂きました。子どもたちの工夫した工作や、しっぽとりなどのイベントでの元気な姿を見て、私も元気になれたような気がします。参加している方が、楽しそうにしていて、私も楽しみながらボランティアに参加することができました。」（現代福祉学部 3 年　鈴木琴音）

「午前中は子ども達がたまご落としの機体をつくるのを見守っていました。親子で参加している家庭が多くて、こういう機会はとても貴重だと思いました。私達の企画したしっぽとりゲームも沢山の子ども達が参加してくれてよかったです。100 人くらいの人の前で話したことを含めて良い経験になりました。」（現代福祉学部 1 年　海老沢真由）

イベントブースのお手伝い

学生スタッフ企画の「しっぽとりゲーム」

⑯　第二清風園ハロウィンフェスティバル

日時：2018 年 10 月 28 日（日）　10：00～15：00
場所：社会福祉法人賛育会第二清風園

概要：

１．内容

町田市にある複合型福祉施設、社会福祉法人賛育会第二清風園内にて、ハロウィン祭りのお手伝いをさせて頂いた。

参加学生は出店のお手伝いを行い、アカペラサークルの「はもるぷ」が合唱を披露した。

２．参加者数

15 名

３．背景・目的

・介護老人福祉施設でのボランティアを体験し、関心を深めてもらう。
・自身の特技をいかしたボランティア活動を行う。

４．参加者の感想

「ずっとボランティアに参加してみたかったので、出来て良かった。何か自分が誰かの助けに少しでもなっていたら、光栄です。今後もいろんなボランティアに参加したいと思います。今回は幅広い年齢層の方と交流が出来て、良い時間を過ごせました。」（経済学部２年　中山香澄）

「いろいろな人とボランティアを通して関われたり、新たな発見が出来たりしてとても楽しかったです。ぜひまた掲示板などで探して参加したいと思います。」（経済学部２年　相原佑美）

みんなで仮装をしました

「はもるぷ」による合唱

⑰　第 12 回市民協働フェスティバル　まちカフェ！

日時：2018 年 12 月 2 日（日）　10：00〜16：00
場所：町田市役所 2 階

概要：

1．内容

町田市を中心に活動する団体が一堂に会するイベントに参加。学生スタッフが行う熊本支援活動を地域の方に知ってもらう為、「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」と「かぶせ茶プリン」の販売を行い、クッキー200 個、プリン 120 個を完売した。

また、町田市からの依頼で学生スタッフが子供向けワークショップを企画・運営した。

2．参加者数

12 名

3．背景・目的

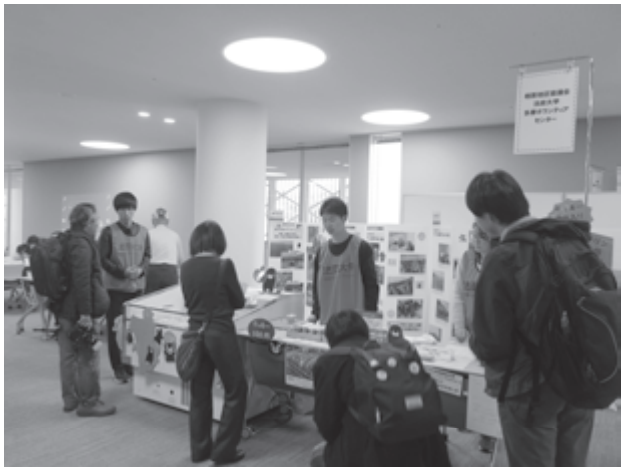
・地域に密着したボランティア活動を行う。
・市民、行政、地域との交流をはかる。

4．参加者の感想

「普段、小学生以下の子どもと接する機会がなく、コミュニケーションを取るのに非常に苦労した。だが、参加した子どもは皆楽しんでもらえたように思うので、達成感を得られた。」（社会学部 3 年　鈴木史哉）

「今回販売と親子向けワークショップの企画を行いましたが、ここまで幅広い世代の方とお話しする機会は大変貴重だと思います。2 つの企画がどうなるか不安な気持ちもありましたが、無事に終わって良かったです。」（現代福祉学部 2 年　橋本空）

「熊本産の茶葉を使ったクッキーとプリンの販売を行いました。販売を通して、熊本支援の一助となれたことを嬉しく思うと同時に、もっと熊本地震を思い出すきっかけづくりをしていきたいと思いました。」（経済学部 1 年　小森滉太）


応援しなくっ茶！クッキーとプリンの販売

子ども向けワークショップの企画・運営を行いました

⑱ -相原 11 地区協議会大学連携事業- 第 5 回地域交流会「竹カフェ」

日時：2018 年 12 月 8 日（土）13：30～16：00
場所：多摩キャンパス EGG DOME 2 階　Slow World Café

概要：

1. 内容

日頃お世話になっている相原地域の方々をお招きし、「相原」の魅力について語り合った。第 5 回という節目を迎えた今回は、第 1 回から第 4 回までの振り返り企画を実施。メイン企画として経済の仕組みを疑似的に体験できるワークショップ「貿易ゲーム」を、相原の名産である竹を用いた相原バージョンで行った。

2. 参加者数

11 名

3. 背景･目的

・地域の方々との交流を深める。
・相原地域の魅力を改めて発見し、それをどのように発信し、他団体と連携していくかについて考える。

4. 参加者の感想

「初対面の方との交流で最初は緊張したが、楽しい時間を過ごすことが出来た。自己紹介などより、貿易ゲームで交流する方がすぐに親しめると思った。相原地域の方々のご理解、ご協力のもとで大学が成り立っているのだと実感した。」（社会学部 1 年　豊満祐希）

「自然と参加者の方と話ができるような場の空気感がすばらしかった。貿易ゲームの中に、よりほかの国と貿易をさせるようなシステムがあるとより面白かったかもしれないな、と思う。」（現代福祉学部 2 年　林菜々子）

「最初はしっかりと話せるかなと思いましたが、心配する間もなく、楽しい雰囲気になったのでとても良かったです。得るものが大きかったです。」（現代福祉学部 1 年　尾池厚輝）

5 回目の開催となりました

「貿易ゲーム」で盛り上がりました

⑲　学生ボランティア 2018 年度活動報告会

日時：2018 年 12 月 21 日（金）　15：35〜17：15
場所：多摩キャンパス　EGG DOME 5 階　研修室 1.2

HOSEI University

学生ボランティア 2018 年度活動報告会プログラム

概要:

1. 内容

多摩キャンパスではサークルやグループが多種多様なボランティア活動に取り組んでいる。報告会では、「地域にスマイルを届けよう活動助成金」採用団体を含む 6 団体が活動内容、学んだことについて報告を行った。

2. 参加者数

11 名

3. 背景･目的

・日頃の活動を通して学んだことを発表し、振り返りの場とする。
・各自の活動に対する評価と助言を受け、今後の活動にいかす。

4. 参加者の感想

「宮城出身なので、東京の学生の方が震災から 7 年以上たってもボランティアをしているというのが嬉しかった。」（社会学部 3 年　工藤幹也）

「2 か月に 1 回被災地訪問をされているということを聞き、強い思いがなければそれほどこまめに活動することは大変だと思うので、とても素晴らしいと思いました。」（社会学部 1 年　吉井妙英）

「友達が所属していて、2 か月に 1 回は被災地に行くなど、とても活動的なのが印象的だった。それだけでなく、今年から相原でも活動していくなど、離れたところからの支援や自分自身の防災意識を高めたりしていて、本当にすごいなあと思った。これからも無理なく頑張ってください。応援しています。」（現代福祉学部 1 年　宮下なつ）

学生による活動発表

終了後、参加者全員で記念撮影

⑳　東京医科大学八王子医療センター緊急医療救護所訓練

日時：2019年2月3日（日）　9：00～12：00
場所：東京医科大学八王子医療センター

概要：

1．内容

八王子市にある東京医科大学八王子医療センター内にて緊急医療救護所訓練を行った。学生達はそれぞれ担当を任され、実際に大規模地震の災害が発生した事を想定し、要救護者に対するトリアージや応急処置を実際に体験した。

この救護訓練を通じて、八王子医療センターや他大学との連携を通して、緊急時の連携が取れる体制を協働する事ができた。

2．参加者数

10名

3．背景・目的

・災害に対する知識や技能を身に着ける。
・ボランティアを通じた他大学との交流をはかる。

4．参加者の感想

「今回初めて防災訓練に参加した。緊急を要する現場でいかに冷静に、適切に行動するかが、いかに大変で大切であるかを学ぶ良い機会であった。」（経済学部1年　小森滉太）

「地域の方々とともに、医療や防災に関する専門知識を持つプロのもとで訓練を受けることができ、非常に有意義な経験となった。これをもとに、実際に災害が発生した際には無理のない範囲で自分にできることをやり、現場に力添えできるよう心がけていきたい。」（現代福祉学部1年　渡邉萌香）

「もともと『トリアージ』には興味があったので、楽しい訓練でした。医師や看護師のきびきびした動きが印象的でした。緊急時にも生かせる訓練になったと思います。」（現代福祉学部1年　海老沢真由）

「私は今回の防災訓練において、傷病者の受付・誘導を担当しました。仕事内容自体は、傷病者を適切な場所まで案内するという単純なものでしたが、今回は震災時を想定した場合だったため、焦りや混乱が生じてしまい、的確に仕事をこなすことが難しくとても苦労しました。今回の経験を通して私は、改めて震災時の傷病者の対応の難しさを実感することができました。」（社会学部1年　太田知希）

念入りに打合せを行いました

担当ごとに分かれて訓練を行いました

㉑　第 5 回大学生ボランティア写真展＆イベント

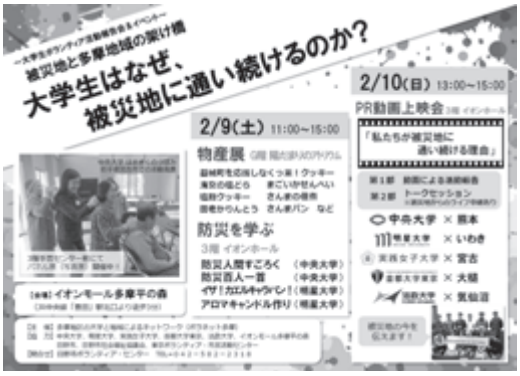
日時 : 2019 年 2 月 6 日（水）～ 2 月 10 日（日）
場所 : イオンモール多摩平の森

概要 :

1．内容

昨年同様、多摩地区 5 大学・行政・社会福祉協議会と合同で、学生の被災地ボランティアについてのパネル展示と活動報告を行った。

2 月 9 日（土）には物産展と防災ワークショップ、2 月 10 日（日）には活動報告会（動画上映会）が開催されたため、これらに参加し、多くの来場者や学生団体と交流した。



2．参加者数

日程	参加者数
2 月 9 日（土）	5 名
2 月 10 日（日）	6 名

3．背景・目的

・ボランティアを通じた他大学との交流。
・他大学の学生の活動を知り、自分たちの今後の活動にいかす。

4．参加者の感想

「今回の活動報告会においてトークセッションに出席しました。東日本大震災からまもなく 8 年になる中で、このイベントを通し私達の活動と現地の方の想いが多摩地域の皆様に伝わったら幸いです。ご協力して頂いた関係者の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。」（現代福祉学部 3 年　恩田祐希）

「1 年生が中心で構成された私たちのチームにとって、他大学の先輩方の『被災地で活動を続ける意義』についてのお話は、新しい学びとなっただけでなく、モチベーションの向上にも繋がったと実感しています。」（社会学部 1 年　児玉務）

「物産展での販売は建物の出入口という場所の為か沢山の人が前を通りましたが、それを目当てで来ている方は少なく、関心を持っていただくことの難しさを感じました。ですが、同じく物産展を担当した中央大学さんと協力することも出来、いつもと違う販売になりました。」（現代福祉学部 1 年　海老沢真由）

5 大学学生による活動パネル展示

益城町を応援しなくっ茶！クッキーを販売しました

被災地で活動する学生たちの報告会

良い交流の場となりました

㉒　たまぴよ　～つくろう！！ひなまつり～

日時：2019年3月3日（日）10：00～11：30
場所：子どもセンターぱお

概要：

1．内容

町田市の子どもセンターぱおにて、子ども対象の工作企画を学生スタッフが考案。幼児17名と保護者11名が参加し、ひなまつりにちなんで紙コップや折り紙など、身近なものを使ったひな人形を制作した。

2．参加者数

5名

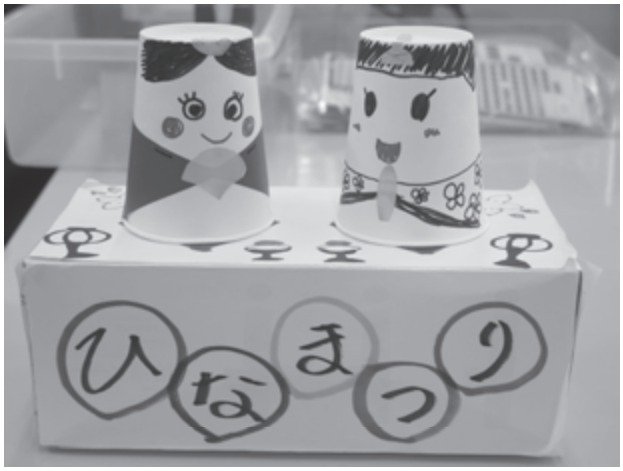
3．背景・目的

・こどもや親に大学生と触れ合い合う事で身近に感じてもらう。
・子どもを対象としたイベントの企画、運営について体験する。

4．参加者の感想

「多摩ボランティアセンター学生スタッフは、今後も、子どもたちを対象にしたボランティア企画を実施予定です。小さな子どもと触れ合うことができ、とても楽しい時間だった。子どもの年齢により必要な対応が違うことを改めて感じたので、今後、同様の活動をする際の参考にしていきたい。」（現代福祉学部1年　渡邉萌香）

「この日は雨だったので多くても5人くらい参加してくださる方がいれば良い方かな、と思った。しかし実際は10人ほど来て下さったのでやった甲斐を感じられ嬉しかった。混雑時は人手不足のように感じたので次は子ども企画のメンバー以外にも協力してもらったほうが良いだろう。ぱおの職員さんからもこれからも是非一緒にやっていただきたいと言っていただけたので、今後も頑張っていきたい。」（現代福祉学部1年　宮下なつ）



紙コップでひな人形を作りました

たくさんの方にご参加いただきました

㉓　あいはらほうとう＆コンサート

日時：2019年3月8日（金）12：00～16：00
場所：大地沢青少年センター3F

概要：

1．内容

あいはら住民福祉協議会主催の行事運営を支援した。

受付や案内、ほうとうの配膳や片付けなどのお手伝いをし、地域の方々と交流を深めた。

2．参加者数

4名

3．背景・目的

・相原地域の方々との交流を深める。
・地域の交流行事の運営補助を行う。

4．参加者の感想

「美味しいほうとうを食べながらご来場の皆さんが楽しんでいる様子が伝わってきて、私もイベントのお手伝いができてよかったなと感じました。また来年もぜひ参加したいです。」（現代福祉学部2年　橋本空）

参加者の皆さんとほうとうを頂きました

津軽三味線やお琴、オカリナの演奏を楽しみました

㉔ -相原 11 地区協議会大学連携事業- 第 6 回地域交流会「竹カフェ椿」

日時：2019 年 3 月 12 日（火）13：30〜15：30
場所：特別養護老人ホーム椿　5F

概要：

1．内容

認知症予防カフェ「カフェ椿」を開催している特別養護老人ホーム椿にて、第 6 回地域交流会を開催した。日頃お世話になっている相原地域の方々のほか、カフェ椿の利用者の方や、東京家政学院大学の方々をお招きし、「理想の最期の迎え方」をテーマにワークショップを行った。

2．参加者数

10 名

3．背景・目的

・地域の方々との交流を深める。
・相原地区で活動している団体とコラボする事でお互いの活動を知り、人と人との出会いや繋がりの場を作る。

4．参加者の感想

「今回はカフェ椿とのコラボということで初めての試みに緊張していましたが、たくさんの方にご来場いただき、また皆様に温かい声をかけていただき本当に嬉しかったです。グループワークもコラボならではのテーマで楽しめたのではないかと思います。今回の課題はまた次回に生かし、来年度もご来場の皆様とのつながりを大切にしながら竹カフェの企画に取り組んでいきたいと思います。」（現代福祉学部 2 年　橋本空）

「初めて椿カフェとコラボしましたが、いつものようにたくさん企画をせず、フリートークを中心に行ったので、初めての方でもリラックスしていつものように参加できていました。次回も楽しみにしてるよと言っていただけたり、新たな出会いがあったりして、とても有意義な時間でした。」（現代福祉学部 3 年　千田佳奈）

「『理想の最期の迎え方』という普段扱いづらそうなテーマでしたが、世代間、男女別などで様々な意見を聞くことができ、参考になりました。これからの生き方について考えるきっかけになるイベントでした。」（社会学部 1 年　吉井妙英）

「今日来てくださった高齢者の方々は年を取るということを恐れていないなと感じる話しぶりだった。これからの人生を考えていくうえで貴重な話を聞けた。」（社会学部 1 年　豊満祐希）

今回はカフェ椿さんで開催

来場者 58 名で大盛況でした

㉕　学生活動報告会【ガクマチ EXPO】

日時：2019 年 3 月 20 日（水）　13：00～16：00
場所：町田市生涯学習センター7F　ホール

概要：

１．内容

「～あなたの一歩が地域（マチ）をつなげる～)」をテーマに、町田・相模原で活動する大学の学生団体が、スライドを用いた活動報告とポスターブースセッション、ワークショップを行った。

本学学生スタッフ 4 名を含め、8 団体が参加した。

２．参加者数

4 名

３．背景・目的

・ボランティアを通じた他大学との交流。
・相原地域で行ってきた活動を学外に向けて発信する。

４．参加者の感想

「パネルディスカッションではパネラーをさせていただき、適度な緊張感のなか自分の思いを伝えられたと思います。ポスターブースセッションでも多くの方にボラセンのブースに来ていただき、お話をすることが出来ました。このつながりを絶やさぬよう、今後も頑張っていきたいと思います。」（現代福祉学部 1 年　海老沢真由）

「今回はパネルディスカッションで司会をさせていただきました。リアルタイムで客席から質問が来るという仕組みのため、司会原稿はなく臨機応変に対応しなければならないというのがとても大変でした。しかし、そんな大変な仕事をなんとかやりきったことで自分の自信に繋がりました。貴重な体験となりました。」（現代福祉学部 1 年　宮下なつ）

ステージでの活動報告

参加団体と交流を深めました

㉖　ゆめ工房まつり

日時：2019年3月23日（土）　10：00〜15：00
場所：町田ゆめ工房

概要：

1．内容

「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の製造でお世話になっていた町田ゆめ工房さんの主催する「ゆめ工房まつり」の運営補助を行った。

参加学生は模擬店の手伝いや利用者の方の見守りを行い、地域の方々と交流した。

2．参加者数

2名

3．背景・目的

・地域の方との交流を深める。
・地域の交流行事の運営補助を行う。

4．参加者の感想

「ゆめ工房さんの玄関先で、野菜販売のお手伝いが主な活動でした。あいにくの天気でしたが沢山の来場者があり、野菜も売り切れ、良かったです。ゆめ工房さんには益城町を応援しなくっ茶！クッキーでお世話になっているので、少しでも役に立つことが出来、嬉しかったです。」（現代福祉学部1年　海老沢真由）

㉗　まちだ〇ごと大作戦−竹あかりの街あいはら−

日時：2019 年 3 月 30 日（土）　18：30〜19：00
場所：相原駅西口駅前広場

概要：

1．内容

相原駅西口駅前広場に、法政大学・東京家政学院大学・東京造形大学・多摩美術大学とともに制作した竹灯籠を展示し、点灯式では司会を担当し、学生代表としての挨拶も行われた。

2．参加者数

6 名

3．背景・目的

・地域の方との交流を深める。
・地域に密着したボランティア活動を行う。

4．参加者の感想

「当日はあいにくの雨でしたが、雨にもかかわらず多くの地域の方が点灯式に来てくださり、とても嬉しかったです。11 月の会議から参加させていただいたこのイベントが、地域の方と一緒に無事に当日を迎えられ、竹あかりが点灯した時は、参加させてもらえてよかったなと心から思いました。地域の方に声をかけていただき、一緒にイベントを作り上げられたことがとても楽しく、今後も活動していきたいと思いました。」（現代福祉学部 3 年　鈴木琴音）

「私も 2 本ほど竹灯籠を作成させていただきましたが、竹は想像以上に分厚くドリルで穴を開けるのも大変でした。それを見かねた地域の方が手伝ってくださったのですが、私の何倍ものスピードで穴を開けてくださってとても感動しました。いつもお世話になっている地域の方をますます尊敬するような素敵なイベントでした。」（現代福祉学部 1 年　宮下なつ）

地域の方と作成しました

とてもいい経験になりました

第４章　小金井ボランティアセンターの活動の概要
小金井ボランティアセンター活動総括

小金井ボランティアセンター長
田村　信幸

小金井ボランティアセンターはボランティア活動を通して学生の成長を促し、同時に社会貢献に寄与するという目的の下で活動を行っている。しかし、理系学部のキャンパスという関係上、所属学生の多くは実験や研究活動に追われて非常に忙しい生活を送っており、キャンパス独自のボランティア活動を行うことが難しいというのが現状である。このため、ボランティア活動を盛り上げるべく事務職員が中心となって尽力しているが、市ヶ谷や多摩に比べると活動が目立っていない。

活動件数や参加人数では他キャンパスに及ばないものの、理系学部の特性やキャンパスの近くに小学校があるという立地を生かした活動を行っている。これらを生かした代表的な活動は、工学展、科学体験教室、研究室公開である。研究室公開は安全管理の関係上中学生以上に限定しているが毎年開催しており、今年も 6 研究室が参加した。また、小学生以下の子供向けに工学展では「科学実験」や「工作教室」を出展し 264 名の参加者を、科学体験教室では「水中シャボン玉」教室などを開催し 380 名もの参加者を集めることができた。これらはいずれもキャンパス内での活動であるが、東小金井駅主催のイベントにも出展している他、老人ホームでのクリスマスコンサートへの参加や農業サークルによる地域農家の手伝いなど、キャンパス外での活動も行っている。

このように少ないながらも活動を行っているが、キャンパス内で実施する場合は地域住民が親子連れで参加しやすい休日に実施しているため、参加人数が多くても在学生の目に触れる機会が少なくボランティア活動の存在があまり周知されていない。しかし、一部は小金井ではなく市ヶ谷のボランティア活動に参加している学生もいるため、決してボランティアに対して消極的ということではない。このため、小金井キャンパスでもこれまで同様に地道な活動を通してボランティアセンターからの情報発信を行うと同時に、引き続きこれらの活動を支援し、学生スタッフを拡充させていきたい。

２０１８年度　小金井キャンパス　ボランティア活動カレンダー（参考）

小金井ボランティアセンターではまだ組織だったボランティアセンター活動が実施できていないため、参考として小金井キャンパスのボランティア活動について報告する。

月日	曜日	イベント・講座・訪問先	概要	参加者数
4 月 22 日	日	nonowa 東小金井「家族の文化祭」参加	JR 東小金井駅主催イベントで、小金井企画実行委員会が「発泡入浴剤つくり」ブース出展（対象：地域住民・子供)。	5 名
6 月 14 日	木	学内献血	日本赤十字社主催の学内献血に工体連が実施協力。	15 名
8 月 4 日	土	nonowa 東小金井「家族の夏祭り」参加	JR 東小金井駅主催イベントで、小金井企画実行委員会が「オリジナル石けんつくり」ブース出展（対象：地域住民・子供)。	5 名
10 月 19 日	金	学内献血	日本赤十字社主催の学内献血に技術連盟が実施協力。	15 名
11 月 2 日～4 日	金～日	工学展	技術連盟が工学展で「科学実験」「工作教室」「紙飛行機教室」を出展（対象：地域住民・子供)。	264 名
11 月 2 日～4 日	金～日	小金井祭での体験教室企画	小金井企画実行委員会が「よく飛ぶ飛行機」「水中シャボン玉」教室を開催（対象：地域住民・子供)。	380 名
11 月 3 日～4 日	土～日	小金井祭での研究室紹介	小金井 3 学部の 6 研究室の研究室見学を開催（対象：中学生以上の地域住民)。 ※参加研究室中、申請した 2 研究室に対し「ボランティア活動・研究公開サポート制度助成」制度を適用。	131 名
12 月中旬	日	老人ホームでのクリスマスコンサート参加	ベネッセメディカルホームくらら東小金井主催クリスマス会に工学部マンドリンクラブが演奏参加。	40 名
3 月 27 日	水	校内タバコ吸殻・ゴミ拾い	小金井 Groovy 有志学生とボランティアセンター小金井職員が校内のタバコ吸殻・ゴミ拾いを実施。	11 名
4 月～11 月		農業サークル「あぐり」による地域農家の手伝い	農業サークル「あぐり」が年間を通じ地域農家の手伝いを実施。	83 名
4 月～3 月		校内タバコ吸殻・ゴミ拾い	ボランティアセンター小金井職員が年間を通じて校内のタバコ吸殻・ゴミ拾いを実施。	1 名

以上

２０１８年度　小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度採択状況（参考）

小金井キャンパスで実施しているボランティア活動・研究公開サポート制度の採択状況について、下記の通り報告する。

記

１．小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度について

本制度は、小金井キャンパスにおける地域貢献を目的としボランティア等の活動を活性化することを目的に、２０１６年度より新設された。

小金井キャンパス周辺地域（小金井市・西東京市・三鷹市・武蔵野市・国分寺市・調布市）を対象としたボランティア活動や小金井祭における地域住民への正課研究の公開を目的とする活動をする小金井キャンパスに在籍する学部生・院生及び登録団体に対し、１回の活動につき１０万円を上限、一団体年間２回まで助成する。企画の実施期間について、申請年度中に活動を実施し、完了することが条件となる。
活動実施１か月前までに申請することが必要で、毎年度１２月上旬を最終受付としている。

２．２０１８年度の応募・採択状況

２０１８年度は３件の応募があり、全件採択された。

団体名	事業名	実施期間	助成額（円）
理工学部機械工学科 吉田研究室	小金井祭研究室紹介 加工計測・機能デザイン研究室の研究紹介活動	１１月４日	100,000
理工学部創生科学科 田中研究室	小金井祭研究室紹介 学際宇宙ゼミナールの研究室紹介	１１月４日	100,000
生命科学部生命機能学科 金子研究室	小金井祭研究室紹介 「細胞レベルで実験したくない!?」	１１月３日	100,000
計			300,000

以上

２０１８年度採択された助成金一覧

●公益財団法人　電通育英会「人材育成活動への助成事業」に採択　（市ヶ谷）

助成活動名：学生による防災啓発活動と東日本大震災

① 福島被災地スタディツアー　⇒報告書は P78 を参照

② 岩手・宮城スタディツアー　⇒報告書は P93 を参照

●一般財団法人　学生サポートセンター「学生ボランティア団体助成事業」に採択　（市ヶ谷）

助成活動分野：被災地支援、防災関連プログラム　⇒助成金表彰式の様子　P87 を参照

●社会福祉法人　千代田区社会福祉協議会「養成事業助成金」に採択（市ヶ谷）

助成活動名：災害救援ボランティア講座　⇒報告書は P39 を参照

●Yahoo!基金　夏休み《学生ボランティア》被災地復興支援活動助成プログラム　（多摩）

助成活動名：宮城県被災地ボランティア～チーム気仙沼でつながら騎士（ナイト）⇒報告書は P120 を参照

メディア掲載～ボランティア学生スタッフの掲載記事

［大学広報誌］

HOSEI（2018 年 6、7 月号 20 頁）

Message　ひとときのつながりを大切に

■東京メトロ飯田橋駅ボランティア

HOSEI（2019 年 3 月号 18 頁）

Message　つなぐ思いとつなげる思い

■「チーム気仙沼でつながら騎士（ナイト）」＜多摩＞

［新聞・情報誌］

・朝日新聞

2019 年 2 月 1 日（金）多摩版

■イオンモール多摩平の森　大学生ボランティア活動報告会＆イベント＜多摩＞

・読売新聞

2018 年 4 月 12 日（木）多摩版

■益城町を応援しなくっ茶！クッキー販売＆熊本活動パネル展＜多摩＞

・読売新聞
2019 年 2 月 17 日（日）熊本版
■熊本被災地支援チームたまモン第 2 次隊
＜多摩＞

・毎日新聞
2018 年 6 月 3 日（日）29 面
郷土かるたで防災学ぶ　千代田区・神保町
全国の 38 点展示（奥野かるた店）
■チーム・オレンジ オリジナル防災カルタ

郷土かるたで防災学ぶ
千代田・神保町 全国の38点展示

毎日新聞 2018 年 6 月 3 日号

2018 年 8 月 24 日（金）22 面
パラスポーツ子どもら歓声～都内各地で体験型イベント
法政大学× SMBC 日興証券
■地域のこどもたちにパラスポーツを知ってもらおう！

毎日新聞 2018 年 8 月 24 日号

・東海新報　第 18301 号
2018 年 8 月 29 日（水）6 面
ボッチャ通じ交流も～法政大の学生ら奉仕活動
（陸前高田）
■東北被災地ボランティアツアー

・岩手日報　2018 年 8 月 27 日（月）23 面
園児と楽しく法政大生交流 陸前高田で奉仕活動
■東北被災地支援ボランティアツアー

園児と楽しく
法政大生交流
陸前高田で奉仕活動
東日本大震災

岩手日報　2018 年 8 月 27 日号

・［東京ボランティア・市民活動情報誌『ネットワーク』］
2018 年 10 月号（25 頁）、12 月号（21 頁）
■「あなたのまちのキラっと☆ぼらせんナビ」＜多摩＞

［テレビ・Web］
・毎日新聞社大学センター Web　2018 年 9 月 4 日（火）
■ふじみわんぱくひろば子供・音楽ボランティア

https://mainichi.jp/univ/articles/20180903/org/00m/100/014000c

・NHK 仙台放送局　ゴジだっちゃ！（全国放送）
2018 年 6 月 28 日（木）17：05 ～ 18：00 内

・NHK 首都圏ネットワーク
2018 年 7 月 5 日（木）（テレビ放映）
■地域のこどもたちにパラスポーツを知ってもらおう！

・毎日新聞デジタル　2018年7月8日（日）（Web）
■地域のこどもたちにパラスポーツを知ってもらおう！

・市ヶ谷経済新聞　2018年7月5日（木）（Web）
https://ichigaya.keizai.biz/
■地域のこどもたちにパラスポーツを知ってもらおう！

・Yahooニュース　2018年7月5日（木）（Web）
https://headlines.yahoo.co.jp/
■地域のこどもたちにパラスポーツを知ってもらおう！

・K-NET(気仙沼ケーブルネットワーク)
2018年9月14日（金）
■気仙沼被災地支援チーム気仙沼つながら騎士（ナイト）<多摩>

・マイナビニュース（Web）2018年6月21日（木）
高齢化社会をにらんだ「サービス介助基礎検定」
■東京メトロ飯田橋駅ボランティア

［スマートニュース］2018年7月5日（木）（Web）
■地域のこどもたちにパラスポーツを知ってもらおう！

ボッチャ通じ交流も
法政大の学生ら奉仕活動
陸前高田

法政大学（東京都）の学生たちでつくる復興支援団体「チーム・オレンジ」は23日までの6日間、陸前高田市内でボランティア活動を行った。震災後、被災地で継続的に活動している団体で、今回はニュースポーツ「ボッチャ」の大会を初めて開催し、住民と交流も深めた。

学生ら約40人が参加。10人ずつの4チームに分かれ、2チームは21～23日に、別の2チームは24～28日に[illegible]地で活動。遠野市の[illegible]NPO法人遠野山・里・暮らしネットワークがコーディネートした。

23日には、高田町の商業施設「アバッセたかた」でボッチャ大会を初開催。ボッチャは、2チームに分かれてボールを的球に向けて投げ、どれだけ近づけられるかを競うニュースポーツ。市民ら20人ほどが学生とともに競技を体験し、楽しいひと時を過ごした。

このほか、今回は市内の保育園や保育所で園庭の草刈りを行ったり、園児たちに読み聞かせを行うなど各施設のニーズに合わせて支援を展開。災害公営住宅も訪れ、ボッチャ大会を行うなど交流を深めた。

学生たちは「地元の方が笑顔で迎えてくださり、温かい気持ちになった」「被災地について知っていたつもりだったが、知らないことばかりだった。現地の課題も学べた」と話していた。

アバッセで初開催したボッチャ大会＝高田町

ループごとに分かれて各ホールを回った。観戦後は交流ゲームも催され、参加者の元気な声が会場に響いた。
結果は後日発表。

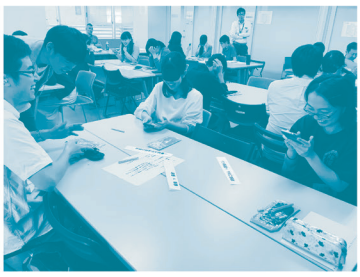
東海新報　2018年8月29日号

2018 年度　法政大学ボランティアセンター 活動報告書

発　行　2019年6月

発行者　法政大学ボランティアセンター
〒102-8160　東京都千代田区富士見 2-17-1
Tel:03-3264-9516　Fax:03-3264-5728
E-mail:ichigaya-vc@hosei.ac.jp

印　刷　HU 学内印刷室



HOSEI University
Volunteer Center

市ヶ谷ボランティアセンター
市ヶ谷キャンパス外濠校舎 1 階
学生センター内
〒102-8160
東京都千代田区富士見 2-17- 1
TEL:03-3264-9516
FAX:03-3264-5728
Mail:ichigaya-vc@hosei.ac.jp

多摩ボランティアセンター
多摩キャンパス EGG DOME 3 階

〒194-0298
東京都町田市相原町 4342
TEL:042-783-2072
FAX:042-783-2074
Mail:tama-vc@hosei.ac.jp

小金井ボランティアセンター
小金井キャンパス
管理棟 2 階小金井学生生活課内
〒184-8584
東京都小金井市梶野町 3-7-2
TEL:042-387-6041
FAX:042-387-6201
Mail:kgakusei@hosei.ac.jp